なんで娘（あたし）が後始末w・・・orz 【異世界編】

M2-1015

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
なんで娘(あたし)が後始末ｗ・・・ｏｒｚ　【異世界編】

【Ｎコード】
Ｎ７４９０Ｗ

【作者名】
Ｍ２－１０１５

【あらすじ】
偉い神様が壊れかけた２つの世界をまとめて救おうとその世界をくっつけちゃいましたが、失敗しちゃって　はちゃめちゃ親子とアメリカ海兵隊員が神の手により異世界へ召喚！

あたしと親父は父子家庭　でもこのオヤジはハチャメチャで娘命！
そんな親子がマリンコさんたちとサバゲ（と言う名の実践訓練！？）をしてたらいきなり別世界へトリップ！？この世界を救ってだって！

異世界で巡り会った仲間も優秀ではあるが　ある意味残念な方たちで・・・

「魔物はいらっしゃるは魔法はあるは、あげくのはてに恐竜まで？でもほんとにやっかいなのは親父さまなんです！」

苦労に苦労を重ねてる娘は幸せになれるのか！

薄幸の美少女に愛の手を！

作者の実体験？も脚色して書かれたアップテンポの親子掛け合い漫才ギャグ小説です＾＾

1話　涙のオープニングｗ（前書き）

偉い神様が壊れかけた2つの世界をまとめて救おうとその世界をくっつけちゃいました
が、失敗しちゃって　はちゃめちゃ親子とアメリカ海兵隊員が異世界へ召喚！
現地で知り合った仲間は優秀だけどちょっと残念な人ばかり・・・
「魔物はいらっしゃるは魔法はあるは、あげくのはてに恐竜まで？でもほんとにやっかいなのは親父さまなんです！」
苦労に苦労を重ねてる娘は幸せになれるのか！
薄幸の美少女に愛の手を！
残酷な表現やチート、下品な表現が多々あります
苦手な方はスルーをお願いします
ギャグの表現等もみたことがあるような表現があると思いますがオリジナルの小説です

こんな世の中なので皆様に笑いをお届けしたいと思い投稿しました
＾＾
明るい世の中になりたいですね！

1話　涙のオープニングw

「ううw・・・今のなんだったの？・・・」

あたしは親父さんとアメリカ海兵隊（マリンコ）のみなさんと一緒に
東京は福生にある横田基地の南端で　拠点強襲訓練（サバイバルゲーム）をやってたんですが・・・
なんかいきなり視界が　ぐにゃ～ってなったと思ったら目眩が・・・
あたしは周りを見回して・・・

「！・・・なに？この空・・・」

「・・・しらない天ｊｙ「あふぉかー！（ぱからーん！）」ふげっ！」

あたしはいつもの突っ込みで父親の後頭部をひっぱたく・・・ええ、ひっぱたきますとも！

「よし！ワンモアね＾＾・・・どこなんだ？・・・真っ白な空ｋ「おい！（パシーン！）」うげっ！」

さらにスリッパで頭頂部をおもいっきりジャストミート・・・ええ、ミートしますよ！

「んじゃ気を取り直してもう一度・・・神さｍ「つぎはないよ（ニコ＾＾）」すいませんでした！」

まったく！このオヤジは・・・なにがなんでもテンプレしたいのかい！
こいつと一緒にいると碌な目にあわんｗ・・・

それにしても・・・この空はいったい如何した事か・・・
いやな予感満載です（親父がいるので当社比２００％ＵＰ！）

「なんで空が３色に分かれてるの～～！またあたしが苦労するの～～！」

あたしは（ｏｒｚ←このかっこで）めっちゃさけびましたとさｗ・・・・ｏｒｚ

「なんで四つん這いで挫けてるんだ？」

「兄貴～～ｗこの状況でよく落ち着いて・・・いられる人だったわｗうん納得・・・」

親父がにっこりとした顔であたしに落ち着いた声を掛けてるんだが（あたしゃ涙目だぞｗ）
あたしゃそこまで親父みたいに人生を達観できません　ええ！出来ませんとも！

あ、ちなみに兄貴って呼んでるのは　物心ついた時から「兄貴って呼べ」って
毎日のごとく催眠学習なみに繰り返された結果です・・・
もっとも反抗する意味で心の中では「親父さん」もしくは「オヤジ」って呼んでますが＾＾

「ハイハイ！二人とも！親子漫才はそのくらいにして状況を確認しません？」

オヤジとあたしは声のする方に顔をむけｔ・・・

がばっ！

いきなり抱き付かれたんだが・・・

「お、お、お兄様？いきなりなにをされやがっていらっしゃいます？（、Å｀＃）」

おやじが突拍子も無いのはわかってるんで
額にあおすじ（＃↑こんなの）立てて睨み返してやたよあたしゃ！

「だって、涙目で不安そうな顔してるんだもん！（ＴωＴ）ウルウル」

あたりまえだろ！いきなり目眩がして立ち眩んで　目を開けたら周りの景色が変になってるし
・・・あれ見て見ろ！空なんか3色に分かれてるんだぞ？

それにだ！もん！ってなんだ　もん！ってｗ・・・あーｗ！４０とっくに過ぎてるだろ！

「いや　ハタチと６７０ヶ月と１４日だぞ？（｀∀、）σケラケラ」

「心の中を覗くな！」

「んじゃ、ぱんつのなかをのｚ「死にたいの？（ニコッ＾＾＃）」
ごめんなさい！」

ズザーっとはなれてペコペコと土下座する親父さん・・・
つ、疲れるわwこのクソオヤジ！

「で、いつもの親子漫才は終わったのかな？」

はっ！忘れてましたよ
今の声の主は横田基地に来ているアメリカ合衆国海兵隊のモブA・・・
・ゲフン　ゲフン・・・
えーと、ジョン・フレデリック中尉さん。
少しもどって最初に声をかけてくださったのが同じく海兵隊のんーと、レティショ？レティシャ？あ！そうそうレティシア・フォンダ少尉さんだ＾＾

少尉さんは良い人でレティ（いつもはこう呼んでるんでちっとど忘れ）とあたしは親友です！
んで、さっきまでサバゲと言う名の拠点制圧訓練？をやっとりました！

でもレティwちっと言わせて・・・絶対ゲームじゃないよね？これ！・・・
スモークグレネード投げてくるとか！ストーキングで後ろからナイフアタックとか！

海兵隊の皆様ってば　めっちゃマジなんだもん！
まあ、親父さんと来た時点であきらめてはいましたよ？・・・毎度の事だしw・・・

「うーw親子漫才じゃないですよw・・・見てないで兄貴から助けてくださいよw・・・」

「あら＾＾いつもあなた達ってこんな感じじゃない＾＾うらやましいわ　クスッ＾＾」

うー、レティったらwいつもからかうんだよね　あたしと親父を・・・

お?ジョンさんがマジな顔をしてレティの所へ・・・まあ異常事態だもんね～w・・・
おー軍人っぽいぞジョンよ!

「よし!アテイション!とりあえず現状確認だ・・・少尉!基地内の人員確認と安全確保を!」

「イエッサー!」

「その後は使えそうな物資を空いている格納庫にそろえてサバイバルの準備!」

「イエッサー!」

だよねーこっからみえるまわりの町がほぼ無くなってるんだもん
福生方面は国道16号近辺しか建物なくなってるしその後ろは熱帯のジャングル?って感じだしw

武蔵村山方面は森？ってか森林って感じ。
多分だけどほぼ南北で空が分かれてるの。
西（福生方面）は緑？っぽい青（ぶきみｗ）、東（武蔵村山方面）は、とーっても澄んだ青！（きれー＾＾）
んで基地の真上だけは今まで通りの東京のくすんだ青空なんだ。

レティはその場にいた隊員（６～７人くらい？）に「ついて来い！」って言って
三台のジープ？（後で兄貴に聞いたら『ハンビー』って教えてもらった）に分乗して
基地内の確認に出かけていっちゃった・・・女の子一人になってちっとさみしいかな？

がばっ！

「んだから！おまいは！いきなり！抱きつくなって言ってるだろーがー！！」

あたしはそばに立て掛けてあるＭ－６０をぐいっと掴み　腰だめにかまえて（この間０．８秒）

ＢＡＢＡＢＡ

ませんでしたー！」

「兄貴ってば！ほんっとにいきなりはやめてね！」

「わかった・・・今度からは許可をえｔ「んー？（ギロッ！！）」
もうしませんｗ」

「ヘイヘイ！こっちまでＢＢ弾が飛んできたぞｗ・・・」

「あっジョンさんごめんなさいｗｗｗ・・・」

親父のせいであたしがジョンさんにあやまるｗ・・・

ふーｗ・・・いーっつもこんな感じで親父の尻拭いや後始末ばっかりｗ・・・
ロサンゼルスに行ったときもスミソニアンにいったときもヨーロッパ、中国、ベトナム、その他もろもろ
日本に居たって（ｒｙ

あ、そうそうココだけの話なんだけどさ　みなさんには事実を教えちゃいます
親父とあたしの過去のエピソードは５割方ノンフィクションなのだよ＾＾
ええ、ええ、実話てんこ盛りですとも！
そのうち（たぶん）書くとは思うけどうちの父さんは・・・んー良く言えば行動力有り？積極的？
悪く言えば考え無しに本能のままトラブルに突っ込んでく？
いやいや、ありゃトラブルから寄って来るってほうが正しいかな？
思い出したら涙が・・・ｏｒｚ

ありゃ？あたしまだ名乗ってないよね？
そう言えばモブ（失礼だな）とフレンドの二人しか名前を出してなかったなw・・・
ごめんなさいですw・・・（ちょっと反省wシュン・・・）
とりあえずわたしの自己紹介や現状を次回に？説明しよっか・・・
（そろり・・・そろり・・・）

がばっ！

「だーかーらー！いちいち抱きつくな～～！！この○×△オヤジ～～！！！」

まったくw・・・

あたしが弄(いぢ)られるのって毎回つづくんですか？・・・

ねえ　聞いてますか？・・・作者さんw・・・・・・・・orz

1話　涙のオープニングｗ（後書き）

どーもです＾＾作者のＭ２－１０１５です
今回はさわりの部分を少しだけ書かせてもらいました
第２話からギャグてんこ盛りでテンションを上げていきます＾＾
次回は基地の状況と簡単なオープニングメンバーの紹介です
徐々にですが作者の実話も取り入れて臨場感を出したいと思います

初投稿で四苦八苦してますが生暖かい目でみてやってくださいね＾＾
応援を宜しくお願いいたします
では＾＾ノ

2話　涙のアメリカ　レティとの出会い　前編（前書き）

娘「どもー！今回でわたしの名前が出るんだよ～＾＾」
レティ「私との初対面もですね～＾＾（ふふふ＾＾ヒロインはもらった！）」
ジョン「ん？レティなんか笑いが黒いぞ？」
レティ「あらやだジョンったら＾＾そんなことないわよん」
父「↑兄貴と呼べー！」
娘「あれは無視の方向で＾＾」
レ、ジ「「ＯＫ～＾＾」」
父「い、いいもん！今回は本編でおにいちゃんって呼ぶらしいから！」
娘「え！やだ！あの頃の話だすの？・・・そかーレティとあった頃はそーだったっけｗ・・・えーレティ編はなくなりました！＾＾」
レティ「うそん！（私のヒロイン計画がｗ！）」
父「あー、ところで俺の名前も出るんだよね？」
娘「・・・」
父「でるんだよね？」
娘「あー暑っ苦しいんだからくっつくなってばさ！」
ジョン「あーあ、また親子漫才はぢまったよｗ」
レティ「いーなーうらやましいわ・・・」
娘「いやいやｗうっとおしいだけですから！」
父「しょぼーんｗ」
娘「口でいってるし！・・・ってそろそろはぢまるみたい！」
娘「今回はわたしの実体験もまぢります！よろしくね～＾＾」
全員「「「「では後書で会いましょう！」」」」

2話　涙のアメリカ　レティとの出会い　前編

「・・・しらない天ｊｙ「とーう！（ぱかーん！）」えばぁ！」

「兄貴！それ前回やった！ほんっとに兄貴はくどいしシツコイ！」

「おや？１８年も一緒にいて俺のしつこさに気づかなかったとは・・・ちなみに俺のしつこさは中国本土の裏通り安物料理よりしつこいぞ？」

「ｗｗｗ聞いてるだけで油酔いしそう・・・（ｏｒｚ）」

まったく！親父の相手してるとほんっとーに話がすすみません（ちっと涙目ｗ）・・・もう無視無視！

がばっ！

「うｗ！兄貴！はなせ！・・・たのむから　は・な・せ・！」

「むかーし昔のおはなしじゃ・・・あるとｋ「このー！（ばきっ！）」へぶらっ！」

「はあはあ！その話すじゃねー！なぐるぞ！」

「ぐーでなぐってから　なぐる　って言われても・・・」

あーｗ・・・さっそくぐだぐだｗでも泣かないもん！・・・グスッ・・・ｏｒｚ
（ソロリ・ソロリ・・・）
は！兄貴！チカヨルナ！・・・あぶねー・・・またハグされるところだった～～

「兄貴は罰として今回は脇役だかんね！」

んじゃ前回のつづきでわたしの自己紹介しますね～＾＾
まず名前ね！神谷（かみや）真琴（まこと）で～す＾＾
歳はぴちぴちの１８歳！（まあ、もう直ぐ１９歳なんですがｗ・・・）

父親とわたしの父子家庭です（おかあさんはわたしが４歳のときに死別してます）
あ、もうふっきれてるから心配は無しね＾＾
（親父の世話で落ち込む暇が無かったってのが正解かな？そこは兄貴に感謝！）

趣味はお料理かな＾＾（親父の方が上手なのはこのさいおいとく！）
イタリアンと煮物が得意です！
あーあーｗこんなけなげな美少女に彼氏がいないなんてｗ・・・泣くぞｗ

「俺に勝ったら付き合っても（手をにぎるだけね）良いぞ！ははは

ははははは！」

とかマジ言ってるからね～ｗ
（うん、親父のせいだね！あれに勝てる若者はそうそういないからね～ｗ）

身長は１６１ｃｍまあふつう？
その他のデーターはノーコメント！
太ってはいませ～ん＾＾ビバ！ナイスバディ（本人談）で　すれんだーで～す＾＾

そんで現在わけあって高校二年生なのよ＾＾
中学入ってから親父にいろーんな国に・・・ええ、そりゃもうがんばってたくましく
命のかぎり乗り越えてきましたよ！・・・まさに命の海外留学って感じで！

まあ、海外に行くってんで　ちょくちょく休学してたのが原因ですな・・・
（その元凶は親父さまなんですがｗ・・・あーあっちでニヤニヤ見てやがる！・・・よし、後でおしおきだね・・・親父さま唯一の弱点、足裏くすぐりの刑にけってー！＾＾）

今住んでる所は　東京都下の八王子ってところ＾＾一応市内は都会？っぽいかな＾＾
いやーでもねー盆地なモンで夏はめっちゃ暑いしｗ、冬はめちゃんこ寒いのよｗ
親父さんは良い訓練って言ってエアコン無しの部屋です！
わたし？もちろん当然です！エアコンあります！へへへ＾＾

あとねーうちって先祖代々の武家なのよ・・・
わたしのおじいちゃんって　めっちゃ厳しいかったの！マジ泣きはいったもん・・・
まあ４年ほど前にポックリ逝っちゃったけどね・・・作法以外はやさしい好々爺でしたけどね＾＾
で、親父さんはめっちゃ厳しくされてたんだって！
武家修行ってやつ？

そうだ！みなさん冠婚葬祭の「冠」ってなんの儀式か知ってます～？
正解は武士の成人式？（でいいのかな？）なんだって～＾＾
１５歳でやるらしいよ（んーゲンプクの儀？だったっけかな？）
もちろんうちの親父さまも神社でやったらしいですよ？・・・

でも親父さんは武家の儀式が嫌だったらしくて

「俺の代で小難しいことは終わり！」

ってなもん・・・せいせいしてるらしいよ（この辺実話ね＾＾）

ただねー困ったモンで剣道だけはやらされたよ・・・
護身と鍛錬だってさーｗ・・・まあ何年か前に初段は取ったけどね～
初段とってから昇段試験うけてないから今ってどのくらいの実力かはわっかりません＾＾
今でも親父さんには教えてもらってるけどねー

で、おやじさん　剣道は四段なんですよ！
本気でやられたらマジで痛いんです！
段が１コくらいの違いならわたしでもそこそこやれると思うんです！
これが初段と四段だとね～ｗ
ほんっと子供と大人、三輪車とダンプカーってなもんですｗ

だからマジで試合すると防具をつけてもね～ｗ
例えば面（頭ね）をきれいに入れられるとそりゃもう脳震盪もんですよ！
小手だってそうです一発入ったら痛みでしびれて竹刀なんかもってられましぇーん＾＾（実体験よ）
ん？みなさんも経験したい？んーそうですね～
最寄の警察署で剣道場があれば体験できるかも＾＾たのも～！ってな感じですな＾＾

んで結構なあんばいで親父さまには今でもきたえられているってなもんです＾＾

そして！運命のレティとの出会い！と言うほどのインパクトではなかったかな？
その他のインパクトが大きすぎてｗ・・・
まあ、レティに対してもある意味インパクトはくらったんだけどね～・・・
でもそのインパクトは正直言って忘れたい思い出だしねｗ・・・あ、ちょっと凹んできたぞｗ・・・
（レティごめん・・・レティの事あんまし書けないかもしんないｗ）

それは中学一年生の夏休前のことでありました！
親父さまがいきなり部屋に来て

「おーい真琴、夏休みの４０日間アメリカ本土に行くぞー」

って言われましたがな！

え！え！マジですか！海外旅行？いきなりのアメリカ本土！

初心者向けのグアムやハワイじゃありませんよね！

はぢめての海外がアメリカ本土！やった～～！

ってことは「ディ・・・ねずみの国」や「ユニバー・・・映画の遊園地」やハリウッドとか！

ワクワクってなもんです＾＾（この辺は実話ね＾＾）

（パスポートは中学に入るときに親父様と作りに立川へ行きました

おひるに食べたお寿司！と～ってもデリシャスでしたね～＾＾あ！回ってないおすし屋さんもはぢめてでした！まる！）

この時　あたしゃーうかれてましたね～　・・・ええ、うかれてましたとも！

んで大事なことを忘れてました・・・この旅行が親父さまと一緒だとゆうことを・・・ｏｒｚ

出発前のショッピング！あ～楽しい～～お父さんが天使にみえます＾＾

もちろんお約束の水着も買いました！

（ちょっぴり背伸びして　はぢめての　ビ・キ・ニ！しかも黒！はずかしー／／／）

いよいよ出発です！成田までは車で＾＾２時間くらいだったかな？

車を預けて空港ロビーへ＾＾

わ～広～い！

カウンターでチェックインしました

さてX線検査です＾＾わくわくしながら通りました・・・なにも鳴りませんでしたw・・・くすんw
出発ロビーで軽く昼ごはんを食べます
そして搭乗です！おおお！すっちー金髪だぞ～！背も高い～！
座席についてお父さんからのフライトレクチャーです
へ～救命胴着って最後はくちでふくらますんだ～

成田から飛び立つこと1時間で飽きましたよw・・・ぶーぶー
滑走路から飛び立って上昇しているときはわくわくでしたがw・・・
あ！ちなみに上昇中は気圧で耳鳴りがするそうです
お父さんはガムを噛むとなりずらいよって教えてくれてたのでわたしはへーきでした！
お父さんが言うには後9時間くらいかかるそーですw

もうご飯たべて寝ます！おやすみなさい～＾＾

つきました！アメリカです！ロサンゼルスです！ターッチダウン！
へへへ＾＾
お父さんの古いお友達が車で宿泊施設まで送ってくれるらしいです＾＾
アメリカの時間で今は朝の9時30分くらいですかね？

ロビーに行くとややマッチョ？なおぢさんがお父さんと握手しています
ありゃ二人とも英語でしゃべっとるw・・・なんかくやしい！
英語は学校でならいはじめたばかりなので
ほんとーに簡単な言葉しかわかりませんw・・・ほんとくやしいです！

「ハーイ！ガール！おじさんハ　ジョンいいま～ス！よろしくネ～
＾＾」

ありゃ？このひと日本語できるがなw・・・よし！ここはまかせろ！

「ぐっどもうにんぐ　みすたーじょん　まいねーむいず　まこと・
かみや　ないすとうみいちゅう＾＾」

さあ通じるか？どきどきもんですよ！

「ＨＡＨＡＨＡＨＡ！カミヤより英語うまいですネ～＾＾」

うw・・・これは・・・結構はずかしいぞw・・・／／／（真っ赤
になりました）

「オウ！シャイガールね！ＨＡＨＡＨＡＨＡＨＡ！」

「オイ！ジョンw・・・娘はやらんぞ！ほしかったら俺をたおせ！」

「無理ネ～wカミヤ相手じゃ良くて相打ちネ～」

そう言いながらお父さんはわたしをかばう様に抱きしめます・・・
／／／
（お父さん暖かいんだよね～／／／）

「オゥケイ　カミヤ　カモン　レッツゴウ！＾＾」

ジョンさんが車まで案内してくれるみたいです

・・・@@！・・・・は！意識がとんでましたよ！・・・瞳孔も開いてたはずです・・・
だって、だって、ジョンさんが案内してくれた車ってｗ・・・

「ん？真琴は知らないのかな？この車は軍用トラックって言うんだよ＾＾」

くっ！やられたｗ・・・お父さんが企画した旅行だったんだよｗ・・・ｏｒｚ

よし！ＯＫＯＫ心構えはできたぞｗ
もう驚かないからな！お父さんそのドヤ顔はもう二度と無いと思いなさい！

客室（ま、荷台とも言うらしいが）に上ります
両脇に椅子（まー板切れとも言うらしーがｗ）があり　奥になにか荷物？があります
客室の・・・えーい荷台でけっこう！つでに椅子も板でじゅうぶん！
荷台にはわたしとお父さんの他に４人の兵隊さんがいらっしゃいます

みなさん早口の英語なのでわたしは　ちんぷとんかんぷとんです＾＾
まーもっともトラックがうるさくてほとんど聞こえませんがｗ
防音？なにそれ？ってな感じなんですね荷台ってｗ・・・

さてトラックは山のほう（東の方？）にむけて快調に走ってるんですが・・・
お父さんが言うにはかなりりっぱな宿泊地らしいです＾＾楽しみ～＾＾

（宿泊施設はサクラメントって町の近くらしいです）

宿泊施設までトラックで走るだけなので道中は省略～～！
w・・・親父がニヤケ顔でこっち見ながら催促してるw・・・わかった！ちゃんと報告します！
（後で絶対にくすぐってやるw・・・乙女の恥をw・・・）

山に入ると回りは砂漠？って感じです・・・砂ぼこりがw・・・
山の上には人造湖があってブラックバスのフィッシングができるらしいですよ
それにつけても何ですかこのビニールを巻いただけの板ッ切れはw
！wwwお尻が痛いですw
なんなんですかねこの拷問はw
（お父さんとジョンさんにはおしおきをしなくてはw！・・・うらみは忘れません！）

さてさてお腹がへってきましたね・・・お？奥の荷物を黒人の兵隊さんがあさってますね？

ん？わたしにプラスチックのＢＯＸをわたそうとしていますがw・・・？
かろうじて「ランチ」と言うのがきこえました！
わたしは日本語でありがとうって言ってしまいましたが
通じたみたいです！ニコってわらってくれました！

別の兵隊さんがクーラーＢＯＸから飲み物を出しているようです

おとうさんが教えてくれました
わたしたちを空港で待っている間にお昼ご飯を買出しにいってくれてたみたいです＾＾

・・・@@・・・は！また目がめっちゃ開いてしまいましたｗ・・・
（お父さんはまたまたドヤ顔です・・・ｗｗｗく、悔しい！）
だって、だって飲み物のサイズが！どう見ても形は日本のハンバーガー屋さんの同じです・・・がｗ
１～１．５リットルは入ってますよ！なにって？コーラがです！
ｗｗｗこんなに飲めませんよｗ・・・
さて食べ物はなんでしょうね？・・・ＢＯＸを開けます・・・！！

・・・@@！・・・は！またｗ・・・砂ぼこりで目が真っ赤になりますなｗ
だーってｗ・・・おおきいんです！なにって？ハンバーガーですよｗわたしの顔にちかい大きさですｗ
（お父さん！わかりましたからニヤけたドヤ顔はやめてくださいｗ！）

結論です！ハンバーガーは日本で食べましょう！これ実体験です！
（多少高めのレストランならまだそこそこたべられますが・・・）
パン？はぼそぼそ・・・ミートパテ？は味が無くてゴム？だったりラード？だったりｗ・・・
わたしは半分も食べられませんでした・・・

（半分でも日本のハンバーガー2～3個分はありましたねw）

そして食後の地獄のトラック・・・うw！振動でw・・・リバースマウンテンがやばいです！

ええ、ええ、みなさまのご想像通りですよ
某マレーシアの某マスコット？あの石像みたいになりました・・・
真っ青になってw
横になったマーライオンですね・・・orz

まーその後は助手席におじゃましまして多少はよかったんですがあいかわらず椅子はだめだめです！お尻が痛いw・・・

いつのまにか眠ってました時差ぼけってやつですかね
寝ているうちに宿泊施設についたみたいですね

お父さんがお部屋のベットまでわたしを運んだらしいです・・・お姫様だっこで！

夕方になりあたしは目が覚めました・・・がちょっとぼーっとしています
しばらくぼーっとしていると寝室のドアが「コンコン」とノックされています
お父さんなら「だ、だ～れ～・・・ここは警察じゃないよ～w」とか言ってるところです
ごほんっ！わたしはそんな事言いませんよ？ほんとですよ？

おぼえたての英語をつかいます

「か、かもん！・・・かむいん！・・・うえるかむ？」

これでよかったんでしたっけ？わたしてんぱってます！

がちゃ・・・ドアが開きました

・・・@@！！・・・は！女の子ですよ！金髪です！スタイルいいです！そして美人です！

あたしより１０～１５ｃｍは背が高そうです！

さすが肉食の国！・・・二十歳くらいかなあ～・・・おもわず見とれてしまいます

「コンバンハ・・・ワタシはレティィいいます＾＾」

めっちゃ日本語やん！・・・このコテージの従業員さんなのかな？

「こんばんは　わたしは　真琴、真琴・神谷です＾＾」

ニコッとほほえみます

これがレティとのはぢめての出会いでした＾＾

お父さんが部屋に来ました
レティはお父さんを見てしばらく固まってましたが・・・？
顔を真っ赤にしてベットルームから出て行きます・・・なんで顔赤いんだ？
するとちょっと立ち止まって

「お嬢さん　ディナー・・・夕ご飯できます・・・ダイニングへカモンです・・・カミヤもネ／／／」

おー夕ご飯のお呼び出しですか・・・ん？お父さんの知り合い？・・・クウゥゥ・・・ありゃ・・・／／／／
お腹が鳴ってしまいましたｗ／／／

「真琴もハラへったか？＾＾具合はどうだ？食えそうか？」

「うん！もう大丈夫＾＾おなか空っぽだもん！」

「だよね～一人マーライオンだったもんね～＾＾」

「う、うるさい！・・・おにいちゃんってばうるさいよ！」

あ！しまったｗこの回想ではおにいちゃんって呼ぶのは隠そうとし

てたんだｗ・・・やっちまったよｗ
うｗ・・・中学生までは親父の事　おにいちゃんって呼んでだんだよな～ｗ
・・・われながらみごとな黒歴史・・・あ、凹んできたｗ・・・ｏｒｚ

ううう・・・あっちで親父さんがこっち見ながらめっちゃドヤ顔してる～ｗ
よし、レティが基地の偵察からもどったらＭ１６Ａ２・・・いやミニミで蜂の巣にしちゃる！
ふふふふふ・・・たっぷり踊ってもらうぜ！親父さんよぅ！

さ～嫌な事（マーライオン事件ね）はすっぱり忘れてごはんだ～＾＾

お父さんとダイニングにいきます・・・なんかふつうの家みたいだな～・・・
ダイニングには怖そうなおじさんとさっきのレティさんがすわっています

あれ？レティさんって従業員じゃないのかな？
わたしは頭の上に？マークを５個は浮かべてたんじゃないでしょうか

おじさんが立ち上がって言いました
お父さんの肩をバンバンとたたいてます

「我が家へようこそ！カミヤ元気だったか？＾＾」

・・・@@;,・・・・え?.え?.え?.・・・再起不能です・・・
・・・@@・・・・・・・・まだ思考が追いつきません・・・・・・
?.?.?.?.?.?.?.?.?.?

は!ここはお父さんに聞くところだ!お父さんに振り向きます

うw・・・お父さんはこっち見てめっちゃドヤーって顔してるぞ?・・・またもやはめられた?

「おにいちゃん?怒らないから説明プリーズ!」

「えーと　ここはおにいちゃんの昔ながらのお友達のお家さ^^」

「え?.え?.コテージとか貸し別荘じゃないの?」

「うん^^お友達のお家^^」

やられた・・・もろにくらいましたよおにいさまw・・・orz

「こんばんは!カミヤの娘だね?はじめまして!私はレオナルド・フォンダだ!よろしくな」

「あ・・・真琴です・・・真琴・神谷です・・・おせわになります」

「ん!これから1ヶ月自分の家だと思ってくつろいでくれ^^リトルガールさん^^」

「む！・・・これでも１２歳です！小学生ではありませんのでリトルはやめてください！」

ああああ・・・しまったですｗお父さんにむっときていたので思わず反論してしまいましたｗ・・・
ごめんなさいフォンダさん・・・ん？・・・なんだ？・・・ん？・・・
フォンダさんとレティさんが固まってるぞ？・・・ん？なにか変なこと言ったかな？

「マコト・・・１２歳って・・・ほんとなの？」

「うむ・・・わしもビックリじゃわいｗ・・・」

「おう！真琴は俺のりっぱなマイレディだぞ！＾＾」

ふふんっってふんぞりかえるおにいちゃん
まだ固まってるアメリカ人のお二人・・・
そーですかそーですか見えませんか中学生に・・・ぷんぷん！

「レオ　そのくらいにして飯にしよぜ」

あれ？お父さん？怒ってる？・・・ぱっと見じゃわかんないけど・・・なんでだろ？
（この時はわたしも知らなかったんだよねーｗ親ばかズの娘第一主義をさー・・・ｏｒｚ）

2話　涙のアメリカ　レティとの出会い　前編（後書き）

真琴「はーい！わたしの名前は真琴でした～＾＾」
レティ「私の出番・・・これだけ？」
ジョン「俺だってあれだけか？」
真琴「モブはいいの！また紹介って名前のいぢられがあるから＾＾」
父「・・・・・・・・」
真琴「あちゃ～ｗ・・・すねちゃってるよ」
レティ「わたしがカミヤの名前を・・・」
ジョン「ダメだ！やめるんだ！」
レティ「どうしてよ・・・カミヤかわいそう・・・」
父「・・・・・・・・」
ジョン「ミニミで蜂の巣だぞ？真琴ならやりかねんｗ」
レティ「うｗ・・・確かに・・・」
真琴「兄貴？・・・ん？あれ？・・・もしかしてにやけてる？」
レ、ジ「「はい？」」
父「はははははははははは！・・・ぷっ・・・おにいちゃん・・・ぷっ！」
ジョン「やばい！レティ逃げるんだ！ハリーハリー！」
レティ「カミヤも！とっととずらかんないと！ほら！早く！」
真琴「オヤジ～～ｗいっぺん死んでみような＾＾」
ジョン「真琴も落ち着いて・・・ってＭ２！Ｃａｒ５０！カミヤはやくあやまれ！」
父「ぷぷっ・・・おにいちゃんだってｗ・・・ぷぷぷっ！」
真琴「死にさらせやー！くそおやぢー！」

えー今回はちと長くなりそうなので２回にわけます＾＾

次回はレティとの出会い後編です
その次はテンプレで神様かな～ｗ
冒険はもう少し後ですかね＾＾
みなさんに笑顔が訪れますように
では＾＾ノ

3話　涙のアメリカ　レティとの出会い　後編（前書き）

真琴「やっほー！＾＾」
レティ「どーもー＾＾」
ジョン「・・・つ、疲れたｗ・・・」
真琴「あれ？兄貴はどこいったのかな？」
レティ「ああ、あっちでいつもの娘自慢をダディとやってるよ」
真琴「うん！よし、ほっとこう」
ジョン「・・・そして俺はスルーですかｗ・・・」
真琴「ジョンサンハ　ナンデツカレテルノカナ？」
レティ「あら・・・真琴？セリフが棒読みよ？」
真琴「いやー、なんか聞いてはいけない予感がしてね＾＾」
ジョン「前回の後書で　真琴ってばＭ２重機関銃ぶっぱなしてただろ？」
レティ「・・・気持ちよ～く撃ってたわね・・・」
真琴「おほほほほほ！私、記憶にございませんですよ？＾＾」
ジョン「あれの後始末を俺１人でやってたんよｗ」
レティ「あー、それは確かにつかれるわ・・・」
真琴「おほほほほほほ、なんのことやら？＾＾」
ジョン「ふーｗ・・・やっぱり親子だなｗ・・・」
レティ「そうね、ある意味にてるわね・・・」
真琴「へ？ないない！絶対無い！ありえない！」
ジョン「いやいや・・・無自覚だったのか・・・」
レティ「そうね、類友ってゆーか、朱に交わって真っ赤かになったわね」
真琴「ガーン！」・・・・・・ｏｒｚ

ジョン「ありゃ？こりゃしばらく固まったままだなｗ・・・」
レティ「（は！主役交代？）わ、わたしがんばる！！」

ジョン「ん？レティなんか黒くないか？」（ここんとこ多いな黒レティが？）

レティ「では　みなさん！私が主役のレティ編、後半のはじまりでーす！＾＾」

3話　涙のアメリカ　レティとの出会い　後編

ははははは・・・（↑乾いた笑い）
もうね、目から光も無くなっててねｗ・・・これって瞳孔がひらいちゃってる？
そんでもって　ここって普通のリビングだよね？（これってあたしはリビングデット？）
なぜに　わたしは水着をつけてリビングでポーズをとっているのでしょうか？

「・・・なんで　こーなった？・・・」

は！いやいやいや！こんなテンプレな出だしってお父さんと同じじゃん！
前書きでも似たもの同士って言われてるのに・・・あ、凹んできた・・・ｏｒｚ

うん、なんでこーなったか説明しないとね・・・あんまりしたくないけどねｗ・・・

前編でさ　夕ご飯を食べ始めたところまでは平和だったんですよ・・

・ええ、そこまではね・・・

ただねーほら、あたしって少しだけ胃をおかしくしちゃってたでしょ？・・・ん？知らないって？
あー！もう！トラックで酔ってマーライオン状態！
って乙女に言わせるな！まったくw・・・思い出してくれました？

で、目の前のテーブルなんですが・・・みごとに　肉！肉の山盛り！・・・肉のアートだったですw
まあ、お腹がすいていましたので食べましたよ？
うん、スペアリブはおいしかったね！
ただねースペアのリブちゃんなんですが・・・子牛さんの片腹一枚分なんですよ・・・
わたしの胴体ぶんくらいありましたかね？（このへん実話ですよ？）

あたしならば　あばらを1本食べればそりゃーまんぷくですわな・・・

でもお米かパンか野菜がたべたい・・・たぶん日本人ならそう思いませんか？

んで周りを見渡すと・・・フレンチフライ（日本で言うフライドポテトね＾＾）しかないしw・・・
パンすらないとは！おどろきです・・・

お父さんとフォンダさんは樽？でビールあびてるし・・・
レティさんは・・・はー？もりもり食っとるがな！しかもジュース

がぶ飲み！
うw・・・あのですねーこのジュースなんですが　めっちゃ甘いんです！
ええ。ええ。砂糖水か！ってくらいにねw

まあ、とーっても健康？と消化？に良い？お食事はとっととすませました＾＾
うん　台所の主導権をうばわねば！
今はレティさんがやってるそうですね・・・早速レティさんにおねがいしましたよ？

なんでもレティさんのお母さんは海外出張で中東？のあたりでお船に乗船しているそうです！
すごいですねー

フォンダさん一家は細かいお料理をほとんどしないらしくて
あたしがいろいろとレティさんに教えながらお料理を作りたいことを伝えると
レティさんも日本食にあこがれがあったらしく二つ返事で了承してくれました＾＾まる！

食事が終わったと思ったらデザートなんですって＾＾らっきー！って思いましたよ
ええ、このときはねw

デザートはバニラのアイスクリーム！ってかなんで？小どんぶりサ

イズの器なんですか？
まあ食べますけどね・・・

でっかいスプーン（日本で言うカレースプーン）でアイスクリームをひょいとすくいます・・・
すくいま・・・すくい・・・ん？ん？ん？・・・なぜ？のびる？
ジェラート？・・・いやいやいや！・・・いやな予感びしばしきましたよ？

ひとくち食べました・・・ｏｒｚ・・・みずあめです！まさに！
バニラ味のひゃっこいみずあめです！
アメリカ人が太る訳だ・・・うん、このアイスは無理！（この辺も実話ね）

レティさんの腕をつかんで台所へぐいぐい進みます

・・・@@！・・・は！固まってしまいました・・・
だって、でかいんです　巨大なんです！・・・なにがって？冷蔵庫ですよ！
こんなの日本じゃそのへんの料理屋だっておいてないです！
ホテルとか？たぶんそのくらいじゃないとおいてないと思われます

なかを開けると案の定・・・みなさんの想像通りです！
ええ、ほぼ肉ですねこれは・・・まあ、たまごとかミルクはありましたがね

後は野菜と穀物ですね・・・・・・・・・ジャガイモしか無い・・・
ｏｒｚ

まあ、コーンフレークとシリアルがみつかった時は神に笑顔で祈りましたね・・・マジで＾＾

とりあえず、明日の朝食の確保は万全ですね＾＾
レティさん食事当番わたしにまかせてくれてありがとー！＾＾

リビングにもどると・・・ありゃ？お父さんとフォンダさんが取っ組み合ってますね？なぜ？
あ！そう言えばお父さん夕食前に機嫌が悪そうでしたね・・・

レティさんを見上げると・・・あれ？なんで生暖かい目で微笑んでるんでしょう？

「ああ、マコト　心配しないでもＯＫですョ＾＾いつもの事ですからネ」

「お！真琴　戻ったか＾＾こっちこい！レオに真琴のすばらしさを見せてやろう！」

「ふん！望む所さ！レティ、ダッドのところにおいで＾＾」

「マコト・・・ああなったらダディはとまらないワ・・・覚悟ヲきめてネ？」

え?え?え?・・・覚悟ってwなんですか!

お父さんに抱っこされてかいぐりかいぐりされながら放心状態のわたし・・・
お父さんはわたしの自慢話をしつづけています
フォンダさんもレティさんを横に抱きしめてしゃべりっぱなしw・・・
二人とも相手の話なんか聞いちゃいませんね・・・

は!逃げなければ!このままではまずい!・・・
それに日本を出てからお風呂に入っていません・・・汗臭いかな?・・・クンクン・・・

「おにいちゃん、あたしお風呂はいりたい・・・トラックでほこりだらけだし・・・」

「マコト、私とバスしましょうネ!・・・カモン^^」

OK!レティさんも逃げたかったのでしょう　あたしの手をとってリビングをでます^^
よし!エスケープミッションコンプリート!^^

お部屋にもどって着替えをださないと・・・おうw荷物もほどいていませんでしたねw・・・
レティさんも手伝ってくれると言うので荷物を整理します

ん？レティさん何ごそごそやってるんですか？

「わ～お！ベリーキュート！・・・これってマコトの水着ですカ？
＾＾」

「そうですよアメリカに来る前に日本で買いました＾＾」

「ぜひ！着てみてくだサーい！わたし、とっても見たいでス！」

「いいですよ＾＾でもお風呂がさきですね＾＾」

「では、着替えはこの水着でース！わたしも水着にするでス！」

上に何か着ればいいか？なんて簡単に考えたこの時のあたしにめっちゃ説教したいです！

レティさんのお話によると日本風のお風呂らしいんですよ！
これはとってもうれしかったですねー
しかもかなり広くてちょっとした温泉風呂みたいです＾＾

わたしはよろこんで　スパーっと真っ裸になり　お風呂へ突撃ー！

さーっと身体を洗って　ざばーっと流します＾＾
ん～～～！いきかえりますね～～＾＾
ザブン！と湯船に飛び込んでふりむくと・・・ふりむく・・・ふりｍ・・・

・・・@@！！！@@！！！・・・・・は！固まりました・・・ガン見してしまいます！

言葉になりません・・・大きいんです！でっかいんです！・・・・何がって？レティさんですよ！

胸です！バストです！乳です！おぱーいです！・・・・わたしが　か、完敗だとｗ・・・ｏｒｚ

（このおぱ～いとの出会いがあたしに一生消えないキズを残したんだよね～ｗ）

あれか？肉食が良いのか？カロリー過多が良いのか？

いやいやいや・・・それは太るだけだｗ・・・ｗｗｗ人種差別反対！日本人にもあの乳を！・・・

あたしは思いましたねアメリカ人に産まれたかったと！

ええ、マジで思いましたとも！

まあ、アメリカの食べ物は別ですけどね・・・

と言うわけであたしは現在カルチャーショックにて脳内ＵＰＵが過負荷状態ｗ・・・

お風呂場で固まってます・・・ｏｒｚ↑この形のまますっぽんぽんでｗ・・・

レティさんがあたしのそばで何かさけんでますね？なんなんでしょ？

いやいや！それよりもあたしのを育てる計画を考えねば！
アメリカにはまだ一ヶ月以上滞在するのですから　アメリカの秘密は暴いてさしあげましょう＾＾

あれ？レティさんいきなりあたしをお姫様抱っこ・・・
うわー！おぱーいがあたしのおなかに　ででーん！ってのっかってますよ！
どうすればあのように育つのでしょう？わたしはそのことばかり考えていました　まる！

あたしの癖？になるんですが深く考え出すと周りがまったくみえなくなるんです・・・
直さなくては　とは思っているんですがねｗ

ん？レティさん、あたしのからだを拭いてくれておまけに着替えまで！こりゃらくだ＾＾
よし、このまま発育について熟考しましょう＾＾

またまたお姫様抱っこではこばれていきます
レティさん大きな声でだれかにさけんでますねー？

ありゃ？お父さん？わたしは今レティさんに降ろされてその場にたっています
お父さんがあたしの手足をまげたりのばしたり？・・・

ん？なんか光ってますね？ぴかっ！ぴかっ！て感じです・・・
あたしの横にはレティさんがいますが・・・ん？ん？なんですかね？
ポーズとってますねレティさん・・・わたしもポーズとってますね？
あれ？レティさん水着ですね・・・マイクロビキニってやつですか
あれは・・・

お父さんがこっちむいて笑えって言ってます
あたしは無意識にスマイル＾＾
ピカッ！！・・・うっまぶしい！・・・ん？まぶしい？

は！現状を理解してしまいました・・・ｏｒｚ
レティさんはお風呂で固まったあたしを心配して着替えの水着をごていねいに着せて
お父さんたちのところにはこんでくれたんですね・・・
ここまでは良いのです！・・・が、しかし！

あたしをまっていたのは酔っ払ったお父さんたち・・・
それで娘の水着撮影がはじまったと・・・くｗ・・・一生の不覚ｗ！

まあ、しかたありません・・・もうかなりの枚数を撮られています
あとでフォトデータは完膚なきまでにはかいさせていただきましょう・・・ふふふ！

はやく終わって欲しいです・・・でもこれって娘自慢の勝負になるんですかね？

あたしゃせいぜい高尾山・・・かたやレティさんは大ロッキー山脈ですよ？・・・

・・・あ、・・・自分で言ってて凹んできましたｗ・・・

いやいや！まあみてなさい！１０年後のあたしを！レティさんくらいの歳になればあたしだって！

ん？フォンダさんがなんか言ってますね？

「レティ！１週間後の誕生日はなにかほしいものはあるのかな＾＾」

ありゃ？１週間後？あたしとおなじ日にちですね？

「そうだったな　レティちゃんはうちの真琴とおなじ誕生日だもんな！おれも買ってやるぞ？＾＾」

「うん！ハイスクール最初の１６歳の誕生日だから記念になるようにマコトと同じ物が良い！＾＾」

・・・@@！・・・え？え？え？・・・なんですとー！？

このビックなおぱーいであたしと3歳しか違わないですと！・・・・

もうだめです・・・

わたしのＨＰはもうゼロです・・・エンプティーです・・・ｏｒｚ

（この衝撃の事実であたしは水着のフォトデータを消すことを忘れ

ちゃってｗ・・・ｏｒｚ）

と言うわけで冒頭につながることになるんですが・・・ちと長かったですかね？

んで１週間後のプレゼントなんですが・・・ふーｗ・・・なんだったと思います？

レティさんにおまかせしたんですよ・・・あたしとおそろのプレゼント・・・

頂き物は・・・コルト社製のガバメント　デルタエリート　９ｍｍパラ　でしたｗ・・・

どこの世界に中学１年生の乙女に拳銃プレゼントしますかねｗ・・・

まあ、レティさんはお互いのネームが彫金されてるテッポを恍惚の目で眺めていましたが・・・

ここはやっぱりアメリカでしたねｗ・・・ｏｒｚ

おう！そうでした！忘れていましたね

ここがどこだか説明していませんでしたね・・・レティさんのお家？いやいや　そうではなくて・・・

覚えてますか？みなさん！・・・この旅行のコーディネーターがだ

れだったかを？

なんと！ここはアメリカ合衆国　海兵隊の陸上訓練基地だったのですw・・・
フォンダさん一家のレオナルドさんはここの副司令官さまでしたw・・・

ついでにお母様は　強襲揚陸艦？ってゆう軍艦にお勤めだそーで・・・

しかもヘリコプターのガンナー？まあ射撃手って言えばいいのかな？
そのガンナーをやっていらっしゃるとかで・・・ｏｒｚ

うん、アメリカってなんか違うっなて思いました！まる＾＾

えーと、思い出の（涙の？）アメリカ旅行のお話はまたの機会にいたしまして

だってｗこの次に体験した海兵隊キャンプ生活のお話までしてたら本編がまったく進みませんもん！

ふん！べ、別に　中学生時代の乙女のはづかしい秘密が世間にばら撒かれるのがいや！ってわけじゃないんだからね！

は！取り乱しちゃったよw・・・それから　あたしゃツンデレじゃないからね！ほんとなんだからね！

あ、そうそう、軍隊でキャンプって言うとね軍事訓練の意味合いになるんだってさ＾＾
あたしゃ一般で言う楽しいキャンプのイメージがあったから
あのときお父さんから

「みんなでキャンプいくぞー！」

って聞いたときは思わず喜んじゃったけどねw（学習しろよ！あのころのあたしw）

でもこの旅行？（ほとんど軍事訓練だったような気がするな～w）
から帰ってきてからだね
「兄貴」って呼ぶようになったのは・・・言葉使いも今みたいになったしね～＾＾
もっとも親父さんは

「真琴が不良になったー！おにいちゃんって呼んでくれないー！」

って一ヶ月くらいさわいでいたっけ・・・
あ、ちなみに親父さんのハグを避けだしたのもこのころだったかな？

って・・・また脱線してるなwあたしゃ・・・

よし！では！現実の横田基地にズームイン！

「はい！こちら超常現象に襲われた現実世界の横田基地です・・・
実況はわたくし、神谷義春（かみや・よしはる）が命を掛けてお送りいたします！」

フルで名前を出したぞーってうれしそうにこっち見ながらドヤ顔してますな・・・
まったく！このオヤジは！目をはなすと直ぐこれだ！・・・

「ご覧下さい！まわりの景観を！えーースタジオの真琴ｓ「ばかものー！（ばしーん！）」ふぇぶら！」

はあはあ！・・・こいつは！まったく！突っ込むのも疲れるんだぞ！

「おい！兄貴その手に持ってるマイクはどっからだした？あそこにある大型のＴＶカメラは？

そっちの照明器具はどこからもってきたんだ！？」

「ん？かってに出てきたぞ？」

「んなわけあるかー！脳みそになんか寄生でもされたか！ばかもんが！」

「ほ、ほんとだもん！よっちゃん　嘘いわないもん！・・・」

「よっちゃん言うな！きもい！あーチキン肌になるｗ！」

そうだ！モｂ・・・もとい、ジョンさんが見てたはずだよね？

「マコト・・・今、俺のことで失礼なこと考えなかったか？」

「いえいえ！（アセッ！）それよりジョンさん・・・あのカメラとか出てくるところを

見てましたか？どうせ兄貴がなんかやらかしたんだろうけどｗ・・・」

「いや、いきなり現れたね・・・うん、パッって感じで」

「は？ジョンさんはそんなの目の当たりにしてそのわりに落ち着いてますよね？」

「だって、カミヤだろ？」

・・・そうだったw・・・ジョンさんもオヤジの変態加減を知ってるひとだったよw・・・

いつのまにか後ろにいる二人の兵隊さんなんかは目を@@こんなにして固まってるのに・・・

ああ、あの二人の兵隊さん、非常事態だから武器とか装備をもってきてくれたんだね
さっきまではあたしと親父さんとジョンさんの3人だけだったもんね・・・

ジョンさんは早速装備を装着しだしてるね・・・ん?・・・あれ?
あたしたちの分もあるのかな?なんかいっぱい武器とかあまってるよね?
ま、それよりこっちが先だ!

「兄貴、ほんっとにあのカメラとか照明はどっからもってきたの?ん?

怒らないからあたしに教えてみそ?」

「うむ・・・実は、神谷義春って名前なんだ!だからおにいちゃんって呼んでくれ!^^」

「もう一回はたくよ!」

「その前にだ、おれからも真琴に質問がある・・・真琴、そのハリセンはどっから出した?」

え?え?え?・・・まてまてまて!・・・・ハリセン?・・・・ハリセン?右手をみると・・・

「え?・・・なんで?・・・なんでハリセンなんかもってるんだ?あたしゃ・・・・」

「ちなみにだ・・・第一話でもスリッパでひっぱたいてたよな?」

え?え?え?・・・うん・・・ひっぱたいてたね・・・確かに・・・スリッパで・・・

そろーと足元をみると・・・うす緑色してて先端にWCとマジックで書かれたスリッパが・・・

「ありゃ?・・・なんで?・・・あたしって手品師?」

「そこは　やっぱり親子って事じゃねーの?マコトとカミヤはさ^^」

ジョンさんがなんか余計なこと言ってるしw・・・うん、あとでいぢめよう^^

「兄貴・・・その右手のマイクっt「あこりゃ自前だ・・・うん」・・・」

カクッ・・・あーあwヒザをついちゃったよw・・・なんかね~wもう疲れましたよw・・・
この人はいつもいつも・・・あ、また凹んできたw・・・orz

がば!

またかい！今はめっちゃ疲れてるんですけどｗ・・・ちょっと涙目ｗ・・・

「兄貴！落ち込んでるんだからほっといてよ！」

「やだね！真琴が落ち込んでるからこうしてるんだろが！」

「あ、兄貴・・・／／／」

へへへ＾＾ちょっとうれしいかも！＾＾／／／（あたしって単純？）

「それにだ！真琴の育ちそうで育たないつるぺたーんの記録だってこうやって測ってるんだぞ！」

あ？なんだって！

「それにだな　レティと比べて当社比１／３？いや１／４のコンパクトタイプかな？

だがしか～し！小さくても育ってる？って実感を俺は噛み締めたいんだよ＾＾」

「あ！ばか！カミヤ！・・・うん、おまえ死んだなｗ・・・」

「うｗ！ばか兄貴！確かにレティと比較すれば小さいけどＢ－くらいはあるんだぞ！」

「それってＡってことじゃね？レティはちょっときついけど今はＥって言ってたぞ？＾＾」

「あ～あw・・・カミヤ・・・アーメン（合掌）」

wwww！あたしの感動をかえせー！・・・wwwwって　とり合えず！兄貴は！ぬっ殺す！！
あたしは立ち上がってジョンさんに近寄ってと・・・

「ジョンさん（ニコッ＾＾）その腰のM９（ベレッタ９２FS）ちょっとかしてね＾＾」

「ばか・・・マコト、実弾はやばいって！・・・やめなさいって！・・・」

ジョンさんとあたしは追いかけっこ！
あたしはテッポを奪おうと手を出して　それをよけるジョンさん・・・腰振りダンスだなこりゃ・・・

「マコト！やめなさい！・・・カミヤもマコトに謝るんだ！はやく！」

かけっこしながらジョンさんの腰振りダンスを見てたらあたしも少し落ち着いてきたかな・・・
うん、実弾はやめとこう・・・今日のところはね＾＾

「ほら！二人とも　シェイクハンド！握手して！」

ジョンさんに後ろから肩を押されて親父さんの前へ・・・

「兄貴！今回はゆるすけど・・・つ、次はないんだからね！」

そう言って親父さんと握手します・・・

ん？・・・おやじさん？・・・なぜにドヤ顔？・・・ん？

「ジョン！真琴が・・・真琴がツンデレになったぞ！（ドヤ～＾＾）」

あらあら、まーはやいこと・・・ジョンさん　あたしからさーっと離れて行ったよw・・・

「兄貴～！あんたって人ｈ・・・」

その時です！

あたしと親父さんの足元から光が・・・うw・・・まぶしい・・・

まぶしいので細めで親父さんを見ると・・・あれ？また？なんでドヤ顔？

「真琴！これって・・・これって神様んとこいけるんじゃね！？んでさ、真っ白く光るへやでさ！

うー！おら、めっちゃワクワクするぞ！」

あーw・・・だめだw・・・この人はこーゆー人だったw・・・

「バカ兄貴！いいか！ぜったい神様には変なことするなよな！いいな！」

「それっておやくそく？だよね？やって下さいって言う＾＾」

「あーｗもう！違うって！マジでやｍ・・・ｗｗｗ・・・」

あれ？・・・力が入らな・・・意識がｗ・・・

「うん！俺、神様のまえでも自分らしくがんばる！」

なにを・・・言ってｗ・・・いつも・・・後始末はあたしなんだぞ？・・・

だめだ・・・意識が・・・ｗｗｗ・・・

・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・

・・・

あたしは沈み行く意識のなかでめっちゃドヤった顔の親父さんを見て・・・

よし！って覚悟を決めましたさｗ・・・・うん、無理！だれかたすけてー！・・・・・・ｏｒｚ

3話　涙のアメリカ　レティとの出会い　後編（後書き）

カミヤ「ふふふ！義春と呼びたまえ！」
真琴「無理やり自分で名のってやがんの！」
レティ「作者に聞いたんだけど本当は神様の時に出す予定だったみたい・・・」
ジョン「カミヤ・・・おまいさんいつか痛い目に遭うぞ？」
カミヤ「ふーんだ！よっちゃんきにしないもんね～」
真琴「兄貴wたのむから次回はおとなしくしててくれよな？」
カミヤ「無理！」
レティ「（あー・・・私、なんでこんな変態に惚れたんだろ・・・）」
ジョン「ん？レティ？なんか言ったか？」
レティ「へ？・・・いや、最近肩が凝るかな～って＾＾」
カミヤ「じ～～っ」
真琴「いやいやw口で言ってるし！って！どこ見てる！」
ジョン「カミヤ！こっち来い！一杯飲みにいくぞ！」
カミヤ「お！いいね～＾＾」
レティ「いいなーわたしも行きたいな～」
ジョン「わりーwレティはお嬢ちゃんのフォローを頼む」
レティ「ま、いっか・・・ジョン後で奢りなさいよね」
ジョン「おう！んじゃいってくる！」
カミヤ「いってきまー！」
真琴「レティって・・・その・・・おっきいよね？」
レティ「へ？なにが？」
真琴「・・・なんでもない！・・・」
レティ「？変なマコト・・・」

真琴「もう直ぐ１９歳だよな～ｗ・・・まだ育つのかな～ｗ・・・」

・・・あ、凹んできたぞ・・・今回は結構きついぞ？・・・ｏｒｚ

みなさん！どーもです！Ｍ２－１０１５です＾＾
えーご意見は多々あると思いますがこんな感じで
グダグダのギャグでいきます！
次回は神様編ですが
この親子はどう対処するんでしょうかね～＾＾
あらすじはあるんですけど
キャラがかってに走り出してしまってｗ・・・
私もこの親子には手をやいておりますです！

それでは次回「神様編」でお会いしましょう
皆様に笑顔がもっと増えますように＾＾
では＾＾ノ

4話　涙の神様・・・ほんっとすいません！うちの兄貴が迷惑かけましてｗ（前

真琴「どーもでーす！」
ジョン「オース！」
カミヤ「↑そーいえばこれって義春じゃないよね？カミヤってなってるよね？」
レティ「・・・出番がないｗ・・・これでは主役の座がｗ・・・」
真琴「ありゃ？兄貴はスルーとして　レティ？どったの？」
ジョン「なんか毎回　主役がどーのって言ってたな？」
レティ「は！何言ってるのジョン！主役はマコトじゃない＾＾」
ジョン「ん？そーだったっけ？」
レティ「ニコッ！＾＾」（チャッキ！ジョンの背中に銃を突きつけてます）
ジョン「うｗ！・・・いや！俺の勘違いだったかな～？」
真琴「ん？レティ？」
レティ「なんでもないわ＾＾真琴（ニコッ＾＾）」
カミヤ「↑ここ直せー！」
真、レ、ジ「「スルーで＾＾」」」
真琴「んじゃ神様編いってみよー！」

4話　涙の神様・・・ほんっとすいません！うちの兄貴が迷惑かけましてｗ

ん・・・

・・・ん？・・・ここは？・・・なんであたしってば床でころがってるの？・・・

・・・ｗｗｗ頭がはたらいてないわ・・・ｗｗｗ

でも真っ白い部屋だなーここって・・・

実はあたし、寝起きはめちゃくちゃわるいんです！テヘッ＾＾

なーんて考えてると・・・ん？ん？・・・親父さんがだれかとしゃべってる？？

は！・・・真っ白い部屋？親父さん以外にもだれかいらっしゃる？・・・って事は！

そりゃあもうあたしゃ、ふらつく頭を片手で抑えながら　ガバッ！って一気に起き上がったさ！

ええ、ええ、きっとテンプレですよねｗ　これってさｗ・・・

もうね、いやな予感がばっきばっき！

声のする方に振り向くと・・・！・・・そこには予想の斜め上の展開がｗ・・・・・・ｏｒｚ

「・・・兄貴・・・なにしてるの？・・・まさかとは思うけどその

お方はどちらさま?」

「おお!気が付いたか真琴!・・・どこにも異常はないか?」

「うん・・・あたしは大丈夫・・・なんだけｄ「（がばっ!）よかった!」あ!／／／」

親父さんがめずらしく心配そうな顔で　あたしに近づいてきて・・・お!いきなりハグですかい!・・・ん?お父さんってばちょっと震えてる?
よかったって言ったって事は　あたしってば心配されてたんだよね?^^・・・ちょっと照れるね／／／

「ほんとに心配したんだぞ?・・・体感時間で１０時間くらいおきなかったからｗ・・・」

「え!あたし、そんなに寝てたの?」

ふと時間が気になって腕時計を見ると・・・ありゃ止まってやがるねｗ・・・
え?この止まった時間ってここに飛ばされたくらいの時間だよね?・・・ありゃ?

は!いやいやいやいや!そんな事よりもだ!
さっき目が覚めた時の親父さんがやらかしてた事（一方的なタコなぐり）を聞かないと・・・
あーん!・・・本心は聞きたくないー!・・・ｏｒｚ

「ねえ兄貴、さっきあそこの人と何やってたの?あの人はどちら様?」

「ああ、あいつは俺たちをここに呼び込んだ自称神様だ・・・」

「え?神様って!?・・・だったらあの人なんでぼろぼろなの?なんで四つん這いで泣いてるの?」

「ああ、真琴がなかなか起きないもんで　『神ならなんとかしろー!』って言ったら
『無理』って言うんだもんw　で、おもいっきしぼこt「ばかもの!（ばき!）」ぐはっ!」

あたしはずっと持ってたハリセンで親父の横っ面をひっぱたく!・・・ええ、ひっぱたきますとも!

「だってw・・・俺がせっかく『う!まぶしい!ここは?・・・真っ白な部屋だ』ってやろうとしてもマコりんが寝てたらつまんないじゃん?だからぼこt「大ばかもの!（スパーン!）げふぇっ!」

「テンプレギャグの為かい!さっきのあたしの感動をかえせ!・・・それと!マコりん言うな!」

「wwww・・・真琴、スリッパもそうだったけど　そのハリセンめちゃくちゃ痛いぞ?
まるで鉄パイプでぶん殴られてるみたいにw・・・」

「そんな事あるわけないでしょ!バカ兄貴!・・・ほら、さわって

もただの厚紙じゃん・・・」

「いや、ほんとにマジなんだがｗ・・・」

は！神様のこと忘れてた！
まったく！・・・神様にいたずらするくらいなら想像してたけど
タコ殴りでぼろ雑巾にしちゃうとは・・・親父様ｗ・・・ｏｒｚ
あたしはぼろぼろで四つん這いで泣いている神様？のもとへ小走り
に近づいて・・・

「大丈夫ですか？・・・今おこしますからｗよいしょっと・・・」

「・・・ありがとう・・・ひどい目にあいましたｗ・・・」

「ケガはありませんか？・・・」

「はい・・・この空間ではどんなケガも直ぐになおりますから・・・
」

神様？を助け起こすとみるみると治っていきます・・・あら、服も
直るのね・・・
後ろで親父がぶつぶつ言ってるな・・・まだいじけてるのか？
よし、ほっとこう・・・うん、あれが交じるとややこしくなるｗ・・
・

「で、すいませんがあたしに説明をして頂いて良いですか？・・・
あ、兄貴はほっといていいです」

「カミヤ・マコトさんですよね？私はあなたを呼び出しましたこの
世界の神です」

「ほんとに神様なんですか！・・・ほうほう」

うん、テンプレ通りの美男で優男だね・・・ちょっとかっこいいか
も！＾＾／／／
ありゃ・・・あたし今きっと顔が真っ赤だね／／／
いーじゃん！神様ってばいい男なんだからさｗ！

「あら？あまりおどろかれないんですね？普通は呆然となったり喚
いたりするんですが・・・」

は！いかんいかん・・・親父さんのおかげであたしゃ精神的な耐性
がきたえられてる？

「あら！びっくり！神様なんですか！」

「はーｗ・・・いいです・・・無理しなくても・・・先ほどから見
てましたが貴方たち親子は
良い意味でも悪い意味でも似てらっしゃいますよね・・・」

ありゃ・・・あきれられちゃってるよ神様にｗ・・・うん、でもこ
れだけは言っておかないと！

「神様！あんな歩く公害といっしょにしないでくださいね！」

「それで、貴方をここに呼び出した訳なんですけど・・・」

「スルーですか！」

「はいスルーです＾＾それではまず3つの空になった世界の現状からお話します・・・」

んーとね、このスルースキルを持ったハンサムな神様の長～い話を要約するとだね・・・

まず西側のジャングルは太古の世界なんだって　人は住んでないらしいよ?動物は居るみたいだけど
で、東側の森林地帯はね　地球で例えるなら中世ヨーロッパの時代みたい?・・・ただし！
モンスター?って言うか魔物！がいるらしいのよw・・・んで魔法もあるんだって！

王国?もいくつかあるらしんだけど・・・種族も何種類かいらしゃるって?・・・種族?
白人や黒人とかじゃなくて?ふむふむ?え?エルフとかドアーフ！
あと亜人や獣人とかだって!?
めっちゃめちゃファンタジーじゃんそれって！
うー見て見たい～～w！

ほう、時間の流れはおんなじで1日24時間なんだ・・・うん、時計はつかえるね＾＾

で、あたしたちがいるこの基地がその2つの世界をつなぎ止めてる

っと・・・って接着剤かい！

ん？ほうほう、神様のもっと上の方が終焉を迎えかけた２つの世界を救おうとしてくっつけたと・・・
で、くっつけたは良いが世界が安定しなくて我々を召喚してこの世界の定着をさせる事にしたと・・・
あら、ほんとに接着剤なのねんｗ・・・

で、あたしは何をすればいいのかな？
ふむ、二つの世界の触媒？東の国に行って西のジャングルを開拓させるの？なんで？
西にも人が住みはじめれば異世界同士に絆ができると・・・ほう、そうなんだ・・・
おおむね神様のお願いはこんな感じかな？

個人的には、おもしろそうだし興味はあるね～＾＾
だってリアルファンタジーじゃん！
ただ最大の懸念がねー・・・あたしの後ろで最大の懸念さん（親父様）が、まだいじけてるね・・・

ああ、そうだった、あとレティたちだね・・・どうなるんだろ？

「神様！質問があるんですが・・・」

「なんでしょう？＾＾」

「私たちは元の世界に帰れるんですか？」

「直ぐには無理です　最低でもこの世界が安定しないと・・・何年かかるかは・・・すいません」

そーかー帰れないのかーw・・・じゃやるしかないね！
うん、このお気楽さは絶対に親父様に鍛えられたせいだね・・・まったくw

「この世界を救える心・・・純粋な魂の持ち主としてマコトさんを召喚したのです
あ、あと、マコトさんは魔術をつかえますよ＾＾」

へ？神様、今なんつった？魔術？あたしが？

「本来はマコトさんだけ　ここに呼ぶはずだったのですが　なぜか魔力が減っていて足りない魔力を
補うためにお父様にも来て頂いたのです＾＾」

「え？あたしってば魔力もってるの？え？え？」

「はい＾＾この異世界では今でも多分１番ではないかと？・・・お父様も多少はありますね魔力が・・・
マコトさんはここに召喚した時に魔力が無くなりかけていたので気絶したのでしょう・・・」

「いやいや、あたし魔力って言うか、そのw・・・魔法なんてつかってないよ？」

「それです！」

と言って神様はあたしのハリセンをビシッと指差してますが？・・・
これが魔法？・・・ん？

「？・・・ハリセン？」

「そうです、それは具現の魔法です・・・イメージしたものを実際に投影し具現化する魔法です・・・
ただ、具現投影は魔力の消費がものすごく多いんです・・・あのＴＶカメラや照明などでも
マコトさんは大量に魔力を消費していますね・・・
それにそのハリセンは強化の魔法もかかってますから・・・叩かれたらかなり痛いですよ？」

「へ？あれも？あたしがだしたの？なんで？ＴＶカメラなんてイメージしてなかったよ？」

「あの場所の魔力の力場が不安定だったのでしょう・・・　お父様がイメージしたものが
マコトさんの魔力を使って具現化されたみたいですね・・・」

そうだったんだーｗあれは～ｗ・・・やはり親父さんのせいだったのか～ｗ・・・
にしても　ふむ、具現の魔法ねー・・・うん、他の魔法はつかえるのかな？

「あのー神様、他の魔法も使えますか？」

「魔力があるなら魔法はつかえますよ？実際に物質（ハリセン）の強化もしてますし＾＾」

そうか　使えるのか・・・うん、覚えても損はないな・・・よし覚えよう！
神様の話だと　どうもイメージが大切らしいんだよね魔法って・・・

魔法も楽しみだね！
でも使い方は　実地で試行錯誤しながら覚えてねっていわれちゃった＾＾
もう、このイケメンさんたら・・・結構めんどくさがり？

そうだ！何年も戻れないんだから　後はレティ達みんなの為の交渉だね・・・

「それで神様にお願いがあるんですけど・・・聞いて頂けますか？」

「私に出来る事ならいいですよ＾＾」

「まず、みんなの安全なんですけど・・・」

「はい＾＾わかりました・・・えいっ！・・・終わりましたね」

「へ？もう終わり！？」

今の　えいっ！って掛け声で、神様はみんなに今のあたしと同等の魔力をあげたらしい・・・
それと基地のフェンスに　あたしたちは通れる永久的な絶対結界を高さ２０ｍで付属したんだって
しかも！あたしたちに悪意または危害を少しでも持ってる人や動物は通れないんだってさ！
ついでにこの世界の言語（読み書きね）も解るようにしてくれたんだってさ＾＾
はーさすがイケメン！神様ってすごいね～まさにコンビニエンス！
あと、もともとの地球世界はかなり上位の世界だったみたい・・・

だから下位世界のここなら　あたし達は　スパイダーマ！いやいやw・・・
某超人的特撮ヒーローなみの体力なんだってさ・・・ジャンプで１０ｍなんて楽勝だって！
そこから落っこちて受身がとれなくても　せいぜいすり傷くらいってどんな化け物だ？
よし、基地にもどったら親父さんで試そう！・・・２０ｍくらいからでいいかな＾＾

「マコトさんには感謝の気持ちで魔力を貴方の身体が受け入れられる最大まで増やしましょう＾＾」

「え！いいんですｋ「俺にもその魔力よこせ～！」うわ！びくっりしたｗ」

あーおどろいたｗってか、なんで真後ろ５ｃｍにいるのさ！ちかいちかい！息かかるって！
あー！ちかいって！はなれろ！耳なめようとすんな！・・・バカ兄貴の変態めｗ！

「俺だってここに来てるんだから特典あったって良いだろ！？それに強いぞ？俺は」

あーそうそう・・・この親父さんは事サバイバルに関しては結構どころかめちゃくちゃプロなんだよね
んー悪戯に使われるんだろうけど・・・それを差し引いても魔力は

あったほうが良いよね！
うん、あたしからもお願いしとこう・・・

「あの、神様・・・あたしからもお願いします　兄貴にも魔力を増やして下さい」

「え？お父様にですか？ほんとに良いんですか？後でキャンセルはききませんよ？」

「やたー！真琴の許可がでたー！ルンルン！」

「ｗｗｗおどるな！バカ！・・・ええ良いです・・・あんなんでも兄貴は貴重な戦力になります！
・・・まあ、アホでスケベで変態で人外ですがｗ・・・」
（へーきだよね？うん、ジョンさんにも後で協力してもーらおっと^^）

「わかりました^^西域の開拓方法はお任せしますので　がんばって下さいね」

「はい！出来るだけの事はやってみます！」

「あ、ひとつ言い忘れてました・・・あなた方が使っていたエアーガンですが
こちらの異世界では十分な武器となりますので　なにぶん上位世界の道具ですから^^」

「え！そうなんですか？・・・気をつけて取り扱います」

「では、また会いましょうねマコトさん＾＾」

「はい！」

あたしが返事をすると　またもや足元から強い光が！

あーまぶしい！・・・あや？親父さん不満そうな顔してるぞ？・・・

ん？なんでだ？

「おーい！神！ここは真っ黒な落とし穴で落っこちるとこだろーが

！」

つ、疲れるｗ・・・

・・・このバカ兄貴はｗ！・・・ほんっとテンプレが好きなのねｗ・

・・ｏｒｚ

さてさて、戻ってきましたよ横田基地へ＾＾

腕時計を見ると・・・おー動いてる・・・って神様の部屋って時間

止まってたのかな？

「えーこちら現場の　神谷義春です　スタジオの真琴ｓ「まだやるか！（ぱからーん！）」ふぇぶらｗ！」

「バカ兄貴！くどい！しつこい！うざい！」

「だからｗ・・・そのハリセンは痛いってｗ・・・」

「おはなしをすすめましょうね　お兄様！（ニコッ＾＾）」

「はい！すみませんでした！」

まったくｗ・・・さて、まずはジョンさんに説明しないとね・・・
あんなんでも指揮官だもんねｗ・・・
どっから話すかな・・・うん、隠さず全部話そう！

「カミヤ！マコト！大丈夫なのか？・・・いきなり光に包まれてたが・・・」

「うん、へーき＾＾・・・でもちょっと深刻なお話があるんだけど・・・ジョンさん聞いてくれる？」

あたしは神様の部屋で起こったことを事細かくジョンさんに伝えました
ジョンさんはレティが戻ったら全員で話し合いをするそうです
事が事だけに命令ではなく協力として部下にお願いをするみたい・・・ジョンさんえらいね～ｗ
でも『オーマイゴット』っていちいちはなしの腰を折るのはやめてね＾＾
親父さんの魔力の話してる時なんか『ジーザスクライスト！』だってｗ・・・
あれ？ジョンさん？なんでｏｒｚ↑こんなかっこしてんの？・・・ん？

「マコト・・・あー、言い難いんだが・・・あれだ、カミヤも魔力がめっちゃ高いんだな？」

「うん、そうなった」

「その魔力を与える許可はマコトがだしたんだよな？」

「そーだけど・・・いけなかったかな？」

「うん、よし、マコト　カミヤのおもりはおまえにまかせた＾＾」

「え？なんでさ！」

「あれだろ？同等の魔力持ちはマコトだけなんだろ？」

「うん・・・そーだけどｗ・・・」

「んじゃ、あれがなんかやらかした時に止められるのはマコトだけだな？」

「うw・・・そ、そーなるのかなw？・・・」

「あれがおとなしくしてると思うのか　マコトは？」

「・・・無理です・・・」

「んじゃ、がんばれマコト！＾＾」

ええええー！ジョンさ～んw・・・そこはさーみんなで協力しよーよw～～・・・

あー！親父さんってばあたしたち見ながらめっちゃドヤ～って顔してる～～w

ありゃ絶対なんかやらかす時の顔だ～～～w

うえ～ん！あたし、はやまったのかなあ～w・・・

イケメンの神様助けて！って言っても親父さんにぼろんぼろんにされてたしw・・・

レティー！お願い！はやく戻ってきて～～！

あ、・・・レティでも親父さん押さえるのって無理かもしんないw・・・

ってことは？・・・適任者はあたしだけ？・・・いやー！考えたく

ないよ～～～！

う、うえ～ん！だれでもいいから　あたしを助けて～～！・・・・・・・・・orz

4話　涙の神様・・・ほんっとすいません！うちの兄貴が迷惑かけましてｗ（後

真琴「いきなりですが！それでは第一回質問コーナー！＾＾」
カミヤ「ん？質問が来るほど人気あるのか？」
Ｍ２「・・・・・・ｏｒｚ」
カミヤ「おお！作者へこんでるがな～＾＾」
真琴「もう！いぢめちゃだめでしょ？ナイーブな人なんだから」
カミヤ「あれがナイーブならゴキ○リはとっくに死滅してるはずだが？」
真琴「・・・えー『真琴さんのキャライメージってどんな感じですか？』ですって＾＾キャッ！うれしー＾＾」
カミヤ「スルーですかｗ」
真琴「んーとね、ブラック○グーンのレベッカさんをかわいくした感じかな？＾＾」
カミヤ「あんなに胸ないだろ？もっとつるぺたーンじゃんおまえは」
真琴「・・・・・・・・・・」
カミヤ「まあ、後は似てるかな？ポニーテールとかね・・・ま、ぺたんこだが＾＾」
レティ「ジョン！巻き添え食らう前に　にげるわよ！」
ジョン「おう！」
真琴「このばか兄貴！くらえ！必殺のソードカトラスだ！」

レ、ジ「「あーあｗ・・・まあ死なないで（ね）（くれ）＾＾」」
レティ「（次回こそはたっぷりと出番がありますよーにｗ・・・）」

どーもー＾＾Ｍ２－１０１５です！
神様でました！また出てくる予定です（いじられ役で＾＾）
で　私、ブラックラ○ーン大好きなんですよ！
レティですがいじわるして出番がないわけではありません・・・たぶん？
次回は基地内の様子と西のジャングルです
いよいよ（やっと？）戦闘シーンですかね？

それでは皆様の笑顔がもっと増えます様に＾＾
では＾＾ノ

5話　涙のジャングル　あんなのいるって聞いてないよ～w（前書き）

真琴「どーもでーす！」
ジョン「ばわー＾＾」
レティ「うふん・・・あなたのレティよん（はーと）」
真琴「・・・出番少なくておかしくなってるのかな？」
ジョン「マコト・・・そっとしといてやれ・・・」
真琴「うん・・・」
カミヤ「ハンバーガー食べたいぞー！！」
真琴「うを！なにをいきなり・・・」
カミヤ「いやね？作者に今回の本編みせてもらったんよ」
ジョン「ふむ・・・」
カミヤ「そしたらね？ジョン達の部下の名前がね・・・」
ジョン「あーあいつらね・・・そりゃ食いたくなるわ・・・」
真琴「そーなの？」
カミヤ「まー読めばわかるわ・・・あー！バーガー食いてーw！」
レティ「カミヤは本編よんだのね？」
カミヤ「読んだよ？」
レティ「それで・・・あたしの出番は・・・あった？（ドキドキ）」
カミヤ「おーいジョン、ハンバーガー食いに行くぞー！」
レティ「・・・スルーですか・・・」

真琴「んじゃ第5話のはじまりでーす！＾＾」

5話　涙のジャングル　あんなのいるって聞いてないよ～w

「キャー！兄貴のバカやろー！」

「マコト！早くこっちに逃げて！」

レティ！？・・・言われなくても逃げますよあたしゃ・・・うん

兄貴も何をつれてきてるんだか！限度があるでしょ限度ってもんが！

確かに神様はジャングルには動物がいるって言ってたけど！・・・

確かに動物だけど！

「もう！ほんっとうにマジで！　兄貴のバカやろうー！・・・キャー！！！」

Ｓｉｄｅレティ

私はジョン中尉から基地内確認と安全な格納庫の確保を命じられた

ここは基地の南端だ　中央の倉庫までは３分くらいか？

部下5人をつれて3台のＨＭＭＷＶ（多機能高機動車・ハンヴィ）に2人づつ乗り分けた・・・
落ち着け、私！将校は冷静にならないと・・・
そうだ！ロッテとリーアのメディカル班はここに残そう・・・

「ロッテ軍曹とリーア伍長はここで待機！」

「「イエス　マム」」

「残りのおまえたち！まず武器の装備をする！車両格納庫へむかうぞ！」

「「「「「イエス　マム！」」」」」

「ＵＳマリンコ！」（アメリカ合衆国海兵隊の掛け声です＾＾）

「「「「「マリンコー！」」」」」

私たち3台は車両格納庫へ周りを監視しながらゆっくりめに向かったが・・・
うん、予想通り他に人は見あたらないわね？・・・猫の子一匹歩いてないわ・・・
私たち以外に生物はいないのかしら・・・今いるのは全部で１１人？・・・
トループスが7人、メディックが2人、シビリアンも2人・・・
もっともあの親子（シビリアン）は超がつくほど実戦経験豊富だけれどね・・・

車両格納庫へ着くとまずは個人携帯武器等を装備させる

「アテイション！全員強襲偵察用装備装着！拳銃も着けろ！ライフルにはＭ２０３もだ！」

わたしを含めみんなが武器庫から装備をだして着ける・・・その後は・・・

「モース上等兵！ＨＭＭＷＶの前部ルーフにそれぞれＭ２、Ｍ２０Ｇ、Ｍｋ１９を設置！
ファスト上等兵は同じく後部ルーフにＭ２４０Ｇを設置しろ！
フレック上等兵は弾薬を運んだらモースを手伝え！Ｍｋ１９はとりあえず榴弾のみで良い！
ベッガー上等兵はロッテ軍曹の車両用にＭ２４０Ｇを２丁を持っていく用意をしろ！
マック軍曹はＭ２４９ミニミを全車両へ１丁づつ車内へ運んどいてくれ・・・
あ、ロッテたちの分もあるんで計４丁の用意！あと中尉とカミヤ親子の分も装備をそろえて・・・
それから　狙撃用にＭ１４とＭ８２Ａ１も２丁づつ頼みます・・・」

「「「「「イエス　マム！」」」」」

「軍曹、すまんが私は個人装備を部屋からとってくる・・・３０分でもどる！頼んだわよ」

「少尉お気をつけて・・・」

さて、自分の部屋へいきますか・・・マコトとカミヤにも預かってる物を渡さないと・・・
ドアを開く・・・ロッカーを開けて2丁のデルタエリート・・・私とマコト、お揃いの拳銃・・・
ふっとあの日・・・6年前の誕生日を思い出す・・・銃の彫金を指でなぜながら・・・

いけない!急がないと・・・マコトのライフルM655、それからマコトとカミヤのカタナ・・・
マコトはそれぞれに名前をつけてたわね・・・

後は・・・私のお爺様のかたみのM1897・・・そうそう　デルタの予備マガジンもね・・・
ショットガンの弾はどうしよう・・・スラッグとダブルオーバックでいいかな?
忘れ物は無いかな?・・・うん、よし!戻ろう!

(※　兵器や武器等の説明は簡単にですが後書にて少しづつやる予定です。)

車両格納庫に戻るとほぼ準備は完了していた・・・

「マック　燃料は?」

「全車満タンです、予備燃料、弾薬も規定の2倍積んでます　いつものレーションも積みました」

「うｗｗ・・・私あれきらいなのよねｗ・・・日本食になれちゃうとあれはね～ｗ・・・」

「まあ、わたしもですが・・・ＨＡＨＡＨＡＨＡ！」

ほんと、あの脂っこくて甘ったるいカロリーだけのレーション考えたやつの尻をけとばしたいわ！
以前なら平気だったのに・・・私の食生活を改善したマコトがいけないのよ・・・
あ～マコトとはじめて行った八王子のラーメン屋さん・・・おいしかったな～・・・

は！いやいや！何考えてるんだ私は・・・さっさと急がなくては！

「フレックとベッガーはいったん戻って装備を中尉たち、あっちの５人にわたしてちょうだい
それからロッテの車両にも武装の搭載をお願い・・・直ぐに行って！」

「「イエス　マム！」」

「マックはモースと北端のヘリポートから東側を調ながら南下して中尉の所で合流ね・・・
あ、途中のＦ－１５Ｄ戦闘爆撃機の格納庫と弾薬庫のロックも忘れずにお願いね・・・
私はファストと西側を行くわ・・・まず管制塔と司令部を調べてか

ら南下するわね」

「イエス　マム！」

「さあ！みんな！ロックンロールよ！！」

「マリンコ！ＧＯ！ＧＯ！ＧＯ！！」

・・・管制塔・・・うん、思った通り誰も居ないわね・・・司令部も空ね・・・

「よし！ファスト、西住宅地域を確認しながらもどるわよ・・・」

「・・・ねえ、レティシア少尉・・・俺たちどーなるんすかね？・・・」

「大丈夫よ＾＾心配しない！中尉だっているし、もっとたよりになる人もいるのよ？＾＾」

「へ？あのお嬢ちゃんたちがっスか？」

「そ！＾＾だから私はなんの心配もしてないわよ？マコトはあなたよりもはるかにストロングよ＾＾
ここだけの話、あの２人私よりずーっと強いのよ？＾＾」

「マ、マジっすか？@@！」

「マジマジ＾＾クスッ　そのうちわかるわよ＾＾・・・さ、戻りましょう＾＾」

「はいっす！」

んー、やっぱり不安なのね・・・わたしだって不安なんだもの・・・
でも、カミヤがいるし＾＾／／／
は！私なに赤くなってるの？ファストの前じゃない・・・もう！

訓練施設の建物が見えてきたわね・・・
あれ？マコト？・・・なんで四つん這いで凹んでるのかしら？・・・

「うえ～ん・・・れてぃ～・・・えぐっ、えぐっ・・・」

「ちょっと、マコト！落ち着いて！・・・何で泣いてるの？」

「ジョンさんが～～兄貴の・・・ぐすっ・・・めんどうみろって～w・・・」

「？？？マコト？とりあえず涙を拭いて・・・あー鼻水も！ほら、ティッシュあげるから・・・」

「え～ん・・・ぐしゅ・・・れてぃ～　あじがと～・・・（ち～んっ！）」

もどって来たのはいいけど・・・いったい何があったの？・・・
カミヤは今にも高笑いしそうにぐいって胸張ってるし・・・
ジョンは　おらしーらねって感じでそっぽむいてるしw・・・まっ
たくもう！なんなのよ！

は～w、ここはジョンに聞くしかないわね・・・

「フレデリック中尉、いったい何があったんです？あんなに凹んで
いるマコトは初めて見ますが？」

「あー、その、なんだ・・・えーっと、うん、もしもだ　カミヤが
今までの何倍ものパワーで
はちゃめちゃになにかやらかすとしたら　レティはそれを押さえつ
ける事ができるか？
・・・ま、とーぜん俺にはまったく無理だがな・・・＾＾」

「そんなの、わざわざ聞かなくったって完全に無理だって決まって
るじゃないですか！」

「そうなんだよなーw・・・んで　マコトにそれをまかせたら・・・
ああーなった」

「？？？おっしゃる意味がよく解らないんですが？」

ジョンは私が居なかった時に起こった事を正確に細かく話してくれたんだけど・・・
カミヤが？この世界で最大の？魔力？魔法？
そりゃそうね・・・うん、ジョンに１票！
なので私はこれしか言えません・・・ゆるせマコト！

「うん、それは私にも無理ね・・・マコト、悪いんだけどがんばってね＾＾」

「う～～ｗ・・・レティのｗ～・・・うーらーぎーりーもの～～！」

「そこは無理だけど　他の事は協力するから・・・ファイトね、マコト＾＾」

「うｗ～～～」・・・ｏｒｚ

あら、また凹んじゃったわ・・・ま、マコトは切り替えが早いし平気かな？
まあ　正直、あの悪戯以外なら　私がカミヤの面倒を見ても良いんだけど・・・ポッ／／／／
きゃー！私ってば　はずかし～～！・・・／／／／

Ｓｉｄｅ真琴

レティたちが戻ってきたんだけど・・・あっさりと

「うん、それは私にも無理ね・・・マコト、悪いんだけどがんばってね＾＾」
「そこは無理だけど　他の事は協力するから・・・ファイトね、マコト＾＾」

って言われちったよーw・・・

うん、・・・いつまでも凹んでちゃだめだ・・・親父さんに主導権を取られてしまう・・・
それだけは絶対阻止しないと！
うん、よし！ファイッおー！・・・がんばれー・・・がんばるんだ！　あたし！

がばっ！

「おうw！いきなり！アホ兄貴！・・・だから！
いきなり抱きつくな！いいかげんにしろ！（バキッ！）ふぇぶっ！」

「真琴さんw・・・ハリセンは痛いｔ「ギロッ！」すんませんです！」

まったく！この親父は進歩がまったく無いな！
・・・あれ？レティ？顔が真っ赤だぞ？・・・ほほに手をあてて・・・くねくねしてる？

いやんいやん?って言ってるなー?・・・なんぞや?

「ねージョンさん・・・レティが変だよ?」

「あーあれかw・・・マコトは知らなかったっけ?まあ、いつもの事だ気にすんな＾＾」

ん?そーなんだ?・・・でもちょっと気になるわね・・・顔赤いしw・・・

「フォンダ少尉!マック軍曹!よし、偵察で見た事を聞かせてくれ」

ジョンさんのそばにマリンコのみなさんが集まって来ますねー・・・そりゃ状況を聞きたいよね・・・よし、あたしも聞こう!

内容を要約すると・・・見てきた限りではあたしたち以外にはだれも居なかったみたい
ん?でもさ　横田基地って東アジアを統括してるアメリカ空軍極東司令部じゃなかったっけか?
ふむ、おとなりの赤い国たちが勘違いしてせんそー起こしてなければいいけどねー・・・

東西にわかれた空のラインの下は幅2～3ｋｍで砂漠っぽくなってるそうです・・・
このわかれたライン、正確には南北じゃなくて北北東から南南西を結んだ線で
２つの世界が分かれてるらしいんだって　んでその中心がこの基地

なんだって・・・

お、ジョンさんも異世界トリップと神様のお話もしてますねー・・・
うんうん、みなさーん　嘘じゃないよー　その話はほんとだよー・・・
・
ありゃ？みんな『オーマイゴット』とか『ジーザス！』とかw・・・
ジョンさんと同じだー
アメリカ人はみんなそうなのかな？

「・・・と言う事だ・・・アメリカ軍海兵隊としての行動はここまでにしたいと思う・・・
これからは、この世界に来た１１人が仲間として、そしてこの基地を１つの国としていきたいと
俺は思う！・・・困難もあるだろう　危険な目にも遭うはずだ・・・
だがそれが俺たちに与えられた
神からの試練なんだ！・・・どうだ？みんな・・・やってくれるか？」

おお！ジョンさんかっこいいー！
みなさんも納得してるっぽいみたいですなー

基地に結界があると分かったのでしばらく休憩を取るようです・・・
おなかへったー＾＾

「ヘイ！マコト、レーションあるぞ！マックからもらった＾＾」

「ゲッ！・・・まあ食べないよりはましかー・・・いただきますジョンさん」

「ジョンでいい・・・みんなにも階級の事や敬語は控えるように行ったしな＾＾」

「でもジョンさんがリーダーなんでしょ？」

「まあな・・・本音はカミヤにやって貰いたいんだが・・・」

「へ？兄貴？あれにやらせたらジョンさんが苦労しますよー＾＾」

「まあな・・・これからもよろしくな！マコト＾＾」

「はい＾＾」

さて、方向は決まったね・・・あとは親父さんを抑えながらどーやってくか・・・だね・・・

ふー食った食った＾＾・・・まーあいかわらずまずかったけどねーwペンタゴンのレーション部門ってのがあったら蹴っ飛ばしてやりたいと思うねーマジで・・・

お？レティが荷物持ってこっちに向かって来ますねー・・・

「マコトこれ・・・さっき自分の部屋へ行って取ってきたの＾＾これはカミヤの分ね」

「あ！あたしのデルちゃん（レティとおそろの拳銃ね＾＾）とロコ

コちゃん（ライフルね＾＾）！
おー！みっちゃん（刀ね＾＾）も！・・・ありがとー横田に持ってきてたんだー＾＾」

この3点セットがあれば鬼に金棒だね！特にみっちゃんはうれしー！

あ、みっちゃんはね　うちに代々伝わってる平安時代の太刀でね
大典太光代って言う
とってもすごい国宝の刀の影打ちなんだって＾＾あたしが使うので
刃渡りは短か目の６５ｃｍくらい？
太刀と小太刀あいだくらいの長さなんだ＾＾よく切れるよーみっちゃんは＾＾

江戸時代に罪人の死体で試し切りしたら2人の胴体を真っ二つにして3人目の背骨で
止まったってくらいに良く切れるらしいよ・・・ま、親父様の刀はもっとすごいらしいけどね・・・

んーなんだっけ？そうそう名は童子切って言ったかな？その影打ちなんだってさ親父さんのも＾＾
なんでも平安の都で悪いことしてた酒呑童子って妖怪を切り裂いた刀みたいだよ
刃渡りは少～し長めの８０ｃｍくらいだね＾＾

これも罪人の死体で試し切りしたらしいんだけど　なんと！重ねた6人ぜんぶ真っ二つで
さらに！土台まで切っちゃったらしいんだよね・・・
ある意味、親父さまにはあってるのかなｗ・・・

親父さんもレティから太刀を受け取ってご満悦みたい＾＾

（※　影打ちとは　簡単に纏めちゃうと目的の名刀を作る段階での本試作品みたいな感じです）

「よーしみんな！まずは我々の生存確保とライフラインの確認だ・・・今日のところは
2班にに分けて行動する・・・宿泊場所は車両倉庫を中心としたエリアだ」

ジョンさんがみんなに説明してます・・・みんなは黙って聞いてますねー・・・ん？
親父さまだけなんかワクワクしてませんか？・・・いやな予感がｗ・・・

「レティ、すまんがマックとファスト、ロッテとカミヤ親子をつれて１６号周辺の商店を確認、
使えそうな物資をリストアップしてほしい
それが済んだら南方面へ砂漠のジャングル側を進んで偵察を頼む」

「どのあたりまで行きますか？」

「そうだな・・・できれば八王子か相模原あたりまで頼みたいんだが・・・無理はするなよ」

「はい、期間は2～3日くらいでいいですか？それと武器使用の制

限は？」

「オールハンドだ　危険があればかまわない・・・われわれの生存が全てにおいて優先だ＾＾」

「では　Ｍ２とＭｋ１９が装備されたＨＭＭＷＶ２台で行きます」

「おう！テイクケアー・・・気をつけてな＾＾」

あたしたちは２台にわかれて出発！
残りの人たちは電源の確保と基地内の各物資を集めたり　物品リストを作ったりするそうです

んで、１台目はレティの運転であたしと親父さん＾＾
２代目はファスト君運転でマックさんとロッテさん・・・
ロッテさんってお医者様なんだよー！免疫学をやってるんだってさー　すごいねー！

基地を出る前にロッテさんから錠剤をみんな飲まされたんだけど・・・

なんだっけ？がんまぐろばりん？って名前のお薬で、なんでも微生物とかなんかに対して
抵抗力を養う？って感じのお薬なんだってさー・・・めっちゃニガかったけどｗ・・・

で、１６号沿いのお店をちぇっく！マックさんと親父さんは車の屋根の上で見張りです！

リストを作りながら南へ向かいます・・・あ、このTシャツいいなー・・・よし、貰っとこう！

ほぼ商店街の　物資リスト作り（ウインドショッピング＾＾）は終わり！
コンビニから飲食物もいただいて車に載せます（やたー！かっぱえ○せんだー＾＾）
ありゃ、マックさん達はお酒もはこんでるぞ？・・・いいのか？

さーて砂漠だぞ！あたしたちはジャングル沿い５０m位のところを平行に進んで行きます

運転手以外は屋根の上からテッポかまえてしっかり偵察＾＾
そろそろ多摩川くらいかな？・・・でも川なんかまったく見えませんがw・・・

「レティ！止まれ！」

お？親父さん・・・なんか見つけたのかな？

「カミヤ！どうした？なにかあったのか？」

「レティ・・・あそこで何かが動いてたんだ」

親父さんが車から降りてジャングルの1点をピシッっと指さしてますがw・・・なにかいるの？

おお！レティとマックさんさすが軍人！すぐさまＭ２とＭｋ１９をジャングルに向けてますね
おくれてロッテさんとファスト君も車のボンネットからミニミをかまえてます
あたしがＭ６５５（ロココ）を構えながら親父さんに近づき・・・

「兄貴、何かいたの？」

「わからん・・・ジャングルが５ｍ位『もぞっ』て感じで動いたんだ・・・
俺が中に入ってあそこを見てくる・・・みんなはここで待ってろ・・・真琴は一緒に来い」

そろりそろりと親父さまはＭ１６Ａ２をかまえてジャングルに・・・
あたしもロロコをかまえてその右斜め後ろ５ｍから親父さんをフォローしながらついてきます
あ、親父さん太刀持ってきてる！あたしも持ってくればよかったかな？

「真琴はここで待て・・・俺が確認してくる」

「うん・・・兄貴、絶対もどってね・・・」

「大丈夫だ　逝ってくる＾＾」

バカ兄貴！それ字が違うから！フラグ立つから！・・・でも無事でいて　お願いだから・・・
親父さまが居なくなったら・・・あたし・・・一人ぼっちｗ・・・
ジャングルの入り口でそんなことを考えていたら・・・

ＢＡＢＡＢＡ！ＢＡＢＡＢＡ！

！　いきなり３点バーストの銃声！

あたしはゆっくりさがりながらロココちゃんのセレクターをフルオートへ・・・
ジャングルの入り口あたりを警戒しながら見ていると・・・

・・・@@！・・・は！な、なんじゃありゃ？
親父さんが走ってこっちに向かって来ます！・・・後ろに・・・後ろにでかいの引き連れて！
ずしーんずしーん！ってこれ足音ですか！？

「おー真琴のびっくり目を見るのは久しぶりだな～＾＾」

何のんきな事　言ってるんですか！・・・そして　あ、あれはなんなんですか！

「おい真琴、固まってないで逃げたほうがいいぞ？あははは＾＾」

あー！なんで落ち着いてじゃべれるんですか！！・・・そして何んで笑ってるんですか！！
ええ、ええ、言われなくても逃げますよ！・・・逃げますとも！
まったく！このひとは！

「キャー！兄貴のバカやろー！」

「マコト！早くこっちに逃げて！」

レティ！？・・・言われなくても逃げますよあたしゃ・・・うん

兄貴も何をつれてきてるんだか！限度があるでしょ限度ってもんが！
確かに神様はジャングルには動物がいるって言ってたけど！・・・
確かに動物だけど！

「もう！ほんっとうにマジで！　兄貴のバカやろうー！・・・キャー！！！」

って冒頭につながるわけなんですが！・・・でっかい・・・ティラノサウルスみたいなのが・・・
追っかけてくるんです！・・・めっちゃよだれ垂らしながら！

もう！親父様の無事を心配してたあたしの穢れ無き乙女心を返せーーーー！！！

親父さんてばこんなんばっかし！
ジョンさんレティー！もうあいつをなんとかして！
ほんとに！お願い！・・・・

・・・あーｗ・・・あたしってば親父様の世話係りだったんだｗ・・
・・・・ｏｒｚ

5話　涙のジャングル　あんなのいるって聞いてないよ～ｗ（後書き）

真琴「おつかれさまでーす！」
レティ「ふふ・・・うふふふふふ！」
ジョン「とりあえずレティ・・・よかったな？」
まこと「だねー＾＾レティがはじめてだよね？サイドストーリーでの出番＾＾」
レティ「うふふふふふふふふふふふふふ　そーだよー＾＾」
真琴「ほんっとにうれしそうだねレティは・・・」
ジョン「俺はまだ無いんだが・・・」
真琴「ジョンさんにもそのうち出番くるよ～＾＾」
カミヤ「俺もまだ無いなｗ」
真、レ、ジ「「「おまいには無い！」」」

真琴「えー作者が『ハンバーガーなのだー！』とか言いながら車で出かけちゃったので
　あたしが最後の後書やりますね～＾＾」

みなさん！読んで下さってありがとうございます＾＾作者代理の真琴です＾＾
あたしの武器の「ろここ」ちゃんの説明しますねー
名称はＭ６５５ですけど　この子はＭ１６Ａ１のカスタムなんです＾＾
ですから本来はＭ１６Ａ１ショートバレルなんですが
ハンドガード部分だけがＸＭ１７７みたいに短いんです
面倒なのでＭ６５５って書いてます＾＾

M１６A2だとフルオートが無いのでM１６A１のフレームを使ってます
んで、６、５、５なので　ロ、コ、コって読んでます！
M１６シリーズはアメリカ軍の正式ライフルなのです＾＾
ちなみに今現在海兵隊ではM１６A４やM４A１はまだ少なくてメインはまだM１６A２らしいです＾＾

次回は砂漠でのお話です！第一村人発見？になるのかな？作者しだいかな？
それではみなさま！また会いましょう＾＾
バイバーイ！
テヘッ＾＾ノ

6話　涙の盗賊さん　親父さん！そのドヤ顔をなんとかしろｗ！（前書き）

真琴「おはこんばんちはー！どうもです！」
レティ「どーもー＾＾」
ジョン「おーっす！」
カミヤ「↑ここの義春への変更はあきらめんぞ！」
真琴「ないない＾＾」
レティ「そーね＾＾ないわね＾＾」
ジョン「んで、俺の出番はまだないのかな？」
真琴「んーどうなんでしょ？」
レティ「とりあえず私はあるみたいよん＾＾」
カミヤ「↑だからここは義春だってｗ！」
真、レ、ジ「「「しつこい！」」」
真琴「んじゃ第6話はじまるよーん！」

6話　涙の盗賊さん　親父さん！そのドヤ顔をなんとかしろｗ！

ズシーン！バキバキ！ズシーン！メキメキ！・・・
ジャングルをなぎ倒しながらめっちゃおっきいゴジラトカゲ？君が
こっちへ向かってくる～！

親父さんと走って逃げてますが・・・逃げ・・・ん？・・・ありゃ？
親父さんとあたしってば　駆け足めっちゃ速いじゃん！・・・
これが神様が言ってたやつかー・・・助かるね～＾＾

おう！親父さんライフルをあたしに放り投げて・・・って熱っ！
んだから！撃ったばかりは銃身とか熱いんだってば！

「真琴、みんなの所へ急げ！・・・みんな！手はだすなよ！いいな
！」

「兄貴！大丈夫なの！？・・・」

親父さんは途中で振り返り　腰の太刀をすらりと抜き放つ・・・両
手でかまえて
あれが出てくるあたりのジャングルをしっかりと見据えて・・・
あたしはレティのところに急いで戻り　車にライフルを放り込み

みっちゃんをつかんで腰にさす
親父さんの後ろ２０m位まで近づいて援護の構えをとる
よし！落ち着けよあたし・・・絶対生みんなと生きて帰るんだ！うん！

「レティ！マックさん！援護おねがい！」

「「ＯＫ！」」

ん？後ろでみんながなんかしゃべってるな？・・・いや！今は前方に集中！

Ｓｉｄｅレティ

カミヤがマコトをつれてジャングルに向かってる・・・まあ　あの２人なら大丈夫でしょ・・・
あれ以上のコンビは無いモンね・・・あら？ジャングルの入り口にマコトを残した？・・・
マコトを残す？・・・あれ？結構危険なの？・・・私はさらに気を引き締めた

「マック！もしかしたらＮｏ，１０かも！」

「ナンバーテンかよ・・・ＯＫ、了解！」　（※Ｎｏ，１０とは最悪って意味のスラングです）

「レティさん・・・あの親子ほんとにへーきなんスかね？」

「ファスト・・・基地でも言ったけど大丈夫よ　ま、見ててごらんなさい＾＾」

「ファスト！マコトは俺の剣道の先生だぞ！で、俺はまだマコトに１回も勝った事が無いんだぞ？
・・・それにカミヤはマコトの剣や武術の師匠でもあるんだ＾＾」

「まじっスか@@！マックさん！」

ＢＡＢＡＢＡ！ＢＡＢＡＢＡ！

ライフルの銃声！
みんなに再度注意をうながさないと！
軍医のロッテは大丈夫かな？射撃経験はあるはずだけど・・・

「みんな！くるよ！ロッテ！セーフティは外れてるよね！？・・・構えて！」

「これでも海兵隊員ですよ？レティさん＾＾」

ＯＫ、よし、みんな落ち着いてるわね・・・
あら？カミヤが走ってくる・・・マコトも遅れて来るわね・・・

ズシーン！バキバキ！ズシーン！メキメキ！・・・

なに！いったい何が来るって言うの！
え！あ、あれって！・・・恐竜！？

「まだ撃つな！２人の安全が先！目標がジャングルから出て射界が開けるまで待て！」

「キャー！兄貴のバカやろー！」

マコトが叫んでる！

「マコト！早くこっちに逃げて！」

「もう！ほんっとうにマジで！　兄貴のバカやろうー！・・・キャー！！！」

うん、その気持ちは痛いほど解るわね・・・
え？カミヤ！？マコトにライフルを渡した？なんで？・・・立ち止まって振り返ってる！

「真琴、みんなの所へ急げ！・・・みんな！手はだすなよ！いいな！」

「兄貴！大丈夫なの！？・・・」

カミヤは途中で振り返り　腰からカタナをすらりと抜き放ち・・・
両手でかまえて・・・
ジャングルをしっかりと見据えている！
カミヤ・・・1人でやる気なの？・・・無茶よ！危険だわ！
マコトも心配そうにしているわよ！

マコトは急いで戻り　車にライフルを放り込んで　自分のカタナをつかんで腰にさす・・・
マコトもやる気なんだ！

「レティ！マックさん！援護おねがい！」

「「ＯＫ！」」

そう言って駆け出すマコトの背中を見ながら
私は返事をしてＭ２重機関銃の銃握をもう一度しっかりと握りしめた・・・

Ｓｉｄｅ真琴

さあ、そろそろ出てきますかねｗ・・・
ズシーン！バキバキ！ズシーン！メキメキ！・・・来た！
おうｗ！身長１０ｍ以上はあるんではないかい？

恐竜さんに親父さんがジャンプして・・・って！飛びすぎ！それじゃ飛び越えちゃうって！
あ～あ～　案の定　頭を飛び越えて　尾っぽの方までいっちゃったよｗ・・・
あらやっちまったって顔でニヤケるな！バカ親父！

ｗｗｗ・・・緊張感がｗ・・・緊迫感がｗ・・・あ！

「兄貴！横！危ない！（ドカッ！）」

すっ飛んでく親父さま・・・横殴りの尻尾をもろにくらった！？・・・くっ！
こいつ！ゆるさん！

あたしは居合いの構えでジャンプ！そのまま恐竜の首の横を通りすがりに
スパッ！と一閃！

スタッっと着地して再度向き直るが・・・向き直る・・・・ん?・・・・
あれ?・・・
恐竜さんってば　ぴくぴくするだけで動いてないぞ?

ずん!・・・首が!もげましたがな@@!
ずしーんｗｗｗ・・・さらに!恐竜さん倒れましたがな@@!・・・・
あれ?あたしってば強い?

は!親父さま!怪我は無いのか!・・・うつ伏せで倒れてる!・・・・
大丈夫なの?
あたしは心配で駆け寄りました・・・父さん!

親父さんの横で膝をつき怪我の具合を確かめます・・・そのとき!

「マコト!伏せて!」

ＤＯＤＯＤＯＤＯＤＯＤＯＤＯＤＯＤＯＤＯ!（レティのＭ２ね＾＾）
ＢＡＢＡＢＡＢＡＢＡＢＡＢＡＢＡＢＡＢＡ!（ロッテさんとファスト君のミニミね＾＾）
ＢＡｗ!・・・ＢＡＧＯＯＯＮ!（マックさんのＭｋ１９だよ＾＾）

おう!レティ!なぜに一斉射撃!?

「射撃止め!」

レティの号令で静かななったけど・・・後ろを見ると・・・うげ！
5～6匹？（ミンチになってるのでわからん＾＾）ほどの小さい恐竜が・・・
小さいって言っても2m弱位はあるか？・・・これって・・・ラプトルっぽい？

は！そうだよ・・・親父さんは！・・・倒れてる親父さんを抱き起こそうとして・・・
ん？・・・ん？こいつ　もしかして笑いをこらえてる？

「あはは！真琴＾＾・・・あまりにも身体能力が上がってるんでの恐竜から1発くらってみて
身体が大丈夫なのか試したんだ＾＾ちっと痛いだけだｔ「ばかー！（パカーン！）」ぐへっ！」

「うｗ・・・そのハリセンの方が　い、痛いｗ・・・」

「し、心配したんだぞ！このバカ！・・・も、もう　おまいの心配なんかしてやるもんか！」

「あなたたちってどこでも親子漫才ができるのね・・・うらやましいわ＾＾」

「うｗ～・・・れてぃ～～ってば～ｗ・・・」

レティが・・・あたし達を見て笑ってるw～
で、でも・・・親父さんを心配したあたしってば偉いよね？・・・・
ね？・・・・orz

さて、気を取り直してこの恐竜さんたちの実況見分ですな・・・
おお？ファスト君てば周りのミンチを見てびびりながらこっちにきますねー
かわいいのう～・・・んであたしのそばにきて・・・

「お、俺の師匠になってほしいっス！マコトさんの戦いを見てあなたの戦い方にほれましたっス！」

は？・・・なんですと？・・・師匠？だれが？・・・あたし！？

「うん、無理！」

「な、なんでですか～w」

「親父様の面倒見ながら教えるのは無理！・・・（ん？まてよ　ピコーン！＾＾）・・・
ファストくn「ファストでいいっス！」・・・んじゃファスト、あ

たしもねある人の弟子なの」

「だれっス!?もしかしてお父様っスか?」

「そうそう＾＾だから弟子入りなら親父さんに言ってね＾＾」

「はいっス!ではマコトさんはアネさんっスね＾＾俺がマコトさんの次の弟子っスから!」

「姉さん・・・（ｏｒｚ）」

まあ、でも親父さんも若い弟子がそばにうろちょろしてたら悪戯もへるでしょ・・・

二ヒヒ・・・あたしってば賢い?＾＾

それからみんなで恐竜の死体の傍へ来て・・・親父さんが遭遇した状況を・・・

「ジャングルに入って５０m位か?そこでこのデカイのに逢ったんだ・・・こいつの周りにあの小さいやつが7～8匹いて喧嘩してて・・・んで小さいやつが俺に気がついたみたいで2匹ほど飛び掛ってきたもんだからライフルで仕留めた・・・のはいいんだけど・・・銃声であのでっかいのもこっちに気がついて・・・後は走ってジャングルを飛び出したって所か?そっから先はみんな

も見ての通りだね・・・」

ふむ・・・あれ？親父さん６発しか撃ってないよね？・・・６発で２匹倒したの？
でもＭ１６Ａ２の５．５６ｍｍじゃ・・・威力無いよね？
やっぱりこの世界ではあたし達の武器は攻撃力が高いのかな？・・・
どーなんだろ？
よし、みんなに聞いてみよう

「ねえ、レティ　あっちでミンチになってるのってさ　機関銃とかの破壊力が大きすぎない？」

「そうね・・・私もそう思ったわ・・・マックは？」

「うむ、俺の撃った榴弾は２ｍ位はずれていたんだが・・・爆風で首がちぎれてたな・・・」

ロッテさんとファストも『うんうん』と頷いてますな～

「やっぱり神様が言ってた通りなのね・・・マコトのカタナなんて光ってたしね！」

「へ？みっちゃん光ってたの！？」

「うん・・・マコトはたぶん　無意識に強化の魔法をかけてたんじゃないかな・・・」

「そうなのかー・・・そりゃよく切れたはずだｗ」

魔法ってすごいね～・・・はやくちゃんと覚えたいな～

それからジョンに無線で恐竜との遭遇をレティが報告して出発！
ファストのお願いで親父さんが後ろの車に行きました・・・んでロッテさんがこっちへ＾＾
あたしの作戦はうまく行ってるね＾＾

さらに進んで距離的には八王子の市街地を越えたくらいかな・・・
は！・・・あうっ・・・い、いかん！やばい！・・・もれる・・・

「ちょっと、レティ・・・止まってくれるかな？・・・お花摘みしたい！」

「ＯＫ＾＾ちょうどいいのでこの辺でキャンプしましょうか＾＾」

「ありがとー＾＾ちょっと丘陵の物陰まで行ってくる～」

ひょいとロココをつかんで車を降りて丘陵の向こう側まで・・・
しゃがんでっと・・・・・・・・・・ふ～～すっきり！・・・・
テッシュはポッケだったね＾＾
・・・よし終了～～＾＾・・・・ん？・・・お！・・・あれって！
・・・たぶんヘリコプターじゃね？

あたしはレティのところまでもどってハンビーのエンジンをかけて

出発準備！

「レティー！ちょっと来てー！」

「なに？どうしたの？エンジンなんかかけて」

「あっちにヘリが不時着してるみたいなの！見に行こう！」

「え？ほんとうなの？」

「うん！みんな行くよ！」

レティをルーフの銃座に上げてロッテも一緒に乗ってもらいます
あ、あたし運転できるんですよ？去年免許は取ってます＾＾
後ろから親父さんたちの車もついてきます

４～５Ｋｍ走ってヘリの側へ車をつけて・・・おお！ロッテさん！
はや！さすがお医者さん＾＾
ピュ～ッって走っていっちゃった＾＾
ヘリは無事みたいだねー・・・うん、どこも痛んでないや＾＾
コックピットに２人いるみたいだけど・・・ロッテさん・・・気絶
してるだけ？よかった！

にしても・・・でっかいヘリだな～・・・輸送機みたい・・・
お！パイロットさんたち気がついたみたい
ふむ・・・ロッテさんの話だと離陸して高度を取ったら直ぐに周り
の景観がガラッっと変わって

意識が朦朧となってきてとりあえず不時着したらしいんだけどそこまでしか覚えてないらしいよ

名前はパイロットがヒューイ少尉さんで　コパイ件整備士がベル軍曹さんだって＾＾
マックさんがジョンさんに連絡したら飛べるようなら横田基地まで来て欲しいってさ
２人に詳しい状況を説明して協力してもらいんだって＾＾

ベルさんに聞いたんだけどこのヘリは『ＣＨ－５３Ｋスーパースタリオン』って言うんだって＾＾
西側最大のヘリコプタなんだって！すごいね～
でもまだ試作機で試験飛行中のものらしいよ　なんでも搭載能力がＵＰして今まで積めなかった
ハンビーが積めるようになって　さらに武装も機関銃が１丁から２丁に増えたらしいよ

元気になったヒューイさんとベルさんは早速横田基地に戻るそうです　よかったね～＾＾
砂漠でヘリを駐車？駐機だね・・・させるのは機械に良くないそうです
バイバーイ！またあおうね～＾＾

さてさて、あたしたちは夕食とお休みタイム！
あ、マックさんレーションじゃないよーそれいらなーい＾＾！コンビに弁当があるんだよ～＾＾
カップスープもありますよ～＾＾
ちなみにかっぱ○びせんはあたしのじゃー！・・・ええ、あげませ

んとも！
簡易テントで４人はお休み・・・２人は見張りです・・・見張りは交代ですよ？もちろんね＾＾

最初はあたしと親父さん・・・あたしは東側担当で親父さんは西側です
ここは砂漠の真ん中へんなので森やジャングルまでそれぞれ１ｋｍ位はなれてます
ルーフに上がって照明弾をとなりに置いて・・・コーヒーを・・・
うん、おいしい！

親父さんなにかやらかすかって心配してたんだけどさすがに疲れてるみんなを考えて
おとなしく見張りをやってますね～・・・いつもこーなら良いのにね～・・・
ん？親父さん？・・・みんなの期待をはずしてすいません？・・・
なに言ってんだかｗ・・・

星がきれいだな～・・・あんな星しらないや・・・やっぱり違う世界なんだな～・・・

それに魔法か～・・・無意識じゃなくてちゃんと使えるように覚えたいなあ～・・・
魔法の先生でもいればいいんだけどね～ｗ・・・な～んて考えてたら・・・
さて交代ですね＾＾３時間交代なのであたしは６時間は寝れますね～＾＾
お休みなさ～い！まる＾＾

「・こ・・お・な・・」
「まこ・・おき・さ・」
「まこと!起きなさい」

「ふえ～?れてぃ?・・・おはよ～・・・ふぁ～w・・・」

ぼーーーーー・・・ぼーーーーー・・・
・・・あ～～～wまだ・・・ねむいぞ?・・・・(あたしゃ朝がよわいんですw・・・)

「ほんと^^マコトは寝起きが弱点ねぇ^^」

「うん・・・ねおきはらめ～～w・・・」

「アネさんは寝ぼすっけっスね^^」

ハンカチを濡らして・・・顔をふいてっと・・・おー目が覚めたー^^
ファスト・・・うるさいよ!

コーンフレークをミルクでかきこんでっと・・・装備確認・・・よし!OKだ^^

本日の予定は・・・お昼ごろまで南へ進んでまたこの辺にもどってキャンプするのか
戻るときは東の森林側をもどるのね・・・よし、行きますか!

今日は順調に進みます・・・１０時ころに大きな川にぶつかります・・・５００ｍはありますかね？
場所的には相原か橋本あたりですかね？

「ＨＭＭＷＶじゃ無理ね・・・渡るならＬＡＶ－２５かＡＡＶ７がいるわね・・・」

「んじゃ戻る？レティ」

「そうね・・・もし先に進むんなら次回は車両の乗換えが必要ね・・・ジョンに報告するわ」

レティは無線でジョンとおしゃべり・・・あー暑いから泳ぎたいなあ～・・・
でも何がいるか分からないモンね・・・この川に・・・
あ！親父さん飛び込みやがった！・・・いいなー・・・水着もってくればよかったｗ
あーきもちよさそう・・・ファストのやろう！あいつも飛び込んだ！マックさんもかい！
ふん！あたしゃもう知らん！え〇せんのやけぐいだー！

それから早めのお昼ご飯を食べて・・・だから！マックさん！レーションはいらないって！
帰り道は東の森の方によせてっと・・・うん、運転たのしいね～＾＾

もう直ぐキャンプ予定地だね・・・帰りも平和だったねー・・・ん？なにか聞こえた？

「キャー！たすけてー！」

親父さん・・・銃座の上からこっち見てテンプレ！ってw・・・そのドヤ顔やめれ！
バックミラーにうつって見えてるんだからね！

あたしは悲鳴の方向へハンドルをきります・・・よし、2号車もついてきてる！

「レティ！悲鳴の方へいくよ！射撃用意して！ロッテさんも後ろの銃座にあがって！」

「はい！マコトさん」

森へ少し入ると道がありました・・・お！見えたぞ！・・・馬車が襲われてる！？
2台のハンビーで近づいて・・・30m位手前で横向きに急停車！

ありゃ？襲撃現場のみなさんはこっちを見て驚いて固まってますな～
やっぱりこの世界じゃ車は珍しいよね・・・

あたしが降りると親父さんもバッって感じで降りてきます・・・あ

ら?もうやる気満々なのね・・・
親父さん1人だけ恐竜倒せなかったせいでストレスあるのかな?
みんなはルーフの銃座で火器をかまえてます

女性ばっかり?商人みたいな人?と冒険者?達を襲ってるのは盗賊?っぽいヒゲ面の男達・・・
いやらしい顔をしてんな~この盗賊たちw・・・
親父さんもテンプレ~~ってなドヤったいやらしい顔してるしw・・・
・まじめにやれ!

「んで真琴・・・どっちをやっつける?」

「そりゃ決まってるでしょ?男の方!女性を襲う男なんかけちょんけちょんにしちゃる!」

がばっ!

「をい!こんな所で抱きつくな!ばか兄貴!TPOを考えろ!TPOを!」

「だってw・・・男の方に行くなんてお父さんしんp「違う!(パシーン!)」グハッ!」

「んだから!男の方をやっつけにいくの!まったく!」

「だから、そのハリセンは痛いんだってb「ギロッ!」すんませんでした!」

親父さんはスライング土下座でぺこぺこしてます
ほんとに！この親父は！緊迫感の欠片も無いんだから！・・・ん？・・・ありゃ？

あれ？・・・前も後ろも・・・味方も盗賊さんも・・・み～んなあきれてる？
だよねーこれじゃ正義の味方じゃなくてただの漫才師じゃんｗ・・・

あ～また凹んできましたよｗ・・・

えーと・・・この状況・・・ど～しよっかな～・・・この沈黙は結構つらいぞ？

でも、なんで・・・いつもいつもこーなるのー！・・・・・・・・ｏｒｚ

6話　涙の盗賊さん　親父さん！そのドヤ顔をなんとかしろｗ！（後書き）

真琴「お疲れさまー＾＾」
レティ「おつかれー＾＾」
ジョン「出番が無い・・・こないだまでのレティの気持ちがわったよｗ・・・」
レティ「でしょー＾＾ふふん！＾＾」
ジョン「取り合えず作者さま・・・出番ください・・・」
レティ「ファストくんが変わりにがんばるらしいわよ？」
ジョン「なんですと！」
カミヤ「ところで真琴・・・キャンプしてゆうべは着替えたのか？」
真琴「うｗ・・・着替え持ってきてないもん！」
カミヤ「そうか・・・まあ、下着は下だけだからな・・・上はいらないモンな」
真琴「・・・どーゆー意味かな＾＾」
カミヤ「いや、ぺたんこのその大きさじゃいらんだろ？ぶら＾＾」
真琴「・・・ロココちゃん出番だよ＾＾」
ジョン「レティまただぞ？逃げようか？」
レティ「そうね！いそいで逃げるわよジョン！」
真琴「コキュートスで寝そべって来い！このバカ兄貴！」

どうも＾＾作者のＭ２－１０１５です＾＾
今回やと恐竜等が登場できました
第一村人？と盗賊もちょこっと出せました
あらすじに沿って書いているのですがこの主人公たちって

ほんとにかってに動いてしまって書くのが大変なんです＾＾
しばらくは1～2日のペースで投稿できると思います

次回は　第一村人と冒険者のお話になりますかね・・・
ジョンさんはその次かな？＾＾

それでは皆さんの笑顔がもっと増えますように＾＾
では！＾＾ノ

7話　涙のキャンプ　あたしだってある程度はあるよね?何って胸ですよｗ（並

真琴「まいどです＾＾」
レティ「うふふふ・・・どうもです＾＾」
カミヤ「↑まだこのままなのか?」
ジョン「このままじゃね?・・・ってか出番くれ!」
真琴「次回はあるんじゃないかな・・・出番が」
ジョン「ｗｗｗ・・・」
カミヤ「俺だって少ないぜ?セリフとかさ」
ジョン「あるだけいいじゃん!」
レティ「わたしは順調になってきたわね＾＾」
ジョン「基地に残らなきゃよかったｗ・・・」
真琴「今回はどんなお話なんだろねー?＾＾」
カミヤ「まあ・・・今回、真琴は落ち着いていこーな?」
真琴「ん?なにかあるの?」
カ、レ、ジ「「「・・・・・・」」」
真琴「ん!?」
レティ「さ、マコトはじめましょうね＾＾」

真琴「んじゃ始めまｓ・・・ん?←このサブタイトルって?・・・」
レティ「は!やばい!第7話のはじまりで～す!」

7話　涙のキャンプ　あたしだってある程度はあるよね？何って胸ですよw

Ｓｉｄｅ？？？

私はヒーノ村の村長であるお父様より　今年の税を王都であるシャマールの町へお届けすると言うとても大事な命を言い遣いました
私はこの大役を誇りに思って昨日村を出たのです！

ああ、それが・・・なんと言う事でしょう！

２時間ほど前より盗賊に襲われ　命からがらここまで馬車で走りましたが
とうとう馬が疲れ果てて倒れてしまったのです・・・
倒れた馬に馬車が乗り上げ馬車の車軸も壊れてしまいました
これでは馬車はもう使えません！
幸いに馬が疲れていてスピードが無かったので馬車は横転せずに済みましたが・・・

「キャー！たすけてー！」

私は怖くなり叫んでしまいました
村でギルドから雇った２名の冒険者の方々が直ぐに馬車から飛び降

りて剣をすっと構えます
護衛の村人3人も剣を抜き　私を守るように壊れた馬車の前に立ちます

盗賊たちがやって来ました・・・5～60人位はいるでしょう・・・
絶対絶命です！
！弓矢が飛んできました！私は御者台のかげに飛び込みますが・・・
頭をあげると・・・

冒険者の方々は剣で矢を払いのけていますが傷を受けている様です・・・下を見ると・・・
ああ・・・護衛の3人が頭や胸に何本もの矢をうけて・・・血だらけに・・・
あれでは助からないでしょう・・・私は絶望感で一杯になりました・・・すると・・・

あら？土煙が・・・盗賊たちの後ろからすごいスピードで馬車？が走ってきています
５０m位手前で2台の馬車が急に止まります・・・え！馬車じゃない！・・・馬がいません！

あんな乗り物は見たことがありません！
私達は盗賊も含め見たことも無い乗り物に対して固まってしまっています

それぞれの天蓋に人が1人づつ・・・あ、いつの間にか2人づつになってます！
それぞれが　なにか鉄の棒？複雑な形の棒を盗賊達に向けています
すると扉が開いて腰にレイピア？をさした男の子？が降りてきまし

た１４~１５歳位でしょうか?
私と同じ歳位の男の子は濃い茶色の髪に限りなく黒い茶色の目をしています!
初めて見るふしぎな色です・・・でも・・・かっこいい!

違う馬車?から騎士様?も出てきました
黒い髪!黒い目!私はそんな人間なんて見るのははじめてです!
騎士様もレイピアを持っています
スラリと抜き放ち・・・は!レイピアではない!?あの様な剣ははじめて見ます

助けて頂けるのかしら?・・・

あら?・・・じっと見ていると男の子と騎士様は何かの寸劇?をはじめています?・・・
貴方達は旅をしている芸人さんなのですか?・・・
まわりはみなあきれ返っています・・・

えー、あのー、私達を・・・助けて頂けるんですよね?・・・???

Ｓｉｄｅ冒険者

このままではまずい・・・馬が限界を超してる・・・
後ろを振り返る・・・やつらはあきらめてはいない
たずなを引き締め・・・いかん！・・・馬が倒れた！・・・バキッ
！ガガガガガ・・・ボキッ！
・・・馬を巻き込んで車軸が折れた！？・・・ガッ！ズザザザザ
ザーー！
馬車がスタックした！

「キャー！たすけてー！」

村長の娘が悲鳴をあげる・・・クッ・・・戦うしかないか・・・

私は馬車から飛び降りる・・・相棒も私にならい降りてくる
私達は盗賊に剣を抜いて構えた
村から来た護衛も娘と馬車を守るようにして剣を抜く・・・

は！矢が！私と相棒は剣で矢を振り払って・・・うっ！1～2本掠
ったか？
護衛の3人は・・・ダメか・・・だが！ただでは死なんぞ！

きっ！っと気合を入れた目で20mほど先の盗賊達をにらむ・・・
む？
その後ろから土ぼこりをあげて高速で馬車がせまる・・・援軍か！？

馬車は盗賊から30mほどの所で止まり・・・なに！なんだあれは
！馬車なのか！？
う、馬を繋いでない！・・・それで走れるのか！？

それぞれの屋根に人が1人づつ・・・あ、いつの間にか2人づつに！

なんだ?あれは!なにか鉄の棒?の様な複雑な形の棒を盗賊達に向けてる?武器なのか?

すると扉が開いて腰にレイピア?をさした１４~１５歳位男の子?が降りてきた
年下の少年は濃い茶色の髪に限りなく黒い茶色の目をしてる!
あんな色の目は初めてだぞ・・・

違う馬車?から騎士も出てきた・・・いや、剣士か?
黒い髪!黒い目!私はそんな人間なんて初めてみたぞ!
細めの腰の剣・・・この騎士もレイピア使いなのか?
スラリと剣を抜き放ち・・・は!レイピアではない!?あの様な剣は見たことが無い!

こちらに助勢してくれるのか?

え?・・・しばらく見ていると・・・コントなのか?少年と剣士が何かの寸劇?を始めたな?
旅の芸人一座なのか・・・彼らは?
まわりはみなあきれ返っているな・・・私も気が抜けたぞ?

えー、あー、われわれを・・・助けに来てくれたんだよな?・・・???

Ｓｉｄｅ盗賊

やっと追い詰めてきたぞ！・・・俺は盗賊団のお頭として命令を出す

「おまえら！もうすぐやつらの馬がつぶれる！馬車が止まったら弓で矢を飛ばせ！
護衛は殺すんだ！女は捕まえろ！・・・いいな！」

よし！馬がこけた！いい具合に馬車とからまったな
お！馬車も壊れたぞ・・・

「今だ！矢を飛ばせー！」

馬車の側にいた3人は殺ったな・・・後はあの女冒険者か・・・くっくっくっ！

ぶをををーん！

なんだ！あの音は！・・・ん？後ろか！・・・馬車が2台？・・・
土ぼこりで良く見えん！

馬車は俺達から３０ｍほどの所で止まり・・・ありゃいったい何なんだ！？馬車なのか！？
馬もいないで走ってきたのか！？

屋根に人が1人づつ・・・2人づつにふえたぞ!
なんだ?あれは?なにか鉄の様な複雑な形の棒をこちらに向けてるな・・・武器なのか?

すると扉が開いて腰にレイピア?をさしたガキが降りてきた
ガキは濃い茶色の髪に限りなく黒い茶色の目をしてる!
あんな色の目は初めてだぞ・・・

違う馬車?から男も出てきた・・・剣士か?
黒い髪!黒い目!俺はそんな人間なんて初めてみたぞ!
剣が細めだな・・・レイピア使いなのか?
男が剣を抜き・・・は!レイピアじゃない!?あんな剣は見たことが無いぞ!

お?・・・なんだなんだ?ガキと剣士が何かの寸劇?を始めたぞ?・・・
流しの芸人一座なのか・・・あいつらは?
部下どもはあきれ返って固まってるな・・・あいつらは何がやりたいんだ?

あー、んー、俺達は攻撃中だったよな?・・・もうやっていいのか?・・・???

Ｓｉｄｅ真琴

「え～～ん！親父さんのせーで白い目で見られてるよ～ｗ・・・」

「気のせいだ！」

「ぜ、絶対ちがうよ～」

「まあ、それは置いといて・・・真琴！やるぞ！」

「置いとくな！・・・でも、うん・・・やりますか！」

あたしもみっちゃんを抜いてビシッっと盗賊にむけて構える！

盗賊に向けて言い放つ！

「おっさん！強盗殺人の現行犯だぞ！神妙にすれば殺さないでおく！大人しく捕まれ！」

「なにをほざいてるガキが！この人数で俺達とやり合うってか！片腹痛いわ！」

「あくまでも引かないつもりなんだね！」

「坊主！男のガキは家でおっぱいでも飲んでろ！」

「・・・（ニコッ＾＾）」

（レティ：あちゃー・・・うん、盗賊・・・死んだわね・・・アーメン）

「ううう！真琴をバカにするとは！ゆるせん！」

あ、親父さん突っ込んで行っちゃった・・・ふう・・・しゃーないw行きますか＾＾

「レティ！弓矢持ってるのと魔術使いそうなのを撃っちゃって！」

「了解よ！さあ、みんな！ロックンロールよ！」

あたしは最短距離を切り開きながら冒険者さんたちの方へ助太刀に向かいます
親父さんは・・・うん、手当たりしだい？・・・好きにやってね＾＾

ＤＯＤＯＤＯ！ＢＡＢＡＢＡＢＡＮ！

おーレティ達もがんばってるね！・・・馬車に近づきながら

「マコト・カミヤ　助太刀します！」

「すまん！・・・あーそのなんだ、コンｔあの気の引き方は・・・うまかったぞ？」

「なぜに疑問系なの！それに言い直したよね！？」

「いや！すまん！助かったのは事実だ！」

盗賊に斬り付けながら冒険者さんとはなします

はーはー・・・ほぼ　かたずいたかな？

は！親父さんまった！そのボスっぽいのはあたしがやるから！

「兄貴！そいつはあたしがやる！」

「・・・真琴をコケにしたんだから俺がやりたいんだが・・・まあいっか？ほれいいぞ？」

親父さんに代わってボスっぽいのの相手をします

「坊主！俺に勝つつもりかい！・・・返り討ちにしてくれるわ！」

左右にみっちゃんを振り血を飛ばして鞘に収めます・・・軽く深呼吸をして・・・

右手で柄を握って・・・左手の親指でコイクチを・・・そして相手に向かって走って

「はっ！」

左胴に一閃！

あたし得意の居合い抜きでフィニッシュ！＾＾

盗賊さんもあたしを男の子扱いしなければねー・・・お、女の子なんだぞ！ふんっだ！

全員が馬車のそばに集まります
これから自己紹介ですかね＾＾

「助けて頂いて有難う御座います　私はヒーノ村の村長の娘でメアリ・エンジェスと申します」

「わたしは冒険者で剣士のリリス・ヒューイットだ　よろしく・・・こいつは相棒の・・・」

「ケイト・ウォーレンスです・・・魔法剣士やってます」

おお！生魔法使い！・・・魔法教えてくれるかな～？後で聞いてみようっと＾＾

「あたしはマコト・カミヤでこっちが親父様のヨシハル・カミヤね＾＾」

「私は小隊指揮官のレティ・フォンダよ　よろしく＾＾」

「俺はマックだ＾＾」

「ファストです　どうも＾＾」

「ロッテです・・・軍医で医者をしています・・・お仲間の方は・・・お悔やみを申上げます
それと・・・メアリさんとケイトさんは怪我をしている様なので私が診ますね？＾＾」

そっかー・・・戦闘が終わって姿が見えないと思ってたら　ロッテさんってば
矢でやられた人たちを診てたんだね～ｗ

ロッテさんが2人の応急処置をしています・・・リリスさんが言いました

「ありがとう助かったロッテ殿・・・取り合えずここから離れたほうが良い・・・
この匂いで・・・血の匂いで魔物が寄ってくる・・・いそいだほうが良いぞ」

ありゃ？魔物ですか！・・・そーゆー事なら急ぎましょう！
まず護衛さん3人のお墓を掘って・・・埋めました・・・なむ！

臨時の措置として2台のハンビーに積めるだけ馬車の荷物を移して・・・全部は無理かな？
メアリさん達3人にあたしの車に乗ってもらって・・・狭いけどがまんね＾＾
レティがジョンさんに無線で状況報告！

「マコト、ジョンからだけどメアリさん達を基地につれて来て欲しいらしいんだけど・・・」

「そかー・・・うん、今晩のキャンプで話してみようよ」

「そーね・・・ジョンにはそう言っておくわ＾＾」

さて、夕べのキャンプ地へ向かいますかね・・・もちろんあたしの運転で＾＾

異世界のみなさんは目が・・・@@！・・・になってます！
曰く速い！とか揺れが少なく乗り心地が良い！とか鉄で出来ている！とかねー＾＾
驚きっぱなしみたいですよー・・・

食べ物の話で　お菓子とかどんなのがあるの？って聞いたらくだものくらいで甘いものってほとんど無いんだって・・・あってもほぼ貴族用らしいよ・・・
キャラメルあげたらめっちゃおいしい！って喜んでましたありゃ・・・メアリさん？顔が真っ赤ですよ？ん？あたしと目が合うとそらす？
盗賊に襲われてまだ落ち着かないのかな？・・・ん？

キャンプ地に到着～！さあご飯だー＾＾・・・
あー、そうだったw・・・コンビニ弁当もう無いんだったw・・・
ありゃりゃw・・・
でもかっぱえび○んはまだあるよー＾＾

マックさん！だから！うれしそうにレーション持ってこないでってば！・・・
ニコニコしながらみんなに配ってるw・・・異世界組は　なんじゃこりゃ？って顔してるねー
・・・まあ、それしかないから食べますけど・・・はい、食べます・・・

いただきま～す！

このレーションなんだけどねーメインディッシュとパンかクラッカーが付いててね
ココアとお茶かコーヒー、あとガムとチョコレートとデザートと・・・
塩コショウ、タバスコ、ナプキンとお手拭とスプーンとマッチが入ってるんだよ
そうそう、温たため用の水ヒーターも入ってます＾＾（めっちゃ熱くなるんだよこれ！）
スプーンは自然分解するらしいよ・・・ちょっとだけエコ？
メインの味が２４種あるんだけど　・・・え？おいしいやつ？・・・んー
まあ、おすすめ？は（なんとか食える？ってのは）パスタ系かな？
（レーションファンの方　すいませんね＾＾）

異世界組みに食べ方を教えてあげて・・・
ありゃ？異世界組の方々はびっくりしながらおいしい！って食べてますねー・・・うまいかそれ？
・・・ってことは・・・こっちの世界のご飯は期待できないのか？・・・それはやだなーｗ

はい、カップスープもどうぞ＾＾・・・おースープがそんなにうれしいのか？
インスタントだからお湯をそそぐだけだぞ？・・・魔法か！とか言ってるし・・・
へ？そうなんだー・・・あのねこの世界は基本的に旅の最中は保存食がメインなんだってさ・・・
旅で温かい食事はほとんどないんだって（レーションも保存食なんだけどねー）

あ、そうそう　おいしい？からってレーションの毎日レンチャンはだめよ？
アメリカ軍でも最大連続２週間までしか食べちゃいけないらしいからね～＾＾
ちなみにノルウェー軍だっけか？なんと１食７５００カロリーのレーションがあるらしいです＾＾
レーションは太ります！まる＾＾

食事が終わってミーティングです

お！親父さんはファストと訓練か？・・・良い傾向だねー　いってらっしゃーい＾＾
ファスト　がんばるのだよ？＾＾

んで異世界組みさんたちとお話です
なんでもメアリさんたちは今年の税を納めに王都まで行く途中だったんだって
護衛も３人いなくなっちゃたし馬車も無し・・・しかも持ってこれた荷物は半分くらい？

あたしとしては良いチャンスなんで王都まで護衛かねて行きたいんだけどねー
でもメアリさんの税の半分はどーするかね・・・お！ひらめいたぞ！

「ねえ、レティ・・・あたしたちもこの国の王様に用があるでしょ？だから一緒に行くのが

ベストじゃないかな？・・・んでメアリの足りなくなった税の分とあたしたちも王様へのおみやげってか献上品をもって行くの＾＾」

「マコト・・おみやげってなにもってくの？」

「16号沿いの基地の人相手のおみやげもの屋さんからとりあえず持ってくんだよ＾＾この世界ではめずらしいものばかりでしょ？・・・でも武器はまだだめ！わたさないよ＾＾どうしても武器がほしいってんならエアガン渡せばいいじゃん＾＾」

「ふむ・・・それはいいアイデアね！・・・LAV－25も一緒なら多分だけど安全ね＾＾早速ジョンに連絡するわね＾＾」

レティは連絡するために車にむかっていきますジョンさんは賛成したみたいです＾＾あたしは異世界組みにこの提案をします

「・・・って事なんだけど・・・メアリはどうかな？」

「はい！とてもうれしいですけど・・・宝物まで頂いていいんですか？／／／」

「うんいいよー＾＾安物だしねー・・・あと、リリスとケイトはどう？」

「私はメアリが良いならそれでかまわんよ？ケイトは？」

「うんいいよ」

「んじゃ、けってー＾＾あとケイトに個人的にお願いがあるんだけどいいかな？」

「何でしょうか？」

「うん、魔法を教えてほしいんだ＾＾魔力はいっぱいあるらしいからねあたし」

「まった！マコト殿・・・私もお願いがある・・・マコト殿に剣を教えてほしい」

「へ？あたし？」

「そうだ、交換条件だケイトがマコト殿に教えて　マコト殿が私に教える・・・どうだ？」

「んーカタナがいるなー・・・古物商でも探してみるかな？・・・うん、良いよ＾＾」

「すまん、ありがたい＾＾」

みんなあたしにしゃべりかたが硬いんだよねー特にリリスね・・・肩こっちゃうw・・・

うん、女の子どーしなんだからざっくばらんに行きたいよねー・・・よし！

「あたしからお願いなんだけど・・・歳もあまり変わらなさそうだ

し敬語無しでさ
もっとざっくばらんに話しません?・・・女の子どーしなんだしさ
!^^」

お?、お?・・・どーした?・・・みんな?なに固まってるんだ?・
・・ん?

「「「えーっ@@!」」」

なんだなんだ?

「「「マコト・・・」」」

あたしが?

「「「女の子だったんですかー!」」」

・・・・・・・・・・・・・・・・orz

「・・・女ですよ?・・・」

「「「・・・・・・・じーー・・・・・・・」」」

あーん!男の子に見られてた~!・・・てかメアリはなんで残念そ
うな顔してんの?・・・
グスッ・・・あたし、泣くぞ?・・・こんなに美人でかわいいのに・
・・

た、確かにみんなより・・・む、胸ないけど!・・・あ、凹みそう・
・・

がばっ！

「おう！また！いきなり抱きつくな！ばかあにｋ「うっちゃり！（どしーん！）」うげっ！」

うっちゃりってｗ・・・相撲かい！・・・くらっちまったいｗ・・・
そして投げ飛ばすな！
ああｗ・・・腰がｗ・・・いててｗ・・・

「おまいは！抱きついたあげく、うっちゃりかい！投げ飛ばすな！バカ兄貴！」

「だって・・・真琴がみんなより小さいおｐ「死んでしまえー！（バッキーン！）」グハッ！」

はーはー！こいつは！いつもいつも！いーかげんに・・・
は！異世界組みが・・・あたし達を白い目で・・・
そ、そんな目であたしをみないで～～！

あー・・・親父さんがからむと　ほんっとに疲れる・・・

ｗｗｗもう勘弁して・・・ファストはなにやってんっだ？おさえとけよｗこいつを・・・

ファスト作戦はしっぱいなのかなあ～・・・
良いアイデアだと思ったんだけどな～～ｗ・・・・・・・・・・・ｏｒｚ

※　作中に出てきました『ＬＡＶ－２５』についての簡単な解説です＾＾

ＬＡＶ－２５装甲兵員輸送車といいまして８輪式歩兵戦闘車で水陸両用の高速偵察車両なんです
車体上部に砲塔がありましてブラッドレーＭ２、Ｍ３と同じ対空にも使える口径２５ｍｍの
Ｍ２４２ブッシュマスター機関砲を主武装として搭載しています
Ｍ２４０機関銃も２丁装備しています
乗員は３＋６名で、ディーゼルエンジンで最高時速は１００ｋｍ／ｈです
航続距離は満タンで約６５０ｋｍ走れます
ちなみにＨＭＷＶ（ハンヴィ）は最高時速１２５ｋｍ／ｈで満タンで約４００

km走れます

7話　涙のキャンプ　あたしだってある程度はあるよね?何って胸ですよw（後

真琴「・・・お疲れ・・・です」
レティ「まあ、おちついて、ね＾＾」
ジョン「よし、おじちゃんがえびせ○買ってやるぞ＾＾」
真琴「ほんと?＾＾」
ジョン「ああ、買ってやるさ＾＾だから元気出せ!な?」
真琴「うん!＾＾」
レティ「ある意味おこちゃまねw・・・」
カミヤ「ファスト!本編ちゃんと読んだか?」
ファスト「はい師匠!読んだっス!」
カミヤ「あーやって真琴をいじるんだぞ?わかったか!?」
ファスト「はい師匠!わかりましたっス!」
真琴「・・・（ニコッ!＾＾）」
ジョン「レティずらかるぞ!」
レティ「OKジョン!いそぎましょう!」
（みっちゃんを抜きながら・・・）
真琴「おまいら!ゆるさへんで!」

どーもです＾＾作者のM２－１０１５です＾＾
昨日は台風で大変でしたね・・・みなさんはお怪我とか無かったですか?
うちは庭が大変なことになってましたw・・・

さて、次回ですが基地に戻って王都へ出発ですかね?
出発までいければいいんですが・・・

それでは皆様にもっと笑顔が訪れますように＾＾
では！＾＾ノ

7．5話　涙のキャンプ　閑話です　ねえ！私にだって・・・胸あるよね！？

メアリ「はじめまして！＾＾」
リリス「どーもです！」
ケイト「どうも＾＾」
メアリ「マコトさん！かっこいいわ～！（はーと）」
リリス「うむ、剣の腕もなかなかのもの！」
ケイト「・・・ごはん、おいしかった・・・」
メアリ「マコトさんって彼女いるのかしら・・・」
リリス「剣をぜひ教わりたい！」
ケイト「・・・お菓子もおいしかった・・・」

M２「えー、みなさんばらばらなんですが・・・では7．5話いってみよー！」

今回は　書ききれなかった異世界の3人に焦点をあてています
まあ、ケイト中心なんですが＾＾
閑話と言うことで＾＾

7．5話　涙のキャンプ　閑話です　ねえ！私にだって・・・胸あるよね！？

Ｓｉｄｅメアリ

かっこいい！私はそれしか考えられませんでした
長い髪の毛を後ろで束ねてまるで凛々しい騎士様のようです・・・
盗賊の間を剣を振るい舞いを踊っているようにまっすぐこちらへ進んできます！

「マコト・カミヤ　助太刀します！」

ああ！やや高めなりりしいお声！・・・マコト様とおっしゃるんですね・・・（ポッ！）
もう私はマコト様しか目に入らず周りの出来事をまったく気にしていませんでした
マコト様はあっと言う間に馬車の周りの盗賊をなぎ払ってしまいました・・・かっこいい・・・

最後は盗賊のお頭らしき人と一騎打ちです・・・がんばってください！

それはまさに一瞬でした・・・マコト様が剣を鞘に収めたと思った

ら・・・
颯爽と走り出し剣を抜き盗賊を切り裂いて・・・すごい！
光り輝き舞うようなうつくしい剣筋・・・
まるで小さい頃に寝物語で聞いた英雄叙事詩そのものです！

マコト様を見ているとほほが熱く・・・もう顔全体が耳まで真っ赤です・・・／／／
ああ！神様！これって一目惚れって事なんでしょうか！・・・ああ、どうしましょう？／／／

Ｓｉｄｅケイト

私は基本的に動揺はあまりしないんですが・・・今回は別です・・・
盗賊相手の戦闘も忘れて・・・あぜんとしちゃいました・・・あれはなんの漫才でしょう？

男の子が盗賊に降伏勧告してますが・・・まあ、この人数差ではまず無理でしょう
思った通り盗賊は向かってきたのですが・・・すごいです！

最初に動いた剣士の男の人は強かったです！アッと言う間に5人を切り捨てちゃいました！

ＤＯＤＯＤＯ！ＢＡＢＡＢＡＢＡＮ！

な、なんの音です！？・・・馬車？からも攻撃してます？・・・あ、あれは魔法なんですか？
馬車から音と炎が上がるたびに盗賊の身体が弾け飛びばらばらになってます！

男の子もこちらに真っ直ぐ向かって来ながら道々の盗賊をあっさりと排除しています！
剣で切り裂いています！・・・すごいです！
は！さらに剣が光で輝いてます！・・・あれは剣に強化の魔法をかけているんですか？

「マコト・カミヤ　助太刀します！」

マコトさんと名乗った男の子は見る間に馬車周辺の盗賊を切り捨てちゃいましたね・・・
しかも一太刀でお頭らしき盗賊まで・・・なんとすごい男の子でしょうか！？

Ｓｉｄｅリリス

私は基本的にあまり動揺はしないのだが・・・今回は別だ・・・
盗賊相手の戦闘も忘れて・・・あぜんとしてしまった・・・なんの
漫才だあれは？
まあ、盗賊の気を引いてもらって助かるが・・・

少年が盗賊に降伏勧告するが・・・まあ、この人数差ではまず無理
だろう
予想通り盗賊は向かってきたが剣士の男は強かったアッと言う間に
５人を切り捨てていた

ＤＯＤＯＤＯ！ＢＡＢＡＢＡＢＡＮ！

は！なんの音だ！？・・・馬車？からなのか？・・・盗賊に攻撃し
ている？・・・
あ、あれは魔法なのか？
馬車から音と炎が上がるたびに盗賊の身体が弾け飛びばらばらにな
っている！

少年もこちらに真っ直ぐ向かって来ながら道々の盗賊を排除している！
剣で切り裂いているのか？・・・すごい！
それにあのような剣筋は見たことが無い！
は！剣が光で輝いている！・・・あれは剣に強化の魔法をかけているのか？

「マコト・カミヤ　助太刀します！」

マコト殿と名乗った少年は見る間に馬車周辺の盗賊を切り捨ててしまった・・・
しかも一太刀でお頭らしき盗賊まで・・・なんてすごい少年なんだ！？
私はあの少年が使う剣を必ずマスターしたいと心から思った・・・

Ｓｉｄｅ異世界組み

（本来は依頼主のメアリがやるべきなんですが・・・あの様子（マコトに一目惚れ？）
では無理そうなのでリリスは・・・まあ、思い込んだら一直線のイノシシ女ですしね・・・
ここは私、ケイトが話を纏めるとしましょうか・・・）

それぞれの簡単な挨拶もすんだところでロッテと名乗るお医者さんがリリスを診ます
治療が済み　リリスが血の匂いで魔物が集まる事を教えると
村から来た護衛従者3人の墓を道の脇へ作っています
普通は遺品を回収して終わりなのですが・・・

穴を掘り、土を被せ大き目の石をのせて最後に祈っていますね・・・
マコトと父親が祈っています・・・それは変わった祈りでした・・・
手を合わせてうつむいて・・・マコトの達の国のしきたりですかね？
他の人たちは敬礼でしょうか？
二の腕を真横にして手を目の横、ちょうど三角を腕と手で顔の横に作る感じですね・・・

私達は出来る限りの荷物をこの車と言う乗り物に移しました
メアリさんは荷物が残ることに心配顔ですが・・・
・・・ハンヴィといってましたね確か・・・鉄で出来た乗り物なんてすごいです
しかもものすごく透明な板が窓についています！

馬が要らない代わりになんでも燃料と言う油で走るそうです
燃料があるかぎり休まず走り続けられるそうです・・・

車が走り出すとみな口々に言い出します

「速いです！」

「ゆれが少ない！」

「椅子の座り心地がとても良いわ！」

「これは！全部鉄なのか！」

「窓の板が透明です！」

私達３人は目が・・・@@　↑こんな感じでカルチャーショックです

隊長であるレティさんとお医者様のロッテさんは屋根の穴から周り
をみはってます
マコトさんは御者席（運転席と言うらしい）でこの車を操ってます

冷静になって考えると・・・この車・・・鉄で、それも複雑で丹念

に作られていますね・・・
マコトさん達が着ている服やレティさんたちの装備などもかなり丁重で丹念なものです
もしかしたらこの方達は貴族などの高貴な産まれなのかもしれませんね・・・

森をそれて走るとそこはなんと砂漠です！昨日の空の異変といいなんなんでしょう・・・
このまま砂漠を進み昨日マコトさん達が野営した場所で今晩もキャンプするそうです

マコトさんが食べ物の話をふってきます

「この国のお菓子ってどんなのがあるのかな？」

「菓子ですか？われわれはほとんど食べませんね・・・菓子はほぼ貴族用ですからね・・・
甘いものはくだものを食べるくらいですよ」

マコトさんはとても残念そうな顔をしていますね・・・
ん？メアリさん、残念そうな顔もまた素敵！って目で見て・・・真っ赤ですよ？お顔がね・・・

真琴さんが『きゃらめる?』と言う菓子をくれました・・・
とても丁重に包装されてます・・・包装をはがすのが勿体無いくらいです・・・
口に入れると・・・
あ!あまい!こんなおいしい菓子は初めて食べますね!
メアリさんが『おいしい!』を連発してます・・・マコトさんが笑顔で振り向くと
真っ赤な顔でうつむいちゃいました・・・分かりやすすぎです、メアリさん・・・

きゃらめるを食べてさっきの疑問が確信に近づいていきます・・・
こんなおいしいものを食べるなんて贅沢は平民ではできませんよ
やはり貴族なのですかね・・・

キャンプ地に着いたようです車から降りて私とリリアはカマドを作ろうと・・・
周囲をみまわしてもカマドを作る石どころか燃やす木も無いんですが・・・

どうしようか困っているとマックさんが茶色い袋をくれました・・・
ビーフシチューだよって言ってますが・・・
え?これが食事なんですか!・・・びっくりしましたねさすがに・・・

マコトさんが食べ方を教えてくれました・・・書いてある文字は読めませんが・・・

袋をやぶると中からたくさんの袋がでてきました・・・
なんと！砂糖に塩にコショウまで入っています！超贅沢！

主食の温め方？え！この袋に水をいれるだけ？・・・私の知らない魔術ですか！？
熱々のシチューはとてもおいしい！パンもかちかちの保存用ではなくやわらかです
ジャムと言う甘い物をかける？はちみつみたいな感じですかね・・・
ジャムをつけると甘くておいしい！
チョコレートと言うデザートにコーヒーまで！

マコトさんが人数分のカップを持ってきて何かの粉を入れています
そこにお湯をそそぐと・・・なんと！スープです！魔法ですか！
マコトさんはただのインスタントと言いましたが・・・『いんすたんと』ってなんですかね？
料理魔法の事ですかね？

さらに驚いたことにマコトさんはこの食事が好きではないと！・・・
こんなに美味しいのに！
もっと美味しいものがあるんですか！・・・やっぱり貴族の方なんですかね？

我々の旅では保存食がメインなのですが・・・
しかしこれはキャンプの食事の域をはずしていますね・・・調理器具すら無くてこの内容・・・
う～んまさに豪華な宮廷料理・・・ま、食べたことは無いですけどね

最後にマコトさんが一言ぼそっと言いました　この携帯食は太るよ

と・・・

先に言って下さい！全部食べちゃったじゃないですか！・・・ｏｒｚ

食事が終わって今後の為の話し合いです

マコトさんとレティさんは何か確認しています・・・私達の事なんでしょうね

マコトさんのお父さんはファストと剣の訓練に行くそうです

リリスがうらやましそうに見てますね・・・

メアリさんが説明しています・・・今年の税を納めに王都まで行く途中だった事、

護衛も３人いなくなり馬車も無くなった事・・・しかも持ってこれた荷物は半分だけ・・・

マコトさんがなにやら考え込んでいますね・・・

するとひらめいた！って顔でレティさんを見ます

「ねえ、レティ・・・あたしたちもこの国の王様に用があるでしょ？だから一緒に行くのが

ベストじゃないかな？・・・んでメアリの足りなくなった税の分とあたしたちも王様へのおみやげってか献上品をもって行くの＾＾」

「マコト・・・おみやげってなにもってくの？」

「１６号沿いの基地の人相手のおみやげもの屋さんからとりあえず持ってくんだよ＾＾
この世界ではめずらしいものばかりでしょ？・・・でも武器はまだだめ！わたさないよ＾＾
どうしても武器がほしいってんならエアガン渡せばいいじゃん＾＾」

「ふむ・・・それはいいアイデアね！・・・ＬＡＶ－２５も一緒なら多分だけど安全ね＾＾
早速ジョンに連絡するわね＾＾」

レティさんは連絡？・・・どうやってするんだろ？・・・するために車にむかっていきます

私達にマコトさんが提案をします
シャマールの王都までわれわれの護衛で一緒に来てくれるらしいですしかも王様にも会いたいって・・・簡単に言ってますけど・・・

「・・・って事なんだけど・・・メアリはどうかな？」

「はい！とてもうれしいですけど・・・宝物まで頂いていいんですか？／／／」

「うんいいよー＾＾安物だしねー・・・あと、リリスとケイトはどう？」

「私はメアリが良いならそれでかまわんよ？ケイトは？」

「うんいいよ」

「んじゃ、けってー＾＾あとケイトに個人的にお願いがあるんだけどいいかな？」

「何でしょうか？」

「うん、魔法を教えてほしいんだ＾＾魔力はいっぱいあるらしいからねあたし」

「まった！マコト殿・・・私もお願いがある・・・マコト殿に剣を教えてほしい」

「へ？あたし？」

「そうだ、交換条件だケイトがマコト殿に教えて　マコト殿が私に教える・・・どうだ？」

「んーカタナがいるなー・・・古物商でも探してみるかな？・・・うん、良いよ＾＾」

「すまん、ありがたい＾＾」

私の意見がはいってないですよ？リリス・・・まあ、知的好奇心がありますので
マコトさん達と行動できるのはうれしいですけどね・・・
それに退屈しなさそうですし＾＾

そのあと別口でマコトさんからお願いされたんですが・・・

「あたしからお願いなんだけど・・・歳もあまり変わらなさそうだし敬語無しでさ
もっとざっくばらんに話しません?・・・女の子どーしなんだしさ!^^」

なんですと!・・・フランクに喋るのは賛成ですが・・・いやいや!その前に!

「「「えーっ@@!」」」

お、男の子だと思っていましたよ!?

「「「マコト・・・」」」

みんな声をそろえて叫びます・・・せーの!

「「「女の子だったんですかー!」」」

・・・・・・・・・・・・・・・orz

マコトさんは四つん這いになって涙声で

「・・・女ですよ?・・・・」

「「「・・・・・・・じーー・・・・・・・・」」」

私達は呆然とマコトさんを見ています・・・特に胸とか、あと胸とか・・・
マコトさんは貧にyゲフンゲフン・・・胸が小さかったので男の子だと思っていましたよ

おう!
マコトさんのお父さんがいきなり現れてマコトさんの胸を題材にしてコントを始めちゃいましたね・・・あ、マコトさんが凹んでます・・・

今後は胸の話はタブーですかね?

それにしてもこっちでも凹んでる人が1人いますね?・・・メアリさん・・・
とっても残念そうな顔して・・・メアリ・・・儚い恋だったね・・・
ご愁傷さまです・・・
元気だしましょ?明日はきっと良い事がありますって^^

Ｓｉｄｅレティ

さっきのジョンとの無線だけど・・・カミヤとマコトにはまだ内緒にしとけって・・・
いいのかしら？
基地のみんなは賛成なんだよね
んー、ジョンも私も大役ね・・・
まあ私を含めこっちの海兵隊員はみんな賛成だったけどね＾＾

うん、きっとカミヤはおもしろがるでしょうね・・・
でもマコトは基地に戻ったらどんな顔をするのかしら？
それはそれで楽しみでもあるわね＾＾

マコト＾＾多数決の民主主義って事であきらめてね＾＾

7．5話　涙のキャンプ　閑話です　ねえ！私にだって・・・胸あるよね！？

メアリ「あーん！・・・ふられたー！あーんあん！」
リリス「メアリ・・・泣くんじゃない・・・」
ケイト「ってか、ふられる以前じゃ・・・」
メアリ「び、びえーん！！」
リリス「あ、こらケイト！余計な言を・・・な、泣くなメアリ・・・」
ケイト「だって、告ってもいなかったしw・・・」
メアリ「び！え！ー！ん！！！」
リ、ケ「「ほっとくか・・・」」

どうもです！＾＾M２－１０１５です
人物を変えながら書くのって難しいですね～
試行錯誤で書いてます

次回は基地へ帰るまでになりそうです
ジョンの出番は次回も無いかな？

それでは皆様の笑顔がもっと増えますように＾＾
では＾＾ノ

8話　涙のお風呂　個人的に胸の格差社会はきらいです！（前書き）

真琴「おひさで－す＾＾」
レティ「どーもです＾＾」
ジョン「おーす！＾＾」
ファスト「どもっス！」
真琴「あれ？親父さんは？ファスト」
ファスト「師匠はなんか撮影しなきゃってどっか行ったっス」
レティ「・・・なんかやりそうねカミヤは・・・」
ジョン「だなー・・・ま、俺は知らんが」
真琴「もう！ファストは兄貴の見張りでもあるんだからね！しっかりしてよ！」
ファスト「俺、師匠の見張りっスか！？」
真、レ、ジ「「「がんばって！＾＾」」」
ファスト「なんか・・・理不尽っス・・・」
真琴「でも、あやつは何をやらかそーとしてんだろ？」
レティ「いやな予感しかしないわね・・・」
ジョン「ま、カミヤだしｗ・・・」

真琴「んじゃ、はじめまｓ・・・←ん？・・・」
レティ「やばっ！だ、第８話はじまりです！」

8話　涙のお風呂　個人的に胸の格差社会はきらいです！

あ、あたしってばみんなに男の子に間違えられてたんだｗ・・・ｏｒｚ

めげるなあたし！凹んだら負けだ！・・・うん、へーきだよ？・・・たぶんねｗ・・・
うん、このことは忘れよう・・・忘れるに限るね！

さてと・・・
あれ？メアリ？落ち込んでない？・・・どーしたんだろ？聞いてみるかな・・・

「ねえ、メアリなんだけど　なんで落ち込んでるのかな？リリスはわかる？」

「ん？・・・うむ？なるほど落ち込んでるな・・・ケイトはわかるか？」

「・・・2人とも・・・にぶちん？・・・ま、そっとしといた方が良いかもね＾＾」

ん？ほっといても良いのかな？・・・ありゃ？メアリなんかニヤッ

と笑い顔になったよ?
小声で『そうよ!女の子でもいいじゃない・・・性別なんて関係ないわ!』とか言ってるよ?
ゾクッ!おう、なんか寒気がしてきましたよ?

「ね、ねえ、ケイト・・・メアリはほんとに大丈夫なの?なんか変だよ?」

「・・・大丈夫・・・がんばれマコト＾＾」

「?・・・なにをがんばるの!?」

その後ケイトはニヤニヤとあたしを見てるだけだし・・・
メアリはあたしの近くに来てだまって顔を赤くしてるだけだし・・・
リリスは頭に?マーク出してるし・・・ま、いいか・・・たぶん・・・

見張りの順番は昨夜と同じだそうです
異世界組みも見張りをやるって言ってたけどそこは遠慮してもらって寝てもらいました
あ、寝る前にあたしが18歳だって教えたら　みんなまたびっくりしてたんだ・・・
14~15歳位だと思ってたんだってさw・・・くすん・・・凹んでたまるか!

さて、見張りやって眠りますかね・・・

親父さんも銃座にのぼって・・・カタナの手入れしてるのかー・・・
静かで良いけど・・・
見張りの時だけは親父さんってばマジで大人しいから助かるけどね・
・・

こーゆー時の親父さんって背中がすごーくおっきく見えるんだよね
ー・・・
４年前のあの時もそーだったなぁ・・・ベトナムの国境付近で追わ
れててさー・・・
あたしゃへとへとだったしねー・・・なさけないぞw帰ったら特訓
だーとか言ってたけどさ
親父さん怪我してたのに一晩中見張りやってくれて・・・あたしに
寝て良いぞって・・・
横になって見た背中、大きかったなー・・・
まーなんとかラオスからタイへ抜けられたんだけどねー
たった2人の家族・・・親父さんありがとねー・・・好きだよー＾
＾／／／
は、！いかんいかん・・・この話は長くなる！見張りをせねば！

さて、あたしもみっちゃんの手入れしますかね・・・ん？・・・あ
れ？
おお！汚れてない！なんでだ？・・・これも魔法なのかな？・・・
ま、いっか＾＾

Ｓｉｄｅ異世界組み

さてさて、こちらは３人娘のテントの中ですが・・・

メアリ「はあ～・・・マコトさん　素敵だったわ～／／／」

リリス「うむ、あの華麗な剣さばき！」

ケイト「・・・」

メアリ「やっぱりマコトさんて・・・かっこいいわよね～／／／＾＾」

リリス「うむ、あの若さで・・・いやもう１８歳だったんだが・・・あの剣技はすごいな！」

ケイト「・・・・・・」

メアリ「うふ！王都まで一緒・・・あんな事や、こんな事まで！・・・きゃっ（ポッ＾＾）」

リリス「うむ、あんな技や、こんな技をぜひ教えてもらおう！」

ケイト「・・・・・・・・・」

メアリ「そ、それから二人は・・・・・・いや～ん！／／／（くね

くね）／／／」

リリス「うむ、マコトと私は二人で魔獣の討伐などで名声を皆から受けるんだな！＾＾」

ケイト「・・・うるさいよ！もう寝なさい！（でも2人とも会話がかみ合ってないよね？）」

真琴「へっくちゅん！・・・ん？」

そんなこんなで夜は深けます・・・ケイトは寝不足でしたとさ！チャンチャン＾＾

Ｓｉｄｅ真琴

「・コ・・・・・き・！」

「・コト・・・起き・・」

「マコト！・・起きろ！」

「・・・ん～～？・・・あーさーでーすーか～？・・・・」

「うむ、今は太陽が昇るところだ＾＾起きてくれ」

「・・・は～い・・・リリス？・・・んじゃおやすみ～～・・・・」

「いやいやいや！寝るのではない！起きてくれ！」

「・・・んにゅ～？・・・あと1時間～～ん・・・・」

「あ～～！マコト様のお寝ぼけ姿！・・・あは～ん！いいですわ～（抱きしめっ！＾＾）／／／」

「いやいや・・・メアリ！そうではなく起こすのだ！」

「ほへ？・・・おっぱいが～ｗｗｗおっきいぞ～？・・・んん、やわこい・・・んにゅ？」

「あ！マコトさん！・・・いきなり・・・そんな・・・あは～んっ！／／／」

「いやいやいやいやｗメアリｗ・・・起きてくれ！マコト！」

んー・・・まだ眠いのにｗ・・・あれー？なんでメアリと寝てるんだ？・・・ん？

およ？リリス？・・・んにゃ・・・まだ頭が働かないにゃ～ｗ・・・

「ぼ～～～～・・・・」

「とりあえず起きたか・・・って、口で『ぼ～～～～』って言ってる？」

「あん！もう起きちゃうんですかマコトさん？　私なら・・・いいですよ？（ポッ！／／／）」

は！いかん・・・なんかあたしの貞操が危険な予感？・・・・・・・よし、起きよう！
ほんとあたしってば朝だけは弱いよね～・・・

「ん～～！おはようリリス、メアリ・・・ってなんでほおずり！？」

「おはよう御座います＾＾マコトさん！（すりすり＾＾）／／／」

「おはようマコト＾＾さあ朝飯前に剣の訓練だ！」

「w・・・はいな」

リリスは元気だねー
あたしは腰にはりついてるメアリをはがしながら濡らしたタオルで顔を拭いて・・・
んーさっぱり！＾＾
てか、まだ起きるの早すぎない？・・・はあ～wリリスはこーゆー

とこ真面目だね～

あたしが起きたんで見張りの2人に声をかけます

「レティー、ロッテさん！あたし起きたんで降りて休憩してー＾＾」

「あら！マコトが起きてる！？・・・ほんもののマコトよね？」

「もう・・・レティったらw・・・あっちでリリスと剣の訓練してますね＾＾」

「りょうか～い！コーヒーでも入れとくわね＾＾」

「うん、ありがとーロッテさん＾＾」

あれ？そー言えば・・・ケイトがいない？・・・まだ寝てるのかな？

「ね、ケイトは？・・・まだ寝てるの？」

「うむ、昨夜はなかなか寝付けなかった様で朝飯になったら起こして欲しいそうだ・・・
なぜか・・・機嫌がわるかったな・・・なにかあったのかな？」

まだ寝てる人がいるからちょっと移動して・・・ここなら良いかな？

メアリはおずおずとついてくるね・・・見学かな?

さて、リリスにはなにから教えようかね・・・まずはリリスの型を見ますかね・・・
うん、思った通りだね・・・ぶったたきつける様な剣筋ね・・・型を直すの大変かな?

あたしはリリスにいくつかカタナでの剣筋を素振りで見せてあげて真似してもらいました
リリスはめっちゃ真剣に素振りしてるな~・・・こりゃマジだね・・・
でもスジは良いよね・・・うん、カタナは絶対に探してあげよう^^

「おーい!マコト!朝飯だぞー!」

おー、マックさんが呼んでますね・・・もうそんな時間か・・・

「はーい!・・・リリス朝ごはんだって^^・・・ほらメアリも・・・行くよ!^^」

ごはんだごはんだー^^・・・おーケイトは起きてきたのか・・・
コーヒー飲んどるね^^
さてさて・・・うっ!マックさんw朝からレーションはいりませんよ?・・・
あら、すねた顔がかわいいじゃないですか!・・・マックさんたらもうっ^^

ありゃりゃ、3人はレーション食べるの？うれしそうにもらってるね・・・
マックさんも受け取ってもらってうれしそうだよ・・・よかったね＾＾
あたしはドライフルーツ入りのシリアルとミルク、そんでカップスープです　ん、おいしー！＾＾

みんなにぼそっと「太るぞ」ってまた言ったらケイトがピクッってなって考こんでたけど・・・
（でも結局食べてたね＾＾）うん、ちょっとおもしろかったです！
まる＾＾

さて、出発前に今日の行程をみんなで確認＾＾
このまま何も無ければお昼前には戻れる・・・んだけど・・・
一昨日の恐竜も見てもらってさ、リリス達に確認してもらおうよ・・・
今までにも居たのかどうかね・・・ってなわけで寄り道して帰ります

「みんな聞いてくれる？このままあたし達の基地？町？って言うか国？に向かうんだけど
1つ聞いていいかな？・・・あのさドラゴンとか竜ってそっちにはいるの？」

「いますね・・・私は見たことはないですけど・・・」

「私も無いな・・・聞いた話だが小さいので２ｍ、大きいのだと２０ｍを越すらしいぞ」

「んじゃこれから行く所でさ、一昨日あたしが倒したやつなんけど・・・見てくれる？」

「え！マコトはドラゴンを倒したのか！」

「いや・・・たぶんドラゴンでは無いと思うんだけどね・・・」

「リリス、取り合えず見てからね・・・キバか爪でも持って王都のギルドに報告しましょ」

「うむ、分かったケイト・・・そうしよう」

「ああ～・・・マコトさん・・・ドラゴンを倒すなんて・・・キャー！／／／＾＾／／／」

よし、方針は決まったね・・・なんか最後の一言がみょうな感じだけど・・・
では、しゅっぱーつ！

おーここだここだー・・・ジャングルの木がへし折れてるから遠く

からでも分かるね～
んであそこに倒れてるやつが例の竜なんだけど・・・

ありゃー異世界3人娘は目が『@@!』↑こんなんなっちゃってますな～
まあ、あたしも恐竜(こいつ)に会ったときはなったんだけどねー

「どう?こんなの見たことあるかな?」

「いやいやいや!これをマコトが仕留めた?」

「うん、首をスパーっとね＾＾」

「マコトさん・・・すごいですw・・・／／／」

「で、こんなのそっちの国にいるのかな?」

「・・・ドラゴンとは違うみたいですね・・・初めて見ます」

「んじゃ、あっちの小さめなのは?」

「ばらばらで良く解りませんが・・・いないと思いますね」

「そーかー・・・」

「これもマコトがやったんですか?」

「いや、レティ達だよー」

「マコト達って・・・いったい・・・」

「うん、それは町に着いたら教えるねー＾＾」

やっぱりこっちのジャングルはリアルジェ○シックパークなんだねw・・・
う～ん・・・これも報告してみんなで考えるか・・・移住しなきゃいけないんだしね

「で、マコト　この竜の一部を証拠として持って行きたいのだけど・・・いいかな？」

「いいよー、でもケイト　持って行くってどこへ？」

「我々がこれから向かう王都にある冒険者ギルドだよ」

お？お？・・・親父さんがすっとんでこっちくる！

「ぼ、冒険者ギルドだって！！（ドヤ～＾＾）」

「ふ～w・・・はいはい・・・テンプレ乙です・・・」

まったく、このおっさんはw・・・でもそうだよね・・・
この砂漠ってさ幅が2～3ｋｍ位しかないから恐竜があっちへ行く事だってあるよね
確かにしかるべき所へ連絡しないとねー・・・もっとすごいのがい

るかもだしw・・・
取り合えずデジカメで写真とっとくかね・・・

リリスがティラノぽい方のキバと爪、ケイトがラプトルぽいやつのキバと爪を採取して・・・
ん?メアリは・・・あたしの後ろにくっついてる?

「本当はこいつ自体を運べればよいのだが・・・」

「ん?リリス＾＾写真取っといたよー」

「しゃ、写真とは?」

「あ、分かんないよねー＾＾こっちきてー」

あたしは車に戻りノートＰＣにデジカメのデータを入れてみんなに見せたんだけど・・・

「な、な、なんだ!これは!・・・絵なのか?」

「いつの間に絵なんか描いてたの?マコト」

「私がいるわ!ほら、ここにリリスとケイトも!」

「んーとね、これは写真って言ってね、このカメラで見たものを記憶する機械なんだよ?」

「「「・・・@@!・・・・」」」

「まあ、そんなに驚かなくても・・・それじゃあ、あたしの国、てゆーか町に着いたらさ
もっと驚いちゃうぞ?楽にいこーね楽に＾＾」

んー基地に着いたらもっと驚いちゃうよねー・・・どうしようかね・・・
うん、レティと相談したほうが良いよね
3人を車に乗せてからレティと話すか・・・

「ねえ、レティちょっくらいいかな＾＾」

「なに?マコト」

「あのねー基地へ着いてからの事なんだけどさー・・・」

結局3人娘以外の全員と打ち合わせしてジョンに無線で報告、16号沿いの町に入ったら
ノンストップで管制塔ゲート経由で車両格納庫へ行くことになりました
歓迎会用においしい昼ご飯をたっぷりと用意して待ってるそーです!まる＾＾

砂漠をしばらく走っていると・・・見えてきましたねー基地が＾＾
まーここが第二の国であり町になるんだよねー・・・新しい居場所か～・・・

家に残してきたモモちゃん（メスの猫でアメリカンショートヘアなんだ）元気かな～・・・
またイケメンの神様に会えたら保護を頼んでみよーっと

お、もう直ぐ舗装路だねー・・・やっと車が揺れなくなるよ

「おい！マコト！なんなんだこの道は！石畳じゃないぞ！」

「まったくゆれません！」

「道だけではなく　この町の建物もすごい！」

「まーまー、落ち着いてね＾＾戻ったらみんなの歓迎パーティもあるしね＾＾」

「む、パーティとな！私達はその様な場所で着るドレスの持ち合わせは無いが・・・」

「へーきへーき＾＾そのかっこでＯＫだよー」

「そうなんですか？・・・」

「うん、あたし達だってこのかっこだよ？気にしない気にしない＾＾」

国道１６号を北上し　福生病院の先のゲートを右折っと・・・滑走路側に出て南下して・・・
車両格納庫前にとうちゃーく！
お！ジョンさんやみんなが格納庫前でお出迎えです＾＾

「おー＾＾おかえり！・・・ごくろうさん＾＾・・・みんな怪我はなかったか？」

「ジョン＾＾レティ以下５名只今帰還しました・・・直ぐ報告をしますか？」

「硬くなるなよレティ・・・なんならタメ口でもいーぞ？＾＾それとうれしい発見があった」

「はい、楽にしますね＾＾・・・で、うれしい発見って？」

「ここの参謀長の屋敷に露天風呂があるんだ＾＾もっともヒューイから聞いたんだが・・・
すでに湯は沸かしてあるから女性だけで入ってくると良い＾＾
旅館みたいに湯船は大きいからみんなでゆったりと入れるぞ＾＾」

「やったー！お風呂だー！３日ぶり～～・・・ふふふ！」

「こら、マコトはしゃがないの！・・・でもジャパニーズバスは最高よね！」

「うん！さあ、行こう！＾＾」

戸惑っている3人娘を車に乗せて・・・あ、べつのハンビーだよ^^
さっきまで乗ってたやつは荷物とか降ろさなきゃだしねー

さすがジョンさん着替えも用意してくれてました・・・
サイズはレティさんが大体の大きさを無線で知らせてたんだって・・
・さすがです！
下着は軍の支給品だけど服は福生の町で適当に持ってきたらしいよ
^^
明日は下着とかも町で探さないとねー・・・

脱衣所でぱーっと服を脱いで・・・ありゃ？3人娘は戸惑ってるのかな？
あらそうなの？・・・あのねーお風呂に入るのって初めてなんだってー
貴族や王族くらいなんだってさーお風呂に入る人って^^

で、石鹸で体をこうやって・・・わかった？それからこのシャンプーで髪の毛を・・・
そうそう　わかったね^^・・・
実際にあたしが身体を洗ってやり方を教えました・・・さあ！入るぞー！^^

「ふえ～～^^いい気持ち～～・・・」

「マコトったらオヤジくさいわよ・・・ふえ～～って^^」

「いいじゃん、それが醍醐味！」

「さ、みなさんも湯船に入って＾＾」

「・・・おじゃまします・・・」

「うむ・・・」

「はい・・・」

「「「おお～～気持ち良い＾＾」」」

「でしょ～＾＾」

3人娘はめっちゃ喜んでます・・・レティはもともと慣れてるしロッテさんは休暇の度に温泉旅行してたんだってー・・・ってロッテさん・・・縁に両手で枕作って頭のせてふへ～～って感じで　ぐてーっとのびてますな～～・・・浮いてるな・・・ちちがw・・・

「えい！（もにゅ！）」

「おう！メアリ！・・・あん！・・・な、なんで後ろからちちを揉むですか！」

「うふふふふふ／／／」

「いやいや！メアリさん！うふふ、じゃなくてですね・・・」

「うむ、良いではないかマコト・・・減るもんじゃないぞ？」

「いやいやリリス！・・・これ以上減ったら困るから！」

「ふむ・・・確かに少しばかりちいｓゲフンゲフン・・・」

「あー！今、小さいって言いかけたー！・・・もう！剣、教えてあげないよ！」

「いや、すまん！これ、この通りだ！」

とリリスは頭を下げるんですけど・・・

リリスはＣくらいあるなー・・・メアリとケイトはＤくらい？・・・

レティとロッテはＥ～Ｆはありそうだし・・・あ・・・目から汗がでてきた・・・

がんばれ！あたし・・・大きけりゃ良いってもんじゃない！・・・

と思う・・・

あ、・・・お湯でみなさんのがぷか～んと揺れてたゆたってる・・・

う、うらやましくなんか無いんだからね！

だめだ・・・凹んできたｗ・・・

ううｗ・・・神様！あたしにも！ギブミーおぱーい！・・・・

こーゆー格差社会には断固反対です！・・・・・・ｏｒｚ

8話　涙のお風呂　個人的に胸の格差社会はきらいです！（後書き）

真琴「おつかれー・・・ってか最近　このネタ（胸）おおくない？」
レティ「とゆーか、こればっかりね・・・」
ジョン「まー作者が貧乳ヒロイン好きだからなー」
真琴「ひ、貧乳ぢゃないもん！」
レティ「そうよジョン！マコトだって多少はあるのよ！」
真琴「た、たしょう・・・ｏｒｚ」
レティ「あ、そんな意味じゃなくて・・・もう！ジョン！どーするのこれ！」
ジョン「すまんすまん・・・」
マック「レーション食べれば元気になるぞ？」
真、レ、ジ「「なるかー！！」」」
カミヤ「おーいファスト・・・約束のしっかり撮れたぞ＾＾」
ファスト「師匠！今はやばいっス！」
カミヤ「ん？見たがってじゃん女子６人の入浴シーン＾＾」
真、レ、ロ、３人娘「「「「「「のぞきかー！！！」」」」」」
ファスト「師匠！にげるっス！」
カミヤ「ん？女の子達　いなくなっちゃったね？」

キュラキュラキュラキュラキュラキュラ・・・

ファスト「Ｍ１Ａ２っス！エイブラムスっス！師匠！にげるっス！！」
真、レ、ロ、３人娘「「「「「「おまいら轢殺！！！」」」」」」

どーもです＾＾作者のＭ２－１０１５です＾＾

涼しくなってきましたねー皆様はお風邪など大丈夫でしょうか？

この小説は手探りで書いていますが表現とかむづかしいですねー
あらすじの通りに書いていくと
予定の文字数が2～3倍になります
このままゆっくりと書いていこうと思います
なので皆様にも気長なお付き合いを宜しくお願いします＾＾

次回は歓迎パーティと町での物品調達ですかね？

それでは皆様の笑顔がさらに増えますように＾＾
では＾＾ノ

9話　涙の王族　え～！だ、だれがお姫様なの～ｗ！（前書き）

真琴「どうも～＾＾」
レティ「ハーイ！＾＾」
ジョン「やったー！やっとセリフじゃ～！＾＾」
カミヤ「ふっかつ！」
真琴「前回戦車でふみつぶしたのに・・・」
レティ「カミヤの生命力ってｗ・・・」
ジョン「ファストは瀕死だったな・・・」
真琴「のぞきは死刑！あたりまえ！」
レティ「そこは賛成ね」
ジョン「まー俺は男だからある程度の気持ちは分かるんだが・・・」
レティ「ん？」
ジョン「ジョークだよ？ジョーク・・・」
真琴「では！第9話はじまるよ～＾＾」

9話　涙の王族　え～！だ、だれがお姫様なの～ｗ！

「さあみんな！マコトを弄るのはそのくらいでね＾＾」

レティｗ・・やっぱり弄(いぢ)られてたんだーｗ・・・あたしってばｗ・・・ｏｒｚ

「さ、ここはレティにまかせて・・・もう上がりましょ！湯あたりしちゃうわよ＾＾」

レティとロッテさん・・・ニヤッとアイコンタクトとってる？
ロッテさんに連れられて3人娘は脱衣所へ・・・
レティがあたしに微笑んで声をかけてきます

「マコト、ジョン達と企画してたんだけど・・・3人娘の歓迎会であの子達を驚かすためにね
みんなで仮装してみようって事になったのよ＾＾」

「へ？仮装？・・・うん、それはいいかもね」

「でしょ？仕返しにびっくりさせてあげなさいな＾＾」

「うん！」

ん？レティ何でそんなにニヤッとした顔してるんだ？・・・ん？
お風呂から上がってレティと2人で車で移動・・・おーさすが仕官

！個室なんですねー
んで、レティの部屋で着替えます・・・が、えーと・・・これ着るの！？
だって、ふりふりですよ？これってw・・・

「え！？ねえ、レティ・・・マジでこれ着るの？」

「うん＾＾リアが選んだんだって」

「リアさんが選んだんだ・・・でもこれって・・・」

「もんく言わない！・・・さあ、着替えて・・・お化粧とアクセサリーもね！」

「・・・は～い・・・」

うわ！・・・何？このピンクのドレス・・・まるでお姫様じゃん！
ティアラまで冠って・・・
うわーレティ！・・・化粧が濃いってば！・・・真っ白な長い手袋・・・真珠のイアリング・・・
おう！ネックレスとブレスレットもかい！・・・ヒールも高いぞ？
髪の毛もセットアップですか・・・あー、もう好きにして！

レティは軍のフォーマルユニフォームですな・・・その帽子かっこいいね・・・
あら、サーベルまで装備するんですか・・・

着替え終わって外に・・・おう、ヒールが・・・よろけてしまう・・

・
よろけながら苦労して外に出ると・・・

・・・@@！・・・は！びっくりです！こんなのまで用意して・・・
でかいんです！長いんです！黒いんです・・・なにがって、
車ですよ！・・・（あれと勘違いした人はエッチだぞー・・・キャッ＾＾）
キャ、キャデラックのリムジンです！フルスモークです！

窓が開いて・・・親父さん・・・そのドヤった笑顔　いいかげん止めませんか？

おお！親父さんめっちゃフォーマルスーツですね
ファストも軍のフォーマルユニフォームで　さらに運転手ですか・・
・

後部座席にレティと乗り込んで・・・広いですね～・・・まるで動く応接室ですね
おー冷蔵庫もあるー

「真琴、今後の打ち合わせだが　この国、ヨコタ国と呼ぶが、俺が王様で真琴が姫様な＾＾」

「まあ、こんなの着せられた段階で予想はついたけど・・・」

「んでジョンが宰相でレティが将軍だぞ?良いか?・・・それでだ
真琴は姫なんだから
言葉使いに気をつけるんだぞ?」

「うん・・・後のみんなは?」

「うちの連中はみんな貴族で軍と政治の要職って事にした＾＾」

「3人娘はどうするの?」

「ロッテとリアに着替えを頼んであるからへーきだろ?＾＾」

「ふ～ん・・・ま、がんばるか!＾＾」

と、のーてんきにも　この時のあたしは3人娘にどっきりを仕掛ける方だと思っていました
えー!油断してましたとも!

リムジンが車両格納庫側のパーティ会場に着きました
ファストが運転席からサッと降りて後部座席のドアを優雅に開きますありゃーレッドカーペットまで用意したんですね～・・・

まず、親父さん次にあたしとレティが降ります
レティがあたしの横に立ち手を取ってくれます
3人で優雅にしずしずゆっくり歩いて進んで行くと親父様が立ち止まります
ジョンさんが大きな声で・・・

「ヨコタ国　国王陛下ヨシハル・カミヤ様、同じくプリンセス　マコト・カミヤ様・・・御入場！」

チャキーン！
おお、みんなフォーマルユニフォームで一斉にサーベルを抜いて顔の正面に構えてる！
背筋伸ばして・・・さすが軍人ですね～

さーて3人娘はどこにいるのか・・・いたいた＾＾
おーシックでかわいいドレスですな・・・3人とも似合ってるね＾＾
でもさ、ふふふ＾＾3人娘　口をあーんぐり開けてめっちゃおどろいてるぞ＾＾・・・ぷぷ！
ファストったら今にも噴出しそうね＾＾あれ？リアも笑いをこらえてる？
さて、からかうとしますかね＾＾・・・さーて　すまし顔して・・・

「本日は　ご無理を言って我が国に来て頂き真に有難う御座います・・・歓迎の宴ですが
粗末では御座いますが御食事をご用意致しましたので　ごゆるりとご歓談くださいね＾＾」

と言って優雅にニコッと微笑んだあたし・・・ぷぷ・・・あー面白い！固まっちゃってるよ！
これってば病み付きになりそう！＾＾

Ｓｉｄｅ3人娘＆ロッテ＋リア

「さあみんな！マコトを弄るのはそのくらいでね＾＾」
「さ、ここはレティにまかせて・・・もう上がりましょ！湯あたりしちゃうわよ＾＾」

とレティさんとロッテさんに言われてお風呂を後にします
脱衣所に入るとたくさんの服がありました

ロッテ「好きなの着ていいからね＾＾ほしかったら好きなの持ってってもいいわよ？」

メアリ「え！こんな高そうな服をもらっても良いのですか！」

リリス「うむ、ほんとによいのか？ロッテ殿・・・」

ケイト「うれしいですけど・・・」

ロッテ「遠慮しないで＾＾まだあるし・・・それに直ぐパーティドレス着てもらうから」

リリス「む？マコトは普段着で良いと言っていたが・・・だめなのか？」

ロッテ「えーと、ね　この国のお偉いさんがお目通ししたいんだっ

てさ＾＾」

ケイト「それでは仕方ないですね・・・」

リリス「うむ」

ロッテ「じゃ、着替えたら行くわよ＾＾」

ドレスや靴、アクセサリー等が置いてある部屋へ連れて行かれます
部屋には1人の女性の軍人さんが待ってました

リア「私はリアです　軍医助手ですが簡単な外科手術は出来ますよ・・・よろしく＾＾」

早速ドレスアップです
みなさんはこんな高級なドレスや靴は着た事がないそうです
お化粧も初めてです
アクセサリーの精密さに驚いていました

ロッテ「これもまた着ることがあるだろうし　今日の記念に貴方達にあげるわね＾＾」

え?このドレスやアクセサリーで平民なら一財産ですよ!?
みんなが躊躇ってます

リア「いいのいいの、その辺に有ったやつだから・・・気軽にもらってね＾＾」

みんな感謝しています・・・やっぱり女の子ですね～

メアリは黄色いドレスでリリスは濃いブルーのドレス、ケイトはエメラルド色のドレスです

準備が出来たのでパーティ会場へ向かいます
会場は車両格納庫側の芝生です
車から降りるとたくましい男性がエスコートをしてくれます

ジョン「私はジョンと言います　皆さんの歓迎パーティを企画しました・・・
　あ、自己紹介は後で＾＾もう直ぐ国王陛下がいらっしゃるのでその後に＾＾」

メアリ「こ、こ、こ、こ、こ、こここくくく・・・」

ケイト「メアリしっかりして！ここに国王陛下がいらっしゃるんですね？」

リリス「うむ、それでドレスか・・・」

ジョン「まあ、陛下といっても気さくな方なので心配は無用だよ＾＾」

ジョンさんは心配は無用と言ってくれてますが　みんな緊張してしまいます
黒塗りの長い車がきました

ドアが開きます
降りてきたのは・・・なんと！めかしこんだカミヤさんです！
つづいて降りてきたのは・・・レティさんに手を引かれたお姫様なのですが・・・
ピンクのドレスにティアラがキラキラと光っていますけど・・・
は？・・・マコト？・・・？？？
え？え？え？・・・みんな頭の中がパニックになってます
完全に固まってしまいました
レッドカーペットの上を優雅に歩いてこちらに来ます
３人で優雅にしずしずゆっくり歩いて進んで行くと親父様が立ち止まります
そしてジョンさんが大きな声で・・・
「ヨコタ国　国王陛下ヨシハル・カミヤ様、同じくプリンセス　マコト・カミヤ様・・・御入場！」
チャキーン！
みんなさんが背筋を伸ばし　一斉にサーベルを抜いて顔の正面に構えています！
プリンセスが近寄ってきます
もう一度お顔を拝見しますが・・・やっぱりマコトさんです！
「本日は　ご無理を言って我が国に来て頂き真に有難う御座います・・・歓迎の宴ですが
粗末では御座いますが御食事をご用意致しましたので　ごゆるりと

ご歓談くださいね＾＾」

と言って優雅にニコッと微笑んでくれました

でもみんなはパニックです

（メアリ：うわあああ～ど、ど、どーしよー！私ってばおっぱい揉んじゃってるし～ｗ！）

（リリス：ど、どうしよう！今朝マコトをたたき起こしてしまってるぞ！？）

（ケイト：高貴な生まれかもとは思っていましたが・・・王族のお姫様だったとは！）

（（（３人娘：これは、不敬罪で打ち首ですか！？））））

そんな３人をよそに　マコト姫は天使のような微笑をみんなにむけていました＾＾

おほほほ＾＾

Ｓｉｄｅ真琴

固まってる固まってる＾＾うん、たのしいね＾＾
親父さんがえらそーにしゃべります

「苦しゅうないぞ・・・我が姫と友好を築いてもらい　あいすまぬ・・・これからも良しなに＾＾
そこに居るのはジョン・フレデリック、わが国の宰相をしておる・・・
レティシア・フォンダは知っておるな・・・彼女は国防の将軍を務めておる・・・
他の者もわが国の重鎮だ・・・主に政治や軍、近衛などを任しておるぞ
ま、もっとも我ら全員が戦士だがね＾＾」

それぞれ親父さんから紹介される度にきれいな礼をしてるよ！
みんな魂の抜けた様な顔しちゃって・・・ぷぷぷ＾＾
あー・・・だめだ、笑っちゃいそうだよ・・・

あはははは！・・・あー喉が渇いたー・・・お茶でも飲もうかな・・・

「ではみなさま　私はあちらで所用がありますので・・・ごゆっくり（ニコッ＾＾）」

あたしは席をはずしてお茶を飲んで・・・お？親父さんが近寄ってくるぞ？
お茶でも飲むのかな？

「真琴！うまく演じてたな＾＾」

「へへ＾＾おもしろかったー」

「これからもうまく演じてくれよ?」

「へ?これからも?・・・なんでさ」

「この設定はずっと続けるんだぞ?ヨコタ国とか真琴や俺が王族とかね＾＾」

ぶー!・・・お茶吹いちゃったじゃん!

「聞いてないよ!」

「車のなかで俺が言ったろ?」

「・・・言ってたね・・・確かに」

「だろ!だから真琴はお姫様＾＾」

「・・・」

あたしが・・・姫・・・プリンセス?・・・お姫様なの?・・・これからずっと?・・・

いやー!あたしも騙されてたのｗ・・・ｏｒｚ

いやいや!まてまて・・・落ち着けあたし!

あたしはレティの所へ小走りで駆け寄って・・・

「レティ・・・どーゆー事なの!?」

「ん？なにが？」

「3人娘をびっくりさせるんじゃなかったの！？」

「うん、びっくりしてたじゃない＾＾どっきり成功ね！・・・あら、まだ固まってるのね？」

「・・・そーだけどw・・・あたしがお姫様って・・・」

「あら？カミヤから聞いてないの？」

「・・・聞いた・・・」

「で、マコトは拒否したの？」

「・・・してない・・・」

「じゃ問題ないじゃない＾＾」

あれー？あたしってばはめられた？・・・よし、ジョンさんにも聞いてこよう！

「ねージョンさん・・・」

「なんで御座いましょう、姫様＾＾」

「もう！・・・この設定ってさ　いつまでやるの？」

「デフォですが？・・・なにか？」

「いやいや！マジでなの？」

んでジョンさんが事のあらましを説明してくれたんだけど・・・
今後の他国との交渉や移民の世話をするにあたってヨコタ国には王族が必要なんだって・・・

で、われわれ親子が適任らしいんだけど・・・これは全員が賛成したんだってさｗ
んー・・・そう言われると断れないなあ・・・
確かに親父さんってば交渉事も口八丁だし？あたしも王族を前にして物怖じしないしｗ・・・

「んじゃ、正規の場だけで良いんなら堅苦しいこと引き受けるってのは　ダメ？」

「んー・・・まあ、それで良いかな・・・マコトも王様（カミヤ）の面倒で大変だろうしな＾＾」

「ＯＫ～＾＾んじゃあたしゃ固まってる３人娘を起こしてくるね～＾＾」

「おう！うまくやれよ～＾＾・・・あそうだ！マコトちょっといいか？」

「なに？」

「あの３人うちの国に取り込んだらどうだろう？・・・ちょうど幹部が不足してるしな・・・
レティの報告だと結構やり手みたいだし？・・・それに基地の結界

をすんなり入れたって事は
俺達に害が無いって事だろ?・・・マコトが良いならまかせるぞ^^」

「んー・・・わかった^^でも無理強いはしないよ?」

「OK、それでいいさ」

まあ、完全に納得はしてないけどなんとかなるでしょ?・・・多分?
さて、お姫様(メデューサ)に石にされて固まった3人を元に戻すかね?^^

「おーい!生きてるかー?」

「は!マコトさん・・・お姫様だったんですね?」

「うむ・・・今朝は大変失礼をいたしました!(ペコッ!)」

「まさか王族とは・・・失礼をいたしまして・・・」

「あはははははは!・・・もう、みんなったら^^タメ口でいいんだよー」

「「「へ?」」」

「昨日言ったでしょ?歳も近いし敬語は無しだって^^」

「うむ・・・しかしですn「うん、王族命令!^^」・・・うむ・・・」

「うん＾＾あたしとみんなの仲でしょ?友達じゃん＾＾」

「うむ、王宮などの正式な場所以外は普通にしよう・・・約束する！みんなも良いかな?」

「いいですけど・・・マコトさん・・・そのドレス姿とっても素敵です！＾＾／／／」

「マコトがそれで良ければ私も良いですよ」

「ありがとー＾＾みんなのドレス姿も似合ってるよ＾＾」

「リア殿が私達にプレゼントだって言ってたがもらってもいいのか?マコト」

「うん、リアさんが言ってたんなら良いんじゃないかな?」

「こんなすてきなアクセサリーにドレス・・・家宝にします！マコトさん＾＾／／／」

「売れば一財産・・・売らないけど」

それから多少の脚色?をしてあたし達がここに来た理由を話したんだけど・・・

もうね、神様から直接頼まれたとか話したら・・・みんなってばさマコトはなんなの!って・・・ふつうの?人間ですが?なにか?＾＾

さてさてお腹も減ったしみんなで食べ物たべよう＾＾
自己紹介をしながらお食事です・・・３人娘にこの国は現在１３人だって教えたらたら
驚いてたけど・・・この１３人でどんな怪物でも倒せるし、たとえ国だって向ってくるなら
全部やっつけられるよって言ったらさ　めっちゃ驚いてたんだけどね＾＾
同年代と食事しながらのおしゃべりは楽しいです！まる＾＾

さてさて・・・王都へ持ってくメアリの税と私達の王様への献上分、小遣い稼ぎの商品と
あと、リリスのカタナを探しに行かないとねー
軍用トラックにみんなで乗ります・・・相変わらずシートはダメダメですな～ｗ

よし、まずはカタナ探しで骨董品屋さんかな？

「リリスーここにカタナがあるんだけど・・・ちょっと見てくれる？」

「うむ、・・・ほう！いろいろあるな＾＾」

「好きなの選んで表で素振りしてみたら？予備も入れて２～３本選んでねー」

「うむ！」

リリスはこれで良いとして・・・ケイトとメアリも何か選んだらどうかな？＾＾」

「私もいいのですか？」

「いいよー」

「私は護身用の小さめのものが良いんですが・・・マコトさん、選んでください＾＾／／／」

「んー短刀か脇差しかなー？・・・メアリ！この辺にあるよー」

「マコトさん・・・この赤い鞘のはどうでしょうか？」

「脇差しねー・・・良いんじゃないかな？・・・予備はどーする？」

「こっちのナイフみたいなのにします＾＾」

「うん短刀だね＾＾・・・ケイトは？良いのあった？」

「これってなんです？マコト・・・この十字みたいなのは？」

「ああ、これはね、手裏剣っていってね投げて使うの・・・こうやってね！」

あたしは壁に向かって手裏剣を投げます！・・・シュカッ！・・・うん、ナイス！

「ほう・・・面白い武器ですね・・・でも扱いがむづかしそうです・・・」

「だねー・・・ケイトはこのタイプのカタナが良いんじゃないかな？」

「刃渡り７０ｃｍくらいですね・・・うん、良いですね　これを基準に２～３本選んでみます」

それぞれカタナも決まったし・・・てきとーにここにある刀（やっ）は車に積んどくかな＾＾
さて次は・・・貴金属店だね

ありゃー・・・みんな驚いてるねー

「マ、マ、マ、マコトさん・・・ここは宝物庫ですか！すごい！宝石がいっぱい！」

「そんなとこかな？メアリの税の足りない分を選んじゃって＾＾」

「え！・・・多分そこの小さい物１個で十分だと・・・だってこれ金剛石ですよね？」

「金剛石？・・・ああダイヤモンドね＾＾そーだよ・・・でも１個で良いの？」

「十分です！」

「そうだ！みんな欲しいのあったら持ってっていいよー＾＾」

「「「え！」」」

「その代わりにお願いがあるんだけど・・・いいかな？」

「なんでしょう？」

「うん、うちの国で働いてみない？」

「「「えー！」」」

あたしは今の現状を教えて将来の移住計画にみんなが必要だと話したんだ＾＾
メアリは村に兄がいるので村長の許可も多分大丈夫らしいです
冒険者の２人は未開拓地の冒険が出来る事と我々をもっと知りたいこと、
あと、剣（カタナ）をもっと教えて欲しいそうなのである程度の期間なら良いそうです

勧誘成功！へへへ＾＾良い仲間ができました！まる＾＾

王様へのおみやげも宝石とか時計を持ったし・・・
後は・・・１００円ショップで工具とかソーラー電卓と・・・ノートとペンもだね
テンプレでビー玉とビーズをたっぷりといただいて・・・
この世界でのお小遣い稼がなきゃね＾＾

お！そうだった・・・たしかここの軍装品屋さんで売ってたよね・・

・あったあった！
そうですエアガンです！拳銃とライフルを２０丁づつと・・・弾とガスとかもね＾＾
これでいいかな？・・・うん、足りなかったらまた来ればいいかね＾＾

基地にもっどってと・・・次は宿泊場所を決めないとねー
おう、もうジョンさんたちが車両格納庫から近い所の住宅を接収してましたか！
さすがですねー＾＾

「んじゃ、３人はこの家を使ってね＾＾使い方が解んないと思うんで今晩はあたしも泊まってあげるからね＾＾」

「マコトさんありがとう！・・・おとまり・・・キャッ！＾＾／／／」

「うむ、・・・マコト　晩飯前にカタナの稽古をしないか？」

「いいよー＾＾１度　格納庫にもどってからね・・・マックさんも久しぶりに鍛えてやるか！」

トラックで格納庫前に戻ります・・・ん？・・・どーしたんだろ？
親父さんがこっちを見て怪訝そうで悩んだ顔をしてますなあ・・・

「兄貴、どったの？」

「・・・真琴・・・俺達はものすごく大事な事を忘れていたんだ！
これはやばいぞ！」

え？・・・親父さんがヤバイって言う事は本当にまずいぞ！？

「真琴がトラックで帰ってくるのを見て思い出した・・・マジでまずい事だｗ・・・」

「な、なに！まずい事って！？」

「こっちの世界に来るときにトラックに轢かれてｎ「大ばかもの！（パカーン！）」グヘッ！」

「はーはー！何かと思えば・・・テンプレかい！」

「だ、大事なことだぞ？・・・あと、そのハリセンは痛いんｄ「ギロッ！」さーせん！」

はーｗ・・・こいつが王様だぞ？・・・いいのか？

もう、夕ご飯食べてお風呂入ってぐっすり眠りたい・・・
３人娘も『あ、また始まった』みたいな顔して・・・なれたもんだね～ｗ

あたしの平穏っていつ来るんでしょう・・・

神様でもなんでもいいから助けて！・・・・・・・・・・ｏｒｚ

9話　涙の王族　え～！だ、だれがお姫様なの～ｗ！（後書き）

真琴「おつかれさまです・・・」
レティ「ごめんねー騙すつもりではなかったのよ・・・」
ジョン「そうなんだよ・・・いや、すまんね」
ロッテ「あら、でもとっても似合ってたわよ?ドレス＾＾」
リア「あたしが選んだんですよ！＾＾」
ファスト「でも姉さんに黙っとけって言ったのは師匠ッス」
真琴「・・・なんだって?」
カミヤ「ぷぷ・・・真琴のドレス・・・ピンクの・・・ぷぷぷ！」
真琴「やっぱりおまいかー！」
カミヤ「あははは！真琴が・・・ピンク！あははは！」
カチャカチャ・・・
ジョン「いや！ＴＯＷはやばいって！」
ファスト「姉さん！対戦車ミサイルっスか！?」
レティ「さあ、逃げましょ＾＾」
ロッテ「全力でカミヤから離れましょう！」
真琴「おまいの血は何色だー！！！」

まいどです＾＾作者のＭ２－１０１５です＾＾
ここの所　涼しかったので鼻風邪っぽい症状がでました
皆さんは大丈夫でしょうか?
まあ、寝不足もいけないんでしょうけどね＾＾

さて次回は魔法の訓練といよいよ王都へ出発ですかね?

それでは皆様にもっと笑顔が増えますように＾＾
では＾＾ノ

１０話　涙の魔力　おおすぎる魔力は危険がいっぱいです！？（前書き）

真琴「どうもでーす！＾＾」
レティ「ハ～イ！＾＾」
ジョン「オース！」
カミヤ「・・・出番へってないか？」
真琴「静かでいいじゃん＾＾」
メアリ「その分私ががんばりますマコトさん！」
真琴「いやいや・・・メアリのがんばるって・・・」
リリス「最初の登場では私はさっそうとした剣士だったような・・・」
ケイト「それはないな・・・」
レティ「なんか３人娘に出番を奪われだした？」
３人娘「「気のせーです」」」

真琴「それでは１０話のはじまりでーす！＾＾」

１０話　涙の魔力　おおすぎる魔力は危険がいっぱいです！？

親父さんが王様って・・・ほんとにへーきなのかな？
まあ、なんとかなるで・・・なってほしいなーｗ・・・・・・ｏｒｚ

さて、気を取り直してリリスと訓練しましょーかね・・・
そうだ！その前に・・・せっかく持ってきたんだし・・・

「マックさーん、ファストー＾＾カタナ持って来たから好きなの選んでー＾＾」

お？・・・みんな興味あるのかな？全員来ちゃったよ・・・

「マコトこのカタナはどうしたんだい？」

「あ、マックさん＾＾古物商のお店で見つけたんだよ＾＾」

「俺達ももらって良いのか？」

「私もほしいわ！」

「いいよー　みんなもどうぞー！＾＾」

おお！マックさんとファストは真っ先に選んでるね・・・やっぱり太刀ですか・・・
およ？ヒューイさんとベルさんのヘリコンビは小太刀ですか・・・渋いの選んでるね・・・
モースさんとフレックさん、ベッカーさんは刀ですね＾＾
ロッテさんとリアさんは脇差しですか？はい、どーぞ＾＾

「ジョンさんとレティはどーする？」

「私もほしいわね・・・何がいいのかしら？」

「俺はあまりもんでいいぞー＾＾1番後には福が有るってカミヤが昔　言ってたし＾＾」

「そっか＾＾んじゃレティこれ持ってみて・・・どう？バランスは？」

「んー・・・うん、丁度良いわね・・・これにするわね＾＾」

「んじゃ俺はこいつで・・・おお、こりゃ良いカタナだな」

「あ、ジョンさん　あともう1軒カタナを売ってる所があったと思うんですけど
明日にでもこっちに持って来ませんか？あと宝石屋さんとかだってあるしね＾＾」

「・・・そうだな・・・雑貨は別としても・・・貴金属や食料等は手分けして運んじまうか？」

「あ、そうだ！みんな魔力があるんだからケイトに魔法も教えてもらおうよ！＾＾」

「うん！そうだな・・・んー明日は取り合えずマコトたち女性が教わってくれないか？・・・
俺達は物資を町から回収してくるから」

「おっけー＾＾・・・あ！お願い！・・・か○ぱえびせんも持ってきてね？」

「ＨＡＨＡＨＡＨＡ！相変わらず好きだなー＾＾ＯＫ持ってくるさ！」

明日の方針も決まりましたね・・・
なんて事をやってたらもう直ぐ夕ご飯ですね・・・リリスごめん！
教えるのは明日ね？
さて、ごはん～＾＾今晩はハッシュドビーフとアンチョビのピザ！
シーザーサラダですね＾＾
お、みんなお酒も飲んでるね・・・いいな～・・・
よし！あたしももーらおっと＾＾
ベッカーさんに言ったらシュタインベルガーを数本くれました！
これよ！これ＾＾ドイツの白ワイン！うん、冷えてておいしい！甘口で飲みやすいしね～＾＾
およ？３人娘も飲みたそうだねー

（皆さん！飲酒は２０歳をすぎてからですよ？ここは異世界なのでＯＫですが＾＾）

「メアリ達も飲む？おいしいよ？これは葡萄のワインだよ＾＾」

「え？ワインが透明なのですか？マコトさん・・・普通はくすんだ濃い赤色なんですが・・・」

「うん、これは白ワインって言ってねー・・・ま、とりあえずどーぞ＾＾」

「・・・！・・・おいしいです！」

「うむ・・・甘みがあってうまいな！」

「おいしいですね・・・これは・・・さすが王族が飲むお酒ですね」

「いやいやいやいや！これあたし達の世界ではちょっと高いけど普通のお酒だから！」

と、楽しくみんなで飲み食いしてました＾＾・・・・・・・はずなんですが・・・

３０分後・・・

「ああ！マコトさん！（すりすり）／／／」

「うむ！マコト！酒がうまいな！あははは！」

「ふむ・・・おいしいです・・・もっとマコトも飲むです」

「あは、ははは・・・」

1時間後・・・

「うふん・・・マコトさん・・・（すりすりすりすり）／／／」

「うむ！マコト！飲んどるか！酒がうまいな！がっはっはっは！！」

「ふうむ！・・・おいしいです！・・・マコト！飲むです！」

「あ、は、は、は、は・・・」

2時間後・・・

「いやん！・・・マコトさん！・・・わたしにもすりすりしてください！／／／」

「うむ！・・・うむ？・・・マコト！酒がないぞ？もっと持って来い！だっはっはっは！！」

「なーんですと！！・・・マコト！わたしの酒が飲めないと？・・・もっと飲むです！」

「・・・だめだこりゃw・・・orz」

その後、酔っ払って寝てしまった3人娘をみんなで部屋へまで運んでベッドに放り投げましたあたしもベッドに入って・・・

「zzzzz・・・いやん・・・マコトさんったらw・・・エッチw・・・zzzzz」

「ぐごーぐごー・・・うむ!・・・マコト!・・・・酒だ!・・・・ぐごーぐごー」

「・・・むにゃむにゃ・・・もっとのむです!・・・・むにゃむにゃ・・・・・・」

「・・・みんな寝言もうるさいよ!」

真琴はなかなか眠れませんでした・・・
もう二度と3人娘に酒を勧めるのは止めようと真琴は本気で神様に誓いましたとさ＾＾

「マコト・・・起きてください」

「う！まぶしいｗ・・・」

「こんばんは、マコト＾＾」

「あ！貴方は！（イケメンの神様だ！）」

「そうですよ　以前お会いした神です」

「どうも・・・あれ？ふつーに喋れるぞ？寝起きなのにあたしへーきだ！？」

「それは魂だけここに来てもらっているからです＾＾身体はベッドの上ですよ＾＾」

「そーなんだ・・・魂だけ・・・で、何の御用ですか？」

「ええ＾＾移転した町の分の結界を少し広げました・・・ジャングルとの境界までです」

「おお！それは有りがたいです！危険が減ります！」

「いえいえ＾＾この世界を救って頂くんですからお安い御用です　・・・

あ、そうだ　まだ名乗っていませんでしたね　私はアイテール・・・アルでいいですよ＾＾」

「アルさんですね・・・（ギリシャ神話の原初天空神様ですか！？）分かりました」

「では、また＾＾」

「あ！待ってください！・・・アルさんにお願いがあるんですが・・・」

「はい、何でしょうか？」

「えーと、あたし、猫を飼ってたんです　モモって名前なんですけど・・・
元気ですかね？・・・できれば会いたいんです・・・」

「はい、分かりました＾＾然るべき時にこちらへ連れて来ます・・・
直ぐは無理ですが・・・
そうですね・・・それまでは私がこちらで面倒を見ておきましょう＾＾」

「はや！でもアルさん！ありがとう！＾＾」

「さて、そろそろ戻らないと上司がうるさいんですよ・・・」

「上司ってこの世界を作る時に失敗しちゃった方ですか？」

「そーなんですｗ・・・ああ、上司はワカンタンカって名前なんですがね・・・」

「ワカンタンカ！？・・・（インディアげふんげふん・・・ネイティブアメリカン！？の・・・

それもスー族の大精霊神様!?）・・・また、マイナーな方が上司なんだねー」

「そーなんですよw!・・・もうね、せこいし、大雑把だし、うるさいし、肩は揉ませるし・・・」

「は?そうなんですかw・・・うちの兄貴とどっこい?」

「いえいえ!こっちの方が酷い・・・」

「いやいや!うちの兄貴の方が・・・」

なーんて朝まで愚痴の言い合いっこをしてましたとさ・・・
この件でアルさんが上司に怒られたのは　また別の話です＾＾まる!

さて、朝ですねー・・・あたしゃ寝不足気味なんですが・・・
・・・でも、モモに会えるんだー・・・

「ぼーーーーーーー・・・」

ぼーっとそんなことを考えながら周囲をゆっくり見渡します・・・

リリスはまだ寝てますね・・・あらあらwベッドから落ちかけて・・
・寝相が悪い？
ケイトも・・・うん、寝てるね・・・ピーン！と気を付けの姿勢で・
・・疲れないのか？
でも、まあ2人の事は良いとして・・・うん、問題はこっちだw・・
・

「えーと・・・メアリさん？」

なぜに貴方はあたしに引っ付いてる？・・・しかも全裸で・・・す
っぽんぽんだよ！・・・
は！あたしも全裸？・・・なぜに！・・・いつ脱いだ？・・・んん？

「メアリ！ちよっと起きて！・・・起きてってば！」

「・・・は～い・・・マコトさん・・・おはようです＾＾／／／」

「おはよう・・・って、なぜあたしのベッドにいるの？・・・で、
なんであたし達全裸なの？」

「え！はだか・・・キャーッ！！！／／／」

「な、なになに！」

「キャー！キャー！（飛び込み！抱き！すりすり）キャー！・・・
やわらかいですw／／／」

「な！胸に顔・・・すりすり・・・あん！・・・しないで・・・ん
んw・・・」

「キャー！（すりすりすりすりぺろっ）／／／」

「あうw・・・メアリ！・・・だめ～～w！」

「2人共うるさいです！」

「「ごめんなさい・・・」」

「ぐごーぐごー・・・」

ケイトが止めてくれて助かったー・・・リリスは・・・『ぐごー』ってw女の子でしょうにw

さて、メアリの言い訳を聞かないとね！

「メアリ！何でこんな事すんの！」

「え、えーとですね　夕べご飯を食べてお酒を飲んだ所までは覚えてるんですが・・・

寝苦しくなって起きてみたらベッドの中に居て・・・服を見たら昼間着ていた服だったんで

着替えようと全部脱いだら・・・隣のベットにマコトさんが寝てて・・・マコトさんも

寝苦しそうだったんで服を脱がしたんですが・・・ですがまったく起きなくて・・・

つい、あまりにもマコトさんがかわいかったので潜り込んで抱きつ

いて・・・」

「それだけ？」

「その後は・・・寝たんですが、あまりにも良い匂いだったのでいろいろと堪能して・・・
ああ、ささやかながらやわらかい双丘！その中心のつぼみがだんだん固く大きくなって・・・
フトモモの付け根もだんだんと湿り気をおびて・・・あまそうな蜜がしとどに流れ・・・
だんだんと花弁のつぼみもほぐれて開いて・・・ああ！私は蜜だらけの花弁に顔を近づけて
そのまま開いた花弁に舌をからｍ「ストーップ！！」はい？・・・」

「あーもう！ここは『ノクターンノベルズ』じゃなくて『小説を読もう！』なんだからねｗ
だからそれ以上はＲ１８倫理に引っかかる！」

「あ、あーるじゅうはち？」

「そこは突っ込まないで！・・・それより！メアリはそんな事したの？あたしに！」

「いえ、全部夢ですよ？・・・マコトさんの布団に入った後はねちゃいました（テヘッ＾＾）」

「・・・・・」

メアリｗ・・・こ、このこはｗ・・・・・・ｏｒｚ

さて、メアリに正座で説教も（約1時間）したし、みんなも起きたし・・・
シャワーと洗面所（歯磨きとか）の使い方を教えて・・・朝ごはんにしましょ！

カリカリベーコンとスクランブルエッグ、コンソメスープとコールスロー＾＾
りんごのジュースも用意してっと・・・あとはクロワッサンとコーヒーか？
あたしが作り始めたらリリスとケイトがマコトって料理できるんだーと驚いてました・・・
あたしは　ふふん！と胸をそらせます
メアリは　お料理できるマコトさんも素敵！とか言ってましたが・・・無視！＾＾

「さあ！食べましょ」

みなさんおいしいって完食です！・・・へへんっだ！＾＾

今いるここは滑走路の北の端です
これからみんなで魔術の練習ですね＾＾

メアリはリリスに剣術を教わります

ケイト先生曰く、イメージが大事なんだそうです
まず、体内の魔力を感じる事から始めます
魔力の放出ができてから　それぞれの属性にあった魔法を覚えるのだそーです

訓練をはじめて5分で地球組はギブアップ・・・なぜって？
身体のどこに魔力があるのか、何が魔力なのか解んないんです・・・

それではとケイトさんが1人づつ手を取って重ねます
魔力をケイトさんから流し入れて　その後魔力を吸い出すそうです
その出たり入ったりしている流れているものが魔力なんだそうです

あたしもケイトさんと手をつなぎ・・・お、お、お！・・・これか？
なんか身体の中にうごめくと言うか　『もじょもじょ』するものがあると言うか・・・
言いづらいですがなんかあります！

みんなも何かあるのは解ったみたいですね＾＾

ん？太陽が真上って事はそろそろお昼ですかね・・・お腹がへりました・・・
お？ハンビーが来ますね？・・・あ、マックさんだ！・・・おーい
＾＾

マックさんがお昼ご飯を持ってきてくれました・・・でも！
おっさんおっさん、そのレーションは却下ですよ！・・・・
ん？ちゃんと別に持ってきてるじゃないですが！・・・マックさん

てばおちゃめさん＾＾

基地内には元々アメリカチェーン店のハンバーガー屋さんとタコス屋さんがありますが
そこで作ってくれたんですって＾＾
（ほんとにあります・・・ただしアメリカ味ですがｗ）
あたしゃアメリカ製のハンバーガーはあまり好きではないのでタコスを食べます
うん、おいしい！ウーロン茶もよく冷えてます＾＾

お腹も膨れて練習開始ですかね

夕方近くになってみんな魔力の放出が出来るようになりました
ケイトが手本で北の砂漠に向かって魔法を使います

「燃やし尽くせ！ファイヤーボール！」

のばした右手の手のひらから直径２０ｃｍ位の炎の塊が飛んでいきます！・・・すごいですねー

レティもやります　直径４０ｃｍ位の炎の塊が飛んでいきます！
ロッテとリアは３０ｃｍ位の炎でした
ケイト達もみなさんすごい！って言ってます

いよいよあたしの番です！
そー言えば神様があたしの魔力量はすごいって言ってましたね・・・
手を抜きますかね・・・
んじゃいきますか・・・えいっとな！

ヒュー・・・ドカーン！！

・・・@@・・・・・・えーと？・・・どうしますかね・・・この空気・・・
直径２ｍ位の炎の塊が飛んでいきまして・・・えーと・・・
１ｋｍほど先の砂漠に１００ｍほどのクレーターが出来ちゃいました！
最弱のつもりだったのにｗ・・・

みーんな固まっちゃってますね・・・どーしましょ？

あ、レティにロッテさん、リアさんも・・・そんな目で見ないで！
ケイト！やれやれって感じでこめかみを押さえながら頭を左右に振らないで！
リリスはさすが王族だってうなずいてるし・・・違うから！
メアリは・・・うん、きらきら目してるね・・・

あれ？・・・でも、これって親父さんも出来るって事ですよね？
最弱の魔力であんな事を！？

ああー、そうだ！神様に今から親父さんの魔力を元に・・・って出来ないんだった！

うｗ・・・はやまったのかなｗ・・・あたしのばかー！

モモちゃん！早く会いに来てもふもふであたしを慰めて！・・・・・・
・ｏｒｚ

１０話　涙の魔力　おおすぎる魔力は危険がいっぱいです！？（後書き）

真琴「お疲れでーす＼（＞Д＜）／」
レティ「ほんとにお疲れ様ね・・・マコト」
ジョン「だねー」
カミヤ「俺が居なくても代理がいっぱいだな」
マコト「そんな代理はいらーん！」
メアリ「そうですよ！マコトさんに失礼ですよ！？」
リリス「うむ？そーなのか？」
ケイト「・・・こいつらわかってない・・・」
ジョン「さて、俺はマコト達が持ち出したＭ１タンクをかたずけるかな」
カミヤ「そうだ！マコトのピンクのドレス姿の写真を等身大に引き伸ばさなくては！」
真琴「え！写真なんて撮ってたの！？」
メアリ「私にも下さい！」
カミヤ「ははははは！では、サラバじゃ！」
メアリ「待って下さい！私にも等身大の写真を！・・・」
真琴「ジョンさんまった！・・・その戦車かして！」
ジョン「やれやれｗ・・・」
真琴「高速徹甲弾ってどれ？」
ジョン「それがそうだが・・・劣化ウラン弾だぞ？１発７０万円するんだが・・・」
真琴「くたばれ！兄貴ー！」

どうもです＾＾作者のＭ２－１０１５です＾＾
いやー登場人物が勝手にあばれてしまいまして作者を困らせています

とくにメアリ達3人娘なんですが・・・
もっと地球組みに活躍させたいですね＾＾
でも王都まで行くとさらに変な人が・・・ネタバレはやめますね＾＾

次回はやっと序章の最後です?たぶんですが・・・

それでは皆様の笑顔がたくさん増えますように＾＾
では＾＾ノ

11話　涙の魔法　あたしだって彼氏が欲しいんだもんw（前書き）

真琴「皆さーん！お元気でしたかー？＾＾」
レティ「どーもー！レティちゃんでーす！＾＾」
カミヤ「よっちゃんでーす！」
ジョン「みんなテンション高けーなw・・・」
真琴「うん＾＾・・・それと兄貴！よっちゃん言うな！」
カミヤ「いいじゃんか　まこりん＾＾」
真琴「だめ！あとまこりんも言うな！」
メアリ「・・・まこりん・・・良いです！／／／（うっとり）」
真琴「ほらー・・・こうなっちゃうんだからw・・・」
リリス「うむ、プリンセスまこりん・・・魔女っ娘みたいで良いではないか＾＾」
ケイト「・・・火に油を注ぐって知ってる？リリス」
レティ「さ、さー今回のお話をはじめましょ＾＾」
ジョン「だな・・・さ、マコトたのんだぞ？」

真琴「うw・・・じゃあ始めまｓ・・・←ん？またか？」
３人娘「「「みんなー１１話はぢまるよー＾＾」」」

11話　涙の魔法　あたしだって彼氏が欲しいんだもんw

「あは・あはは・はは・・・」

乾いた笑いでごまかしｔ（みんなが注目してるね）・・・やっぱ無理でしたw・・・
ケイトが難しい顔してこっちに来るしw・・・やれやれw・・・

「マコト・・・皆さんのファイヤーボールの威力もすごかったですが、・・・私はあそこまでの範囲攻撃が出来るファイヤーボールを見たことが無いです・・・だいたいファイヤーボールは単体攻撃魔法ですよ？しかも、みなさん全員が詠唱無しでとは・・・あなた達はいったい何者なのです？」

あたしはロッテさんとリアさん　それにレティに対して肯いてアイコンタクトをします
メアリとリリスは心配そうにこっちを見ていますね・・・

「ごめんねケイト・・・あたし達も良く解ってないんだ・・・昨日も簡単に話したけど
この魔力は神様がこの世界を守るためにくれた物だしね」

「でも魔法を使うのは皆さん初めてですよね？」

「うーん、そーなんだけど・・・魔法の概念って言うか、おおまか

には知ってたんだよね・・・
書物やＲＰＧゲームとかでなんだけどね」

「書物は解りますが『あーるぴーじーげーむ』ってなんですか？」

「んー・・・簡単に言うと　物語があって　その登場人物になりきる遊び？ごっこ遊びかな？
その遊びの中で魔法使いになって魔法を使う事ができたの　まあシミュレーションなんだけどね
でも、あたし達の世界は　実際に魔法は使えない世界だったよ？」

「ごっこ遊び・・・そうなんですか・・・でも皆さんの魔力量もすごいですよね？・・・」

「あ、それは神様が魔力を増やしてくれたんだ＾＾んーとね神様曰く、この世界の
最大魔力保持者くらいにみんなしてもらってるんだよ・・・
ただ、あたしと兄貴だけは身体が耐えられる上限の魔力を貰っちゃって・・・
それでさっきのファイヤーボールの大きさになったみたい・・・てへっ＾＾」

「マコトは・・・どの位の魔力で火炎（あれ）魔法を放ったんですか？」

「んー・・・気持ち的には持ってる魔力全体の・・・１万分の１くらい？」

「軽く言ってますがｗ・・・もう、マコトはなんでもありなんですね・・・はぁｗ・・・」

ん？・・・なんか、呆れられてますが・・・でも、しょーがないよね？
この世界の基準を知らないし　それに神様がくれた魔力だしね？

「それとマコト、カタナを見せてもらっていいですか？」

「良いけど？」

鞘からみっちゃんを抜いてケイトに渡します

「・・・やっぱり・・・強化固定の魔法がかかってますね・・・
（ん？他にも魔法がかかってる？見たことが無い魔法ですね）
・・・これは全部マコトがかけた魔法ですか？」

「んーとね・・・それって無意識にかかったみたいなんだけど？」

「はい？これを無意識ですか・・・」

「あっそうだ！無意識って言えば・・・これもそーだね」

あたしは強化ハリセンをケイトにさし出します

「これは？」

「ハリセンって言うんだよ＾＾主に兄貴をひっぱたく時に使ってるんだけど・・・
なんかねー神様が言うにはあたしが無意識に創造の魔法？で具現化させたんだって＾＾」

「@@！創造の魔法！具現化！」

「ありゃ？変なこと言った？あたし」

「でマコトは無からこれを作ったんですか！」

「うん」

「ふぅ～ｗ・・・そんな事が出来る魔法使いはこの世界にいませんよ・・・
そのマコトが使った魔法はロストマジック・・・失われた古代魔法なんです・・・はぁ～ｗ」

「あら」

なんかケイト、私はもう知りません！てな感じで呆れてますがな・・・
あっちでリリスも口をあーんぐりさせてるし・・・（@Д@；）↑
こんな感じ？
メアリは・・・メアリはほっとこう・・・（＞ｖ＜）／きゃー！↑
まあ一応こんな感じ？

「はっはっはっは！・・・話は全て聞かせてもらった！」

あちゃーｗこの声は親父さんですね・・・どこに居るんだ？・・・
お！いたいた・・・照明の鉄塔のてっぺんですかｗ・・・バカと煙は何とやらですね・・・

ブラック○グーンのロッ○ンじゃあるまいしw・・・
あ、アホの親玉ってのは一緒だね＾＾
あたしは車からバレットＭ８２Ａ１を担ぎ出して・・・車のボンネットから構えてっと・・・
約２００ｍ・・・親父さんの足元をよーく狙って・・・
ＢＡＷＯＯＯＮ！

薬莢がライフルから飛び出して・・・車のボディに当たって・・・
ん？ころころとこちらへ・・・
ひじにくっいて・・・熱っちー！・・・ふうふう・・・熱かったw・・・
（撃って直ぐの空薬莢はとっても熱いのよ・・・）
さて、親父さんはどーなった？
お！よろめいてるよろめいてる！＾＾

「あわあわ・・・うを！落ちる！・・・あーれー！（ドスン！）」
よし！落っこちた＾＾

「うむ・・・えー　マコト、良いのか？カミヤは一応　国王陛下ではないのか？」

「良いの＾＾あーゆー普通に登場しないやつはこーやって躾けないと癖になるから＾＾」

「うむ・・・お主ら親子は変わってるのうw・・・」

「いやいやいや！変わってるのは兄貴だけだよ！」

「「「・・・・・・」」」

な、なに！みんなして『マコトは解ってないな～』みたいな目であたしを見てんの！
あたしってば変な人なの！？

がばっ！

そして！あなたは！２００ｍ先で地面とくっ付いてたのでは！あーもう！

「うー！なんで抱きつくの！バカ兄貴！」

「だってーまこりん、ここ何話か抱きついて無いｎ「ばーたれ！（ぱからーん！）」グヘッ！」

「だから！抱きつくなって言っておろーに！このスカポンたん！あと、まこりん言うな！」

「だっｔ「だってじゃない！はたくよ！」さーせんしたｗ！」

「いいから！そこに正座！あーもう　てきぱきする！」

もう！このボケ親父が！・・・・・ん？・・・あれ？・・・・
なんだ？・・・地球組がみんなで異世界３人娘に何か教えてるぞ？・

・・なになに？

レティ「いい？みんな　あれがヨコタ国名物の王族漫才なの！＾＾」

リリス「ほう！そうだったのか！うむ、良い見世物だな！」」

ロッテ「いつでもどんな場所でも　いきなり始まるんですよ＾＾」

ケイト「初めて会った時もやってましたよね・・・あのハリセンは
　ああして使うんですね」

リア「いつ見ても　とっても面白いんです！＾＾」

メアリ「ああ、マコトさんの突っ込み姿が！・・・凛々しい！＾＾
／／／」

真琴「・・・・・・」

うw・・・また親父さんのせーでw・・・誤解がw・・・・・・
そこの親父！ニヤニヤするな！・・・胸はるな！ピースサインもせ
んでいい！

もう・・・デフォって事であきらめるか？・・・・・・・・いーやーだ
ーっ！・・・・orz

突然の爆発騒ぎでジョンさんたち全員が滑走路の北端に集まっちゃいました・・・
事情をみんなに説明します・・・親父さん！クレーターみてニヤッっとしないで！

試しにレティがみんなの前で威力を込めたファーヤーボールを放ちます・・・

1．５mほどの炎球が飛んで行って　７０m位のクレーターが出来ました
レティ曰く、この威力で放てるのは5～6発らしくて　あとは魔力切れだそうです・・・
やっぱりあたしってば規格外？

親父さんが1歩前に出て・・・

「よし！俺もやってみよう！」

すかさずジョンさんが

「ヘイ！カミヤ　威力は抑えろよ！」

「解ってるって＾＾ふふふふふふ・・・」

いやいや！絶対解ってないよね？こいつはw・・・

「んじゃいくよー！・・・メラゾーｍ「大ばかやろ！（パカラーン！）」ヘブｗ！」

「なに炎の大魔法やろうとしてんの！アホかおのれは！」

「だっｔ「言い訳するな！」はい・・・」

「兄貴！もっと小さいのにしなさい！わかったの？」

「はーい・・・んじゃ行くよー・・・ペギ〇マ！」

は！あちゃ～ｗ止められんかったｗ・・・・・あれ？・・・ん？・・・なにも起こらない？

「・・・そうか、俺、魔法の使い方教わって無いじゃん・・・そりゃ出来ないわけだ・・・」

がくっ！・・・ずっこけた・・・みんなもずっこけてる・・・マックさんなんて滑走路に顔うずめてるぞ？・・・

うん、とりあえずハリセンで殴っとこう・・・・・・ピュー・・・あ、逃げたｗ・・・

ん？なに？・・・うむ、また王族漫才が見れたぞって・・・違うからねリリス！

その後にみんなで話した結果、今後は防御や治療等の魔法を優先で覚える事になりました
まあ、攻撃に関しては地球産の武器がありますからね・・・
親父さん！ショボ～ンとしない！・・・あんたのせいでしょうがｗ！
てか、いつのまに戻ってきたの？あんたはｗ・・・

会議の結果　３日後に王都へ向けて出発の予定です
ケイトさんの指示で全員の魔力と属性の検査はギルド登録をした時に測る事になりました
出発までは基本の魔法訓練と剣術訓練、町からの物資の搬入をします

あ、リリス達がてっぽー撃ってみたいらしくてライフルとショットガン、あと拳銃などを
撃ってもらいましたが、反動でグロッキーです・・・現地の人にはキツイみたい・・・
やっぱり威力があがってるのか？

んで変わりにガスのエアーハンドガン（ＳＩＧ　Ｐ－２２０）を撃ってもらったんですが・・・
なんと！実銃なみの破壊力です！・・・なので３人に護身用にプレゼントしました＾＾
うん、これなら小型だし　ドレスなんかを着てても隠せるしね！

その後、王都までの道と偵察をかねて（半分は観光のため？）にヒューイさんとベルさんは
あたしとレティ、３人娘を乗せてヘリで王都の近くまで飛ぶことになりました・・・

地図作りと実際に車が走れるかの先行確認の為です＾＾
３人娘は空が飛べる！って喜んでますねー

「あれ？ヒューイさん、このヘリってこないだのでっかいやつじゃないんだね・・・」

「ああ、あれって試作のテスト機だからね・・・こいつは空軍のＨＨ６０Ｇだよ＾＾」

「ＨＨ６０Ｇ？・・・ＵＨ６０Ｍブラックホークじゃないんだ」

「まあ基本は同じ様なもんだね　空軍はベイブホークって呼んでるが＾＾」

３人娘の話だとヒーノ村から王都までおおむね馬車で１週間くらいらしいです
馬車のスピードが休息を含めた平均で約６ｋｍ／ｈ強くらいか？１日８時間で約５０ｋｍ・・・
って事はヒーノ村からここまでが１日かかるとして・・・おおむねこっからだと・・・
王都までだいたい３００ｋｍ前後かな？
ブラックホークの巡航速度は確か・・・２７０～２８０ｋｍ／ｈだったと思ったから・・・
うん、調査ふくめて３時間もあれば往復できるね＾＾

「準備はＯＫか？マコト＾＾」

「うん、いいよー・・・おやつは持ったし飲み物もＯＫ～＾＾ヒューイさんにもあげるね～」

「マコトそいつはとても嬉しいんだが・・・武器は？」

「おう！忘れてた・・・持ってくるから待っててて＾＾」

武器弾薬を持ってきて・・・さあ出発！
３人娘はさっきまでのはしゃぎ様からちょっとだけ不安な顔してますなー
はーい、みんな　これ耳に付けてねーこれがあれば喋れるからねー
あたしはインカム付きのヘッドホンを渡します

ヒューンヒュンヒュンパリパリパリ！

ヘリははじかれたように大空へ！・・・んー！気持ち良い～＾＾
みんなも　うむ、飛んでる！とか木が小さく見える！とかマコトさん素敵！とか・・・ん？
・・・ま、いーか？

あれ？巡航にしてはスピード速くない？レティも不思議がってるしね・・・

「ねー、ヒューイさん　スピード速くない？」

「ああ、速いね・・・効率の良いコンピューターまかせの自動操縦なんだが・・・

どうやら航空機もこの世界に来て性能が上がってるみたいだな・・・
」

「あら・・・」

「この分だと　こいつは増槽いれて満タンで２０００ｋｍは飛べるんだが・・・これなら
３０００～３５００ｋｍは飛べそうだな＾＾ＨＡＨＡＨＡ！神様に感謝ってとこかい？」

あたし達は順調に王都の側まで行きました
途中の村や町は多少迂回して目立たないように飛んでます
目に付いたモンスターは　そのモンスターが大きな害を周りに与えるかかどうかを
リリス達に聞いて　害が有りそうなモンスターは狙撃等で倒します

狼のでっかいのは　ワイルドウルフ、イノシシのでっかいのは　ビックボアって言うらしいよ？
あとねファンタジーで定番のオークとゴブリンもいましたよ！

往復で２０匹くらいは駆逐できたかな？
この街道の安全も上がったことでしょうね＾＾
王都までの道もほぼ問題なさそうだしね・・・地図も作れるね＾＾

基地から街道までの道も　昨日ジョンさん達が　戦車つかって何度も往復して
そのあとでブルトーザー使って整地したから大丈夫かな？
基地の東門から７００～８００ｍで街道に出られます＾＾

さて、基地に帰ったら夕ご飯だー＾＾お腹減ったしねー

ちなみに機内で食べたおやつは　真琴（あたし）特性のフルーツパイでした＾＾

おいしかったよー＾＾

基地に到着ー！さあ、報告してお風呂入ってご飯だねー＾＾

Ｓｉｄｅジョン

「おう！おかえり　レティ＾＾・・・どーだった？」

「とりあえず王都までは北東に直線距離で約３００ｋｍですね・・・

途中に村が２箇所、町が１箇所ですが・・・

順番にすると　ヨコタ基地＞村＞町＞村＞王都　ですね」

「町が中間地点だな？」

「ええ、ここから約１７０ｋｍの地点ですね・・・」

「俺達の装備なら王都まで１日で行けるだろうが・・・後学の為に

町で１泊するか？」

「そうね・・・良いアイデアね＾＾この町で何か売ってお金もつくりましょ＾＾」

「何を売るかだが・・・小物類なんかと・・・塩と砂糖とコショウでいいかな？」

「そうね　確か3人娘達も調味料は高級品って言ってたわね・・・」

「マックには悪いがレーションも多少売ろう・・・地下倉庫に何十万食もあるしな・・・」

「明日の車両は何にするの？全員行くんでしょ？」

「ああ、全員で行くが、トラックにはもう荷物を載せてるからこれは決定で・・・うーん・・・
やっぱりハンビィだけじゃ迫力無いよな・・・よし、ＬＡＶ－２５が2台で俺達が乗って
ハンビィは2台出そうか・・・　1台目にカミヤとレティ、ロッテとリアの４人・・・
で、2台目にマコトと3人娘でどうだ？」

「いいわね＾＾・・・カミヤと一緒・・・（ポッ＾＾／／／）」

「あー、レティ・・・喜んでるとこすまんが　カミヤとマコトには言ったのか？」

「・・・へ？・・・・」

「あー、えー、あれだ、カミヤの事が好きだって言ったのか？（に

やにや＾＾）」

「！ま、ま、ま、ま、まだ・・・言ってないわ／／／」

「ま、がんばれ＾＾あの親子はかなり恋愛には鈍いからな＾＾」

「もう！ジョンったら！」

「ＨＡＨＡＨＡＨＡＨＡＨＡ！＾＾」

まあ、あっちの世界じゃある意味勧められなかったが　こっちなら応援してやるかな？
がんばれよ・・・レティ・・・

Ｓｉｄｅ真琴

真琴「ん～～！やっぱりお風呂は良いね～！・・・疲れが抜けるよね～・・・ふや～～・・・」

メアリ「マコトさんと一緒だとさらに気持ち良いです＾＾／／／」

リリス「うむ！これは癖になる気持ち良さだな」

ケイト「お風呂に食事・・・元の生活に戻れなくなりそう」

リア「あら?じゃあこの国のお手伝いではなくて国民になっちゃえば?＾＾」

真琴「おー!それいーねー＾＾なっちゃえ」

なーんてみんなで話していると扉が開いて・・・

ガラガラ～

どたぷ～んってみうらさんですか　あなたは!・・・あたしゃちひゃーってか?

（アイ○スファンの方　すいませんです!）

ロッテ「やっと来たわねレティ＾＾」

レティ「うん、疲れたわー・・・で、何を話てたの?」

こんな感じでお風呂でのガールズトーク＾＾たのしいねー・・・

だったんですが・・・ガールズトークと言えば恋愛話・・・あたしゃ苦手なのよね・・・

学校でもこの手の話題はちんぷとんかんぷとんだったしw・・・

3人娘には取り合えず今は好きな彼氏は居ないそーです・・・過去には居たみたい＾＾

ロッテさんはマックさんが少ーしだけ気になってるみたいで

リアさんはフレックさんとベッガーさんがコナをかけてるらしいです

いいな～・・・あたしも彼氏ほしいかもw・・・ま、親父さんが居たら無理かね？

ロッテ「レティは愛しの彼に片思い中だもんねー＾＾確か片思いが８年間もだっけ？＾＾」

レティ「あ！それ内緒だって言ったじゃない！もう、ロッテたらw・・・」

リア「私もジョンさんに聞きましたよ？その話＾＾」

３人娘「「その話聞きたい！」」

レティ「・・・かんべんしてw・・・」

うん、やっぱりついて行けないね・・・この手の話題には・・・にしてもレティってば好きな人いたんだー・・・知らなかったね～wメアリ「ところでマコトさんは？・・・彼氏の話まだですよね？」

真琴「え？・・・あたし？」

ありゃ？レティ以外の全員が聞きたそうな顔してこっち見てるね・・・

レティは色々知ってるから関心無しなのは解るんだけど・・・みんなを止めてほしいよー

真琴「えー、あー、うー、・・・」

あれ?思いだしてみれば親父さんが障害ってだけじゃなく
あたしってば男に言い寄られたことって無くね?・・・あれ?無い
?・・・無いな・・・
お、凹んできたぞ?・・・

レティ「みんな!そのくらいで止めてあげてね?マコトのＨＰはも
うゼロよ!」

真琴「・・・ＨＰ・・・ゼロってｗ・・・」

レティ「察してあげて!マコトの気持ちを!」

真琴「・・・レティ・・・とどめささないでｗ・・・」

レティ「は!マコト　ご、ごめんなさいね・・・」

どーせあたしゃ恋愛経験なんてありませんよ!・・・ありませ・・・
ありま・・・グスッ・・・
えーん!これってあたしのせいなのかな～ｗ・・・

親父さんに変に鍛えられてたからだよねー?
そう思わないと立ち直れなくなりそーだぞ・・・・・・クスン

神様!普通の平和も欲しいですけど・・・彼氏もほしー!

でも・・・その前に親父さんをどーにかしないと・・・彼氏作れないよねーw・・・

え～ん！だれかあたしに愛の手を！・・・無理なのか？・・・・・・

orz

11話　涙の魔法　あたしだって彼氏が欲しいんだもんｗ（後書き）

３人娘「「「お疲れ様です＾＾」」」
レティ「おつかれさま＾＾」
ファスト「あれ？・・・アネさんはどこっスか？」
ロッテ「ちょっとある事で凹んでるわね・・・」
リア「レティがトドメさしてたよね＾＾」
マック「落ち込んでもレーション食えば元気に・・・」
全員「「「「ないないｗ」」」」」

カミヤ「真琴がいないと後書って平和なんだなー」
ファスト「そーっスね＾＾」
ジョン「それじゃまた次回でなー！バーイ＾＾」

どーもです＾＾作者のＭ２－１０１５です
序章も今回で終了です
第一章の前にこれまで出てきた登場人物の紹介を入れます
序章のお付き合い有難う御座いました

引き続き本編第一章でお会いしましょう＾＾

それでは皆様にもっと笑顔が増えますように＾＾
では＾＾ノ

登場人物及び簡易設定（前書き）

作者のＭ２－１０１５です
今回は　序章での登場人物等を簡単に紹介します
多少のネタバレも含みますがご了承下さい＾＾

登場人物及び簡易設定

神谷　真琴：カミヤ　マコト

通称：マコト　親父さんは真琴と呼ぶ（稀に　まこりん）
年齢：１８歳
性別：女（稀に　おとこ？）
血液型：Ａ型
身長：１６１ｃｍ
体重：秘密だそーです
スリーサイズ：もっと秘密だそーですｗ

職業：地球では高校2年生（ダブリ有り）異世界ではヨコタ国のお姫様―（笑い＾＾）
趣味：料理、ドライブ（主に峠の暴走）、バイクツーリング（主に峠の暴走）
好きなもの：かっぱえび〇ん、麺類、甘いもの、猫、ある意味親父さん
嫌いなもの：手抜き料理、レーション、虫、ある意味親父さん

本作の主人公　不幸体質と言うか弄られ体質で　本人は普通人と思い込んでいる
一応高校年生で　学校は八王子の南浅川沿いにある普通科都立高校に通っている
学校では表面上では大人しくしているが裏で学校を仕切っているその手の人達からは
一目置かれている（憧れられてもいる）
また　学校ではその『おっとこまえ！』な性格が災いし女子のファンクラブもある

実は男子達からもそこそこモテてはいるがファンクラブの女子達により
真琴の知らないところで闇に葬られている（かわいそうね～＾＾）

親父さんに小さい頃から色々と仕込まれているので戦闘技能は折り紙つき
実家の道場では師範代もこなしている
実戦経験も豊富で　最初の海外旅行にてマフィアとの銃撃戦を経験している
その後は親父さんとコンビを組んで世界各地で色々な実戦経験を積んでいる
なので男運が無く　彼氏居ない暦イコール年齢である

本人は知らないが『鮮血の竪琴』の二つ名で
その筋からは恐れられている

真琴の母親とは４歳の時に死別している　転移前までは親子２人の父子家庭
（＋猫のモモちゃん）
レティとは真琴が中学１年生からの友達で胸のコンプレックス対象でもある
本人は中学時代から見ればＡ→Ｂ－まで育っていると言っている

料理の腕はなかなかのもので特にお菓子作りが上手
刀の腕もすごく親父さんには勝てないが実家の道場では師範代をしている
射撃の腕もあるが肌が荒れるのであまり好んではいない

神谷　義春：カミヤ　ヨシハル

通称：カミヤ　真琴は兄貴と呼ぶ（自称　よっちゃん）
年齢：４２歳
性別：男（稀に　おんな？）
血液型：Ｏ型
身長：１７８ｃｍ
体重：６８ｋｇ
スリーサイズ：いやん！えっち！だそーですｗ

職業：地球では日本やアメリカから何かを請け負っている　異世界ではヨコタ国の王様
趣味：料理、自分からトラブルを作る、真琴を弄（いじ）る
好きなもの：真琴、猫
嫌いなもの：オクラ（本人曰く、あれは食べ物ではない！生物兵器だ！）

本作の主人公の父親　はちゃめちゃで破天荒だが重要な事では真面目になる
主に日本やアメリカからの依頼で裏の仕事をしている
実家の道場も経営していて師範も兼ねている
最初は３人でこの仕事をしていたが　約１５年前の仕事で相棒だった他の２人が襲われている
その関係で真琴の母親を殺害されてしまい　それ以降、真琴を鍛えている
現在の相方は真琴となる（ただし、真琴は仕事の内容までは知らされていない）
レオとコンビだった頃の二つ名は『黒髪の殲滅者（ブラック　デストロイヤー）』
真琴とのコンビの現在は『鮮血の親父（ブラッディ　ダディ）』
カミヤの話では真琴の胸は中学時代からＡのままらしい（抱きついて確認しているらしい）

レティシア・フォンダ
女性　２１歳
元アメリカ海兵隊員　階級は少尉　現ヨコタ国侯爵
Ｅカップだが実際はＦカップなみであり　真琴のコンプレックスの基でもある
真琴とはレティが高校１年生からの友達である
超が付くほどのガンマニア
祖父のウインチェスターＭ１８９７ショットガンと真琴とお揃いのネーム入りコルトガバメントを
特に大事にしている
お風呂が大好き
ラーメンも好きである
意外とちゃっかりとしている所もある
レティがカミヤと知り合った１３歳の時にカミヤに一目惚れをしている
その為　真琴とカミヤのスキンシップがとても羨ましく思っている

ジョン・フレデリック
男性　３７歳
元アメリカ海兵隊員　階級は中尉　現ヨコタ国公爵
カミヤの裏家業のアドバイザー兼　協力者で依頼の中継者（エージェント）でもある
カミヤと真琴の実力を良く知る理解者で　実際に一緒に仕事をした事もある
真琴と一緒にした仕事で真琴の不評をかった事が何度かあり　たまに真琴からジョンへの
扱いが軽くなることも
武器は艦船と航空機を除いて概ね操作はできる

メアリ・エンジェス
女性　１７歳
ヒーノ村出身で村長の娘　兄がいる
納税の為に王都へ向かう途中で盗賊に襲われるが　真琴達に助けられる
真琴に一目惚れで周りが見えなくなることもしばしばある
基本はしっかりしているが予想外の事が起こるとあわあわする事もある
王都編あたりから真琴との関係について　まわりは生暖かく見守っている

リリス・ヒューイット
女性　１９歳
剣士
元はケイトとある王国の騎士団に入団していたが
上司とそりが合わず退団し冒険者となる
二つ名は『爆発（ボム）の剣士（セイバー）』
気風が良くて思い込んだら直情一直線で豪快なイノシシの様な女性でもある
今でも騎士団等に顔が利く

ケイト・ウォーレンス
女性　１９歳
魔法剣士
元はリリスとある王国の騎士団に入団していたが
上司とそりが合わず退団し冒険者となる

二つ名は『氷風（ブリザード）の魔女（ウイッチ）』
冷静で緻密な計算ができる女性でもある
リリス同様に　騎士団等に顔が利く（怒らせると怖いらしい）

ロッテ・リーブテーキ
女性　２６歳
元アメリカ海兵隊員　階級は少尉　現ヨコタ国伯爵
免疫学を習った軍医
怪我人や病人をほっておこ事ができず　自分を犠牲にして助けることもしばしばある
日本の温泉が好きで休暇のたびに温泉宿めぐりをしている
好物は会席料理や寿司等の和食
やや　おっとりな所もある
マックに多少恋愛感情がある

リア・バーグス
女性　２４歳
元アメリカ海兵隊員　階級は軍曹　現ヨコタ国子爵
外科手術が得意でロッテのアシスタント兼、メディックでもある
酢昆布が好き
やや天然でフレックとベッカーに言い寄られている
ファッション通でセンスも良い
やや黒い部分がある？

マック・シェイキング
男性　３２歳
元アメリカ海兵隊員　階級は軍曹　現ヨコタ国子爵

格闘技が得意で剣術もそこそこ出来る
真琴がマックの剣道の先生でもある
レーションはあまり好きではないが　なぜかみんなに食べさせようとする
梅干が好き

ファスト・ベークエッグ
男性　１９歳
元アメリカ海兵隊員　階級は上等兵　現ヨコタ国男爵
車の運転がうまい
鍵開け（ピッキング）の名手
カミヤをカタナの師匠と仰いでいるが　余計な知識も植えつけられ始めている
みんなからの弄られ役としても活躍している？

モース・テリヤ
男性　２０歳
元アメリカ海兵隊員　階級は上等兵　現ヨコタ国男爵
狙撃の腕はなかなかである

フレック・ネス
男性　２２歳
元アメリカ海兵隊員　階級は上等兵　現ヨコタ国男爵
ブービートラップの名人
アメリカ南部出身なので　とにかくなんにでもケチャップをかけて食べる
（筆者親子がアメリカ旅行中に目撃したので事実と思われる・・・

ラーメンや寿司、そば、
うどん等にケチャップをかけている人に聞くと１００％南部出身だった・・・）
リアにアプローチ中

ベッカー・サランド
男性　２１歳
元アメリカ海兵隊員　階級は上等兵　現ヨコタ国男爵
車両等、機械のメンテナンスが得意
車やバイクの改造などが好きなので真琴と良く話している
結構な酒好き
リアにアプローチ中

ヒューイ・イリコイ
男性　２７歳
元アメリカ海兵隊員　階級は少尉　現ヨコタ国伯爵
ヘリパイロット　新型ヘリのテスト中　ベルと一緒にこの移転に巻き込まれた
甘いものが好きでマコトが作るお菓子を楽しみにしている

ベル・スコレスキー
男性　２６歳
元アメリカ海兵隊員　階級は軍曹　現ヨコタ国子爵
ヘリパイロットでヒューイの副官　整備士でもある
あまり喋らないが気の良い人

アイテール
男性？　年齢不詳
真琴達を異世界に召喚したイケメンの神様
ギリシャ神話の原初天空神様でもある
真琴とはうまが合うらしいがカミヤに対しては苦手っぽい
影で真琴達を支援してくれる有り難い存在
真琴の飼い猫のモモちゃんを預かってくれてもいる

ワカンタンカ
性別不詳　年齢不詳
アメリカインディげふんげふん・・・ネイティブアメリカンのスー族の大精霊神
この異世界を作った張本人
部下のアイテールをこき使っているらしい
のちに真琴のクラスメイトにとんでもない魔法を教えてしまう

レオナルド・フォンダ
男性　４７歳
レティのお父さん　アメリカ海兵隊大佐で現在は沖縄で海兵隊基地司令官
親父さんと最初にコンビを組んだ人　２年でコンビ解消している
現在は腐れ縁の友達で仲は良いがよく喧嘩もする
特に娘の事となると我を忘れがちになる
カミヤとのコンビ時代の二つ名は『金髪の殺戮者（ゴールド　デストロイヤー）』

バクラ・ベアドーン
男性　３０歳

６話で出てきた盗賊のお頭　本編では名前すら出てこず　真琴にあっさりと
やられてしまったある意味かわいそうな人
この界隈では最も大きな盗賊団　高額な賞金首でもある
盗賊団名は『消滅の大熊』

ヨコタ国
地球から神様により横田基地ごと転移してきた場所を国と定めた
現在は人口１３人

ヒーノ村
メアリの出身地で農業（主に穀物）が主産業
村の人口は約７００人
ヨコタ国からは南東に馬車で１日の場所にある

シャマール国：首都名もシャマール
首都の人口は約８万人
ヨコタ国からは北東に馬車で６日の場所にある
国王は温和な統治をしていて国民からの支持もある
これからみんなで向かう国（どんな人が出てくるやらｗ・・・ｏｒｚ）

主役級の名前は実際の本人や友人から少しだけ変えてつかってます
海兵隊の一般隊員はファーストフード店、航空隊の２人はヘリコプ

ターから名前を付けました
現地人は3人娘を除いて車や銃器等から付けるつもりです＾＾

※　登場人物や設定などは不定期にて追加更新します
（大幅に追加したときなどは筆者の活動報告にてご連絡します＾＾ノ）

登場人物及び簡易設定（後書き）

新たな設定等が出るようでしたら　また追加で書き込みます
基本がギャグ小説なので出鱈目な部分も多々ありますが
ご感想等がありましたら宜しくお願いいたしますね＾＾

次回は　第一部王都編になります

それでは皆様の笑顔がさらに増えます様に＾＾
では＾＾ノ

12話　涙の出発　お姫様からコメディアンにジョブチェンジしました！？（前

真琴「・・・ぶつぶつ・・・」
レティ「みなさーん！よろしくー・・・って　マコト？」
ジョン「前回レティがトドメさしてからそのまんまなんだよｗ」
リア「あれはきつかったですねー・・・」
ロッテ「うんうん」
レティ「・・・何の事かしら？おほほほ＾＾（は！これって主役のチャンス？）」
ジョン「レティ？」
レティ「い、いや、なんでもないわよ？・・・おほほほほ」
メアリ「四つん這いのマコトさんも素敵！／／／＾＾」
リリス「うむ、ああやって腕や足を鍛えてるのだな！」
ケイト「いやいや・・・２人とも変だからその考え」

ジョン「んじゃたまには俺が・・・」
レティ「第１２話はじまりまーす＾＾（やった！＾＾）」
ジョン「・・・グスンｗ・・・」

12話　涙の出発　お姫様からコメディアンにジョブチェンジしました!?

「小僧!オヌシの様な小童がリリス殿の剣の師匠とは片腹痛いわ!」

「小僧?小童?・・・（ニコッ＾＾＃）」

「うむ、マコト!落ち着け!本気を出すな!冷静にやるんだぞ」

やべー　怒りでみっちゃんをマジで抜くとこだった・・・こいつなら素手で十分かな?
でも真剣(やること)試合は　けってーなのねw・・・

「・・・オッケー　ありがと＾＾リリス」

殺る気まんまんで槍を構えた身の丈2m近いおっさんと向き合ってるんですが・・・
でも　なんでいつも　トラブル（こーなる）のかね?・・・あたしのせーじゃ無いよね?
あたしは　ぼそっと疑問を口にします

「なんでこーなった?」

夕べのお風呂から一夜明けて朝なんですが・・・・・・orz

ううう・・・どーせ　あたしゃ・・・負け組みなのね～～～・・・え～んw

元の世界に帰るんだって　何年かかるか分かんないしw・・・は！１０年この世界に居たら　あたしってば三十路に近いじゃん・・・

て事は・・・帰れるとしたって　おばさんになってるよね・・・

いやいやいや・・・この世界でイケメン捕まえて・・・・・・ほんとに捕まるか？

だって、親父さんもいるんだぞ？

あたしは　昔からの悪い癖、『思考のループ』になっているのに気がつきません

ジョン「レティ・・・マコトの凹み具合・・・今回は長いな・・・夕べからずっとだぞ？」

レティ「そうね・・・これはちょっと長いわね・・・」

ジョン「どーする？」

レティ「そうね・・・月並みだけどみんなで慰めるしか無いわね・・・」

ジョン「それしかないか・・・おーい！みんなちょっと来てくれ」

あっちでジョンさんが何か言ってるけど・・・

Ｓｉｄｅ真琴以外

ジョン（みんな悪いな集まってくれて・・・でだ　マコトの事なんだが・・・話は小声で頼む）

レティ（カミヤは別として　マコトは意外と繊細なのよ・・・ただし単純でもあるけど・・・）

リア（その繊細なマコトに　夕べはトドメをさしてましたよね？レティ）

レティ（うw・・・それは置いといて）

ロッテ（どうすればマコトは復活するんです？）

ヒューイ（嬢ちゃんは料理や菓子作りがうまいから　それを誉めるか？）

リリス（うむ、剣の腕を誉めるか？）

ケイト（あの強大な魔法を誉めますか？）

ファスト（それ、逆にクレーターの件で落ち込まないっスか？）

ベル（まあ、マコトはさ　そのままでもかわいいよな？）

モース（ああ、かわいいと思うぞ？）

フレック（リアよりはちょっと下だけど・・・マコトも　かわいいぞ？）

ベッカー（あ、こいつ抜け駆け・・・リア好きだ！（＊＾ω＾＊）／デレッ・・・）

フレック（ベッカー・・・しまらない顔しやがってw・・・）

メアリ（マコトさんは誰よりもかわいくて素敵です！キャー　q（≧≦∇≦≧＊）（＊≧≦∇≦≧）p　キャー）

マック（だから、レーション食べれば元気になるって）

全員（（（ないない！））））

カミヤ（俺のほうがかわいいけどな）

全員（（（絶対にない！））））

ジョン（オーケー・・・んじゃ、かわいいってのでマコトを誉めるぞ？いいな？）

Ｓｉｄｅ真琴

うー・・・でも　こっちで彼氏作ったら元の世界に帰る時ってどうなるの？・・・ううー

ん？・・・みんなしてこっち来るけど？・・・なんだ？・・・

レティ「マコト・・・夕べはごめんね・・・大丈夫よ　マコトはかわいいから＾＾」

ジョン「そーだぞ？マコトは　かわいいんだから　気にするこたー無いって＾＾」

レティ・・・ジョンさん・・・慰めてくれるんだ・・・

リリス「うむ、マコトは剣の腕もすばらしいし　それにかわいいぞ？」

ケイト「マコトはかわいい」

メアリ「マコトさん！かわいいです！／／／（　°：°）＝３　ハァハァ・・・」

「かわいいぞ！」「また菓子作ってくれよな！」「素敵よマコトは＾＾」

み、みんな！ありがとー！＾＾

あたしの事　気にしてくれてるんだね～＾＾

真琴「みんな・・・ありがとー＾＾・・・うん、がんばるｙ「がばっ！」おおう！」

カミヤ「真琴・・・ごめんな・・・ある意味で　さみしい思いさせて・・・」

お父さん・・・心配してくれてたんだね・・・ちょっと嬉しいかも＾＾／／／

真琴「あ、こら・・・兄貴ったら・・・抱きつかないでよ・・・もう／／／（＊-　-＊）テレッ」

親父さん・・・温かいな・・・ぬくもりが・・・／／／

カミヤ「ほんと　すまん！おまえは貧乳（さみしい）っての気にしてたんだな・・・」

あ？・・・読みは『さみしい』だけど？

カミヤ「でも貧乳（さみしく）ても良いじゃん！微乳（たいら）だっていいじゃん！・・・だって真琴は無乳（かわいい）んだから！＾＾」

真琴「兄貴？・・・漢字とルビがちがくない？・・・あ？凸（、Д´＃）」

カミヤ「へ？真琴のかわいいってのは　貧にｙ「死ねやこらー！（ガキンッ！）」あぶ！」

神速の居合いでみっちゃんを抜きましたが・・・親父さんも太刀を抜いてますな・・・
避けられちまったいｗ・・・

真琴「ちっ！・・・受け止めんなよ・・・」

カミヤ「いやいやいや！今のはマジやばかったｗ・・・それに『ち

っ！』って言ったよね！？」

はあはあ・・・まあ、あれだ・・・真剣はまずいか？・・・・・・・
あれ？・・・ん？

リリス「うむ！流石だ！剣を放ったマコトもすごいが　受け止めた
カミヤもすごい！」

ケイト「私じゃ受け止められない」

メアリ「すごいです！マコトさん！・・・かっこいいです！／／／
＾＾」

３人娘「「「ビバ！王族漫才！＾＾」」」

ま、まあ・・・元気はでたかな・・・あは、あはは・・・・・・・・ｏ
ｒｚ

さてさて、シャマールの王都へ出発の朝がきました！

この間に男性達も魔力制御を覚えましたよー
回復魔法や防御の魔法　後は強化とかだね・・・
攻撃魔法は教えませんでしたけどねー＾＾

あたしはこの２日間　銃火器や刀剣類　装備品や車両等に強化魔法をかけまくってました
特にテッポなんか汚れないわ破壊力上がるわ・・・たぶん錆も出なくなったんじゃないかな？
リリスは自分の太刀にも魔法がかかった！って　大喜び＾＾
服なんかもねー鎧みたいになっちゃって・・・車なんかも性能ＵＰしちゃったよｗ・・・
そうそう　エアガンも威力上がったね～
魔力？あんまし減らなかったね　このくらいじゃ・・・あたしってばどんなチートだ？
まあ、ケイトは『私の立場が』ってふてくされてたけどね＾＾

今は朝の９時！では　そろそろ出発といきますか！

先頭は　あたしと３人娘のハンビーで　次がジョンさんとロッテさんでモースさんのＬＡＶ－２５
３台目がヒューイさんとベルさんのトラック　４台目がフレックとベッカーとリアさんの
ＬＡＶ－２５　最後がレティとマックさんとファストそして親父さんのハンビーです＾＾

基地の東口を出て街道まで来た所で一旦ストップ＾＾
あたしの魔力を媒体にしてケイトが基地への入り口を幻影魔術でカモフラージュします

よし、基地への入り口はこれで解らなくなったぞ　完璧だね＾＾
そのまま左に曲がって北東へ進みます

前に砂漠沿いに偵察したときは5～１０ｋｍ／ｈ位の低速で確認しながらだったけど
今回は普通に３０～４０ｋｍ／ｈで走ってます

２時間ほど走って最初の休息場所　ノーダ村に到着！
取り合えず村の入り口手前で止まります
途中で追い越したり　すれ違った馬車や旅人達も　あたし達にめっちゃ驚いてましたが
ノーダ村でも人だかりですね～・・・村の門の所に人がいっぱいです

うん、これじゃ中にはいれないよね？
ありゃ？なんかゴツイかっこのおっさんが槍を構えて何人かきますね・・・さて、どーする？

「うむ、私にまかせてくれ」

「へ？リリス・・・大丈夫なの？」

「ああ、あやつは・・・真ん中の背の高いやつだが、私とケイトの知り合いだ」

「あら・・・んじゃまかせた＾＾・・・あ、リリス　ちょっと待ってて」

そー言えば　身分を明かしてもいいのかね？・・・ジョンさんに無線で聞いてみるか・・・

「ジョンさん　聞こえる？」

「おう、なんだ？」

「村の入り口から来るゴツイおっさん達なんだけど　リリスとケイトの知り合いなんだってんで話をつけるらしいけど　あたし達の身分とか王族とかばらしちゃって良いのかな？」

「んー・・・取り合えずメアリの護衛の冒険者って事にしておくか？」

「オッケー」

無線の内容をリリスとケイトに話して・・・

あたし達がこの村で簡単な商いと休憩をしたいと伝えてもらいます

リリスとケイトが背の高いおっさんと話をしてますが・・・ん？

ありゃ？おっさんってばリリスとケイトにぺこぺこしとるぞ？

おっさんと一緒に来た騎士っぽい人達もぺこぺこしてるね・・・

お?村人たちも『この方が』とか『ボムの!』『ブリザードの!』とか言って驚いてるし?
あの2人って有名なのか?・・・ふむ　後で聞いてみるかな?

お、リリスがおいでーって手をふってるよ・・・話は済んだみたいだね＾＾

あたし達は車両を村の入り口から中に入れます
村に入るとすぐに広場?って言うか多分馬車用の停車場になってますね・・・
空いている隅っこに車両を停車させて車から降りてっと・・・

「リリスー!交渉ありがとねー＾＾」

「うむ、問題ない・・・こいつも居たしな」

「だれだれ?・・・しょーかいして＾＾」

あたしは背の高いおっさんと向き合います
おー、でかいなー2m近いんじゃない?筋肉もすご!
腕なんてあたしのモモより太いよ!

「うむ、元私達の部下で　シャマール王国第一騎士団下士官の『ブール・カンタック』だ・・・
でこちらが　現雇用主で友人でも有り　私の剣術師範の『マコト・カミヤ』だ＾＾」

リリス?元私達の部下で　シャマール王国第一騎士団?・・・って事はリリス達って

元騎士団にいたの？・・・聞いてないよ・・・ありゃ？この人あたしを睨んでる？・・・
いや、それよりもまず挨拶だね＾＾

「こんにちは　ブールさん＾＾」

「・・・なんだと！・・・このお子様が師範だと！本当かリリス殿！」

あたしの挨拶は無視ですかい・・・

「うむ、私は今現在マコトに剣を習っているが？」

「・・・（ぷるぷる）・・・」

ありゃ？雲行きが怪しくなってないか？・・・おっさんってば　なんかぷるぷるしてるし？
お、ジョン達　みんなして遠巻きでニヤニヤと・・・って見物体制ですかい！

「うむ、ブール！落ち着け・・・」

「そう、落ち着くといい」

「リリス殿！ケイト殿！　あなた方がこんな子供に雇われるとは・・・私はくやしい！」

「うむ、だがマコトはめっちゃ強いぞ？」

「そうそう・・・めっちゃえらいし」

「！・・・ならば　私が試すまで！・・・いいですな！」

「うむ、かまわんが・・・」

「怪我しても私はしらない」

あらー・・・止めないの2人とも・・・まあ、いいけどねw・・・
軽くやっちゃうか？

「小僧！オヌシの様な小童がリリス殿の剣の師匠とは片腹痛いわ！」

「小僧？小童？・・・（ニコッ＾＾＃）凸」

あたしは一瞬で大量の殺気を撒き散らしたみたいで・・・

「うむ、マコト！落ち着け！本気を出すな！冷静にやるんだぞ」

やべー　怒りでみっちゃんをマジで抜くとこだった・・・でもこいつなら素手で十分じゃね？
まわりも見えてないしw・・・それに相手の実力も見れない様じゃねw・・・
でもこのおっさんと真剣試合（やること）は　けってーなのねw・・・

「・・・オッケー　ありがと＾＾リリス」

殺る気まんまんで槍を構えた身の丈２m近いおっさんと向き合ってるんですが・・・

でも　なんでいつも　トラブル（こーなる）のかね？・・・あたしのせーじゃ無いよね？

あたしは　ぼそっと疑問を口にします

「なんでこーなった？」

と言う感じで冒頭につながるわけなんですけど・・・

あたしの短気は直さないとねー・・・

ん？あらあら村人達まで遠巻きに見物ですか・・・どっちが勝つか賭けまでしてるしw・・・

ほとんどみんなブールに賭けてるみたいですが・・・

メアリ達３人娘は有り金全部あたしですか！

「がんばるのよ　マコト＾＾」

レティってば・・・お気軽に言ってw・・・

「うむ、私が審判を引き受けよう＾＾」

リリス・・・楽しんでやがるな？

「マコトが勝てばお小遣い１０倍・・・ぜったい勝て」

お小遣いってｗ・・・ケイト、後でおごれよ？

「キャー　ｑ（≧≦∇≦≧＊）（＊≧≦∇≦≧）ｐ　キャー」

メアリは・・・うん、あれは　ほっとこう・・・

あたしは武装を全部はずして・・・ハリセンは持っとこうかね？

ん？なにげにジョンさんとマックさんは　拳銃（ベレッタ）ホルスターの止め具外してるね・・・

大丈夫だよん＾＾・・・あたしは２人に軽くウインク＾＾

さて・・・

「小僧！武器は持たんのか？」

「これ（ハリセン）でじゅーぶん＾＾」

「うぬぬ・・・なめておるのか！」

「おっさんなんか舐めたら腹壊す！」

「うぬぬ！ゆるさん！」

おっさんは槍を低く構えて突進してきますが・・・
あたしは槍の先をふんずけて　先端を地面にめり込む様に突き刺し
　おっさんの突進を止めて
体勢が崩れたところで　槍の根元に蹴りを1発入れます

バキッッン！

（あら？手から離すつもりが・・・へへ　ごめんね？・・・折れちった・・・てへっ＾＾）

ブールさん驚いて@@；↑こんな目をして固まっちゃってます
相手を舐めるからそーなるんだよーだ！

あたしは　そのままおっさんの顔面にむかってハリセンを・・・

パシーン！

おっさんは後ろに倒れて・・・ありゃ？・・・白目むいてる？
1発で？・・・そんなに強いのか？このハリセンって？

「うむ！マコト殿の勝利！」

リリスさんが勝利の宣言してます
ケイトさんは・・・しゃがんでおっさんを指で『つんつん』と突いてますが・・・
ところでメアリさん？腰にしがみついて『すりすり』しないでね？

3人娘は掛け金もらってうれしそうですなー・・・少しよこせ＾＾
それにしても周りの歓声がうるさいですね～・・・あたしゃ疲れたよw・・・
腹減ったな・・・そろそろ昼か？

がばっ！

「あー！もう！暑っ苦しいからはなせ！バカ兄貴！」

「ね？ね？今ので分かったでしょ？あのおっさんも一撃だったそのハリセンって痛いんだよ？」

「それは　兄貴がいたずらするのが悪いんでしょ！」

「・・・ううw・・・（ＴωＴ）ウルウル・・・」

「かわい娘ぶってもだめ！」

あたしがハリセンを振りかぶると・・・ズサーっと離れて土下座しまくり！
まったく！この親父は・・・・・・ん？・・・は！ケイト！なにやってんの！リリスも！

「ヨコタ名物　カミヤ親子のド突き漫才だよ・・・みなさん見て」

「うむ、みんな楽しめたならこの帽子におひねりをいれるんだぞ？」

「あら？マコトさん　もう終わりですか？素敵なのに・・・／／／
＾＾」

・・・あ、・・・3人娘は・・・レティが基地で言った事・・・本気にしてるのか？
レティ・・・王族漫才って言った事　うらむぞー

あれ？でも・・・これって一般大衆にも広まった？・・・

あ～ん！あたしはコメディアンぢゃないんだよー？・・・（たぶんw・・・）

イケメンの神様！なんとかしてー・・・・・・・・・・・・orz

１２話　涙の出発　お姫様からコメディアンにジョブチェンジしました！？（後

真琴「おつかれさまー」
レティ「おつかれさまでした」
ジョン「おつかれさん！」
レティ「マコト・・・ごめんねー」
真琴「いいよ＾＾もう気にしてないから＾＾」
ジョン「その切り替えの早さはうらやましいな」
真琴「へへへ＾＾・・・ん？」

カミヤ「でだ、レティ＞ロッテ＞リア＝メアリ＝ケイト＞リリス＞＞＞越えられない壁＞＞＞＞真琴って順番になるわけだ＾＾わかった？」
ファスト「わかったっス師匠！」
真琴「ねえ　ファスト何の順番なの？＾＾」
ファスト「ああこれっスね＾＾胸の順番っス＾＾・・・って！ヤバ！」
真琴「・・・ふーん・・・」
ファスト「師匠！逃げるっス！・・・ってもう居ないっス！」

ヒューンヒュンヒュンパリパリ・・・

ジョン「あちゃーw真琴ってばＡＨ－１Ｗ　スーパーコブラ乗ってっちゃったよ・・・」

真琴「くらえ！ハイドラ７０ロケット弾！」

どーもです＾＾作者のＭ２－１０１５です

やっと第一章に入りました
かなりの部分を省略と縮小して書いてもこんなに長くなるんですね～
（作者の腕がわるいのかな？・・・ｏｒｚ）

さて、次回は『真琴はぢめてのお使い』『村の中では？』『おら１番！』の３本です＾＾　（ウソ）

できればで結構ですのでお気に入りの登録や評価、感想なども宜しくお願いいたします　ｍ（＿＿）ｍ　ペコリ

それでは次回をお楽しみに＾＾

皆さんの笑顔がもっと増えますように＾＾
では＾＾ノ

１３話　涙の旅路　あたしは男の娘じゃなくて女の娘ですってばｗ！（前書き）

真琴「どーもー＾＾」
レティ「どもです＾＾」
ジョン「オース！」
カミヤ「・・・出番がへった・・・」
真琴「まー兄貴はほっといて・・・なんかねー作者がキーボード壊したらしいよ？」
レティ「よそ様の小説がおもしろかったらしくて食べてたラーメンを・・・」
ジョン「うむ、ぶはーって　吹いちゃったらしいな・・・」
カミヤ「あいつは・・・まったくアホだな・・・」
Ｍ２「・・・出番もっとへらしてやるｗ・・・」
真、レ、ジ「「私達は言ってないですよ？」」」
カミヤ「なにがおもしろかったん？」
Ｍ２「いや、その小説の落ちがめっちゃおもろかったんだけど」
真琴「で？」
Ｍ２「読者からの感想で結局修正されちゃって・・・最初のやつの方が絶対に
　おもろかったんだけどね・・・」
ジョン「ふむ・・・読んでみたかったな・・・」
レティ「まー作者がそうしたんなら良いんじゃない？」
Ｍ２「そーなんだけどね」

真琴「それでは第１３話はじめまーす！＾＾」

１３話　涙の旅路　あたしは男の娘じゃなくて女の娘ですってばｗ！

Ｓｉｄｅレティ

おー！ハリセンの一撃で倒しちゃったよ！
マコト！ナイスファイト！＾＾

でも、せっかくこんなに人が集まったんだから少し商品のアピールしましょうかしら？
凹んでるマコトにはわるいんだけどチャンスよね＾＾

レティ「ジョン！昼食後に販売はするとして　せっかく人がこんなに集まっているんだから
　売り物の説明でもしない？＾＾」

ジョン「おおー、そりゃ良いね～・・・おーい！みんな商品説明やるぞー！
　車からサンプル出して来てくれー・・・モースとファストは簡易テーブルを頼む」

さて、凹んでるマコトにも手伝わせて気分転換させないとね・・・

レティ「マコトー！メアリもこっち来て手伝ってー！」

真琴「うあ～い・・・今いく～・・・」

メアリ「さ、マコトさん元気出して！レティさんを手伝いますよ（＊゜∀゜）＝３ハァハァ」

マコトとメアリは面白いことになってるわねー・・・うん、楽しいからほっときましょ＾＾

さーて、商品のセッティングもできたしねっと・・・さあやるか！

レティ「みなさーん！今日は珍しい品物を持参しています！私達の昼食後に販売を始めますが
　とりあえず商品説明をご覧下さい！本日限りの限定販売です！・・・よろしく～！」

私達が今回　商品として並べたのは　・・・
食品関係では『レーション』『ツナの缶詰』『焼き鳥の缶詰』『スパム缶』『コンビーフ』
『チ○ルチョコ』『チュッ○チャプス』『塩』『砂糖』などで
雑貨関係は１００円ショップ物の『カッターナイフ』『包丁』『はさみ』『ツメ切り』
『草刈カマ』『園芸シャベル』『マグカップ』など（陶器は複数出品でガラス製品は無し）

さて、まずはデモンストレーションね
うわー　すごい人だかり！・・・マコトの決闘と・・・さらに親子

漫才が効いたのかしら？
これから販売のときは親子漫才やらせようかな＾＾

マックったら真っ先に『レーション』の試食会をはじめちゃったわ・・・彼も好きだわね～ｗ

地球組みはこちらの物価が良く分からないので商品の説明をメインとして・・・
３人娘にはこのデモの間にアンケートをとって貰おう・・・幾ら位なら買いたいかをね・・・
うん、その結果で午後からの販売価格を決めれば良いよね＾＾

「ねえちゃん　このカマは幾らなんだー？」
「この陶器のコップは幾らかしら？」
「おーい！幾らだ？この袋の携帯食料は？」

「こちらは商品説明ですので　あちらの３人の娘に幾らなら買いたいかを知らせて下さい
それを多少考慮して昼食後の午後から販売しますので＾＾」

（※　ちなみにこの世界の通貨は　最小単位が『劣貨』劣貨が１０枚で『銅貨』銅貨が１０枚
『小銀貨』小銀貨が１０枚で『銀貨』銀貨が１０枚で『小金貨』小金貨が１０枚で『金貨』で
貨幣の呼称は　『エル』と呼ぶ（１エル＝１劣貨）
ただし、一般的には１００エルや　１０００００エルなどとは呼ばず
小銀貨１枚とか金貨１枚などと呼ばれている

物価としては　りんご1個が銅貨1~2枚ほど、食堂での昼食が銅貨5枚位で　冒険者などが
普通に泊まる宿屋は（場所やサービスにもよるが）小銀貨3~5枚ほどである）

Ｓｉｄｅマコト

さーて、お昼だお昼だ＾＾・・・
ふー・・・でも忙しかったｗ・・・試合したり説明したりで　のどカラッカラ・・・
お腹もへったし・・・さー　どこのお店がおいしいのかな？

メアリ「マコトさーん！こっちですよー（ノ＾∇＾）ノ♪」

リリス「うむ、この食堂で食べるぞ」

ケイト「ここ、そこそこ美味しい」

真琴「うん、今行くよー＾＾」

ノーダ村はねー　南北に約３ｋｍ東西には約１．５ｋｍの楕円形をしていて

ど真ん中に街道がそのまま真っ直ぐ通ってるんだよ
街道沿いにはお店や露店がでています・・・おー、ありゃ魔物の肉か？

リリスの案内でこの村で一番大きい宿屋を兼ねた食堂へみんなで行きます
おー結構広いね・・・
あ！そうだ！この世界のお金持ってないよね？

真琴「ねえ、あたし達　まだこの世界のお金持ってないよ？どーすんの？」

ケイト「私達3人でだしますよ・・・さっきマコトのおかげで儲かったし」

リリス「うむ、みなも遠慮はいらんぞ？」

メアリ「マコトさん・・・私も・・・食べて・・・（キャー！言っちゃった！／／／）」

真琴「あ、ありがと・・・」

まーここは『ごち』になろー＾＾
昼食（どんな）のが出てくるのかなー？・・・楽しみ～・・・わくわく＾＾

リリス「うむ、・・・店主！昼飯をおまかせで１６人分頼む！」

店主「あいよー！おまかせで１６人分ねー！」

で、お昼の内容なんですが・・・

『焼いて塩をふっただけの何かの肉』『茹でて塩ふっただけのジャガイモっぽいモノ』
『野菜とハーブを煮込んで塩ふっただけのスープ』『かっちかちのパンっぽいモノ』
『水で薄めた渋いだけのワイン（しかも生ぬるい）』エトセトラ・・・

わくわくが・・・あたしのわくわく・・・

真琴「・・・・・・・orz」

ロッテ「あ・・・あら、マコトが・・・」

レティ「解るわ・・・マコトの気持ち・・・」

ジョン「おい！だれか車から調味料を何種類かとってこい！」

ケイト「・・・ここの食事　前はおいしいと思ってた・・・」

リリス「うむ、ヨコタ国の味になれすぎてしまったな・・・」

ファスト「俺、取って来るっス！」

モース「あ、バターもたのむわ」

フレック「ケチャップもね！」

リア「飲み物もほしいから私も一緒に行くわ＾＾」

フレック、ベッカー「「俺も手伝う！」」

ファスト「フレック結局来るんじゃないッスか・・・まったくリアさん絡むとこれっスかw」

ジョン「じゃ全員分の飲み物も持ってきてくれ」

「「「「りょーかい＾＾」」」」

・・・うん、取り合えず美味しいものが少ないことは分かったよ・・・orz

とりあえずほんの少しの調味料で　お料理は見違えるほど（大袈裟か？）になりました＾＾まる！

どすっどすっどすっ！

お？誰か入ってきた？・・・ありゃ？さっきのブールっておっさんだー・・・

あたしん所にズンズンと一直線ですなー・・・

おー、なんだなんだって感じで　野次馬も集まってきてるねー

側まで来てこっちを見つめてるけど・・・殺気は無いね・・・
だけどあたしを坊主小童(おとこのこ)扱いしたんだよねこのおっさんは・・・
ふんっ！あんたなんかツーンだ！

真琴「・・・・・・」

ブール「・・・・・・」

リリス「うむ、ブール　まず言うべき事があるであろう」

ケイト「そうそう、自分の面子優先は貴方のいけない所」

ブール「解っております・・・マコト殿と申したか？先ほどの礼を欠いた態度申し訳ない・・・
　自らはまだ名乗っていなかったな・・・ブール・カンタックと申す・・・
　騎士団での二つ名は『筋肉(マッスル)の城壁(ウォール)』と呼ばれておる・・・
以後　良しなに」

真琴「喧嘩を吹っかけられた事については怒ってないよ・・・」

ブール「では何に対してまだ腹を立てているのだ？」

真琴「あたしを坊主小童(おとこのこ)扱いした事に怒ってるの！」

ブール「へ？」

真琴「あたしは女だ！」

ブール「・・・は？・・・」

周りの野次馬「「「・・・は？・・・」」」

リリス「うむ、マコトは女だぞ？」

ケイト「マコトは女で間違いない」

ブール「えええええええー！！」

周りの野次馬「「「（！？゛Д゛）゜Д゜）@д@）えぇぇ！！！なんですとー！！！」」」

・・・なんで！いつもいつもいっつも！・・・・・・

メアリ「だって・・・マコトさんはかっこいいから・・・（〃ノω）σ―　モジモジ」

リリス「うむ、私も最初は間違えたな」

ケイト「デフォだからあきらめたほーが良い」

ブール「・・・そ、それは、大変失礼した・・・この通りだ（ペコッ）」

あら、話せばこのおっさん　良い人そーじゃん・・・潔いしね

まあ、リリスの部下だったから直情一直線な所があるのかもね?

真琴「解ってくれればいいよ^^・・・それより槍を折っちゃってごめんなさい・・・」

ブール「いやいや・・・折られたのは私の未熟な所でもあるので・・・」

真琴「でも・・・」

ジョン「マコト、トラックに積んできた薙刀(なぎなた)でも渡したらいーんじゃね?」

真琴「おー!ナイスアイデア!^^・・・ブールさん一緒に来て^^」

あたしはブールさんの手をつかんでトラックまで引っ張っていきますおーおっさん照れてるのか?きょどってるぞ~^^

トラックから薙刀を出してっと・・・

「コレなんだけど使えそう?」

「おお!これは!・・・なんと!突くだけでなく斬る事もできるのか!」

「うん^^・・・ちょっと待っててね」

ブールさんに待っててもらって　あたしは薙刀に強化等の魔法をかけます・・・
ほいっ！とな・・・ありゃりゃ・・・ブールさん驚いちゃってるねー・・・

「はい！これあげるー＾＾それ、ナギナタって言うんだよ」

「・・・よ、よいのか？・・・魔法までかけて・・・かなり高価なモノではないのか？」

「いいよー＾＾お詫びと仲直りだよー・・・持ってってね」

「あいすまぬ・・・ナギナタか・・・うむ！これは本当に良い業物だ！＾＾」

「うん、気に入ってくれて良かったー＾＾」

「マコト殿　薙刀（これ）で修行を積んだら・・・また私と試合をしてほしい・・・」

「うん＾＾でも　あたしは負けないよ～」

「うむ、俺が勝てないのは解っておる・・・友情の証じゃ！あははははは！＾＾」

うん、ブールさんとも和解できたね＾＾

リリスさんの話だと『筋肉の城壁（マッスルウォール）』ことブールさんはなんでもリリスさんと
ケイトさんの剣技なんかに惚れ込んでて　どこの馬の骨ともわからん子供から教わっているのに
絶えられなかったらしいんだけど　あたしと試合をしてみて納得したみたい

リリスもケイトも言ってたけど　ひと蹴りで槍をへし折ってハリセン1発でノックアウトとは
思わなかったらしいよ・・・ブールさんは打たれ強さでは騎士団で1番だったんだってさ
まーあたしもハリセン1発でお終いとは思わなかったけどね・・・

で、昼食後の商品販売なんですが・・・なんと!結論から言うと20分で完売でした・・・
今回は　お一人様各1個のみ販売で　商品は各１００個づつ位用意したんだけど
レーションは小銀貨2枚、各種缶詰は小銀貨1枚とか　ちょっと高めの値段だったけどね・・・
1番早く完売したのは意外にもツメ切りでした＾＾ちなみに値段は小銀貨1枚です

でもねー・・・その後で冒険者さん達からコレが欲しいって大騒ぎがあってさー・・・
それって売り物じゃ無かったんだけどねー
モノは何かって?元の世界ではゴミだった『ペットボトル』なんで

すよ・・・
水筒に使うとかポーションを入れるのに都合が良いらしいんだって
フタがしっかりしてるのも冒険者（みんな）にうけたみたい
んで、取り合えず『ミネラルウォーター』を５０本出したらなんと
驚く無かれ
１本で小銀貨３枚もの値段が付いちゃって・・・これなんか２分で
完売ですよ＾＾
そーいえばケイトとリリスも基地でペットボトルを漁ってたっけな
ぁ・・・

後で聞いたら水筒は金属と皮製があって　金属製の水筒は錆びるし
ぶつけると穴があくらしくて
皮製のは匂いが臭くってさらにカビが生えるらしいよ
確かに　誰だって臭かったり錆が浮いてる水は飲みたくないモンね
ー・・・

さーてと　王都に着くのが夜になっちゃうんでそろそろ出発です！
走り出した車の中でケイトが話し出します

ケイト「マコト　王都に着いたら厄介事があるかも」

真琴「へ？厄介事ってなにさ？」

ケイト「王都に居るはずのブールがノーダ村に居た」

リリス「うむ、マコトは先日倒した盗賊を覚えているか？」

真琴「メアリ達が襲われてた時の？」

ケイト「そう・・・あれはかなりな賞金首」

真琴「ありゃ？そーなの？あんなので？」

リリス「あんなのって・・・マコトは・・・」

ケイト「で、ブールが言っていた　王都でだれが倒したのか噂になってるって・・・
　その真意を確かめるために騎士団としてノーダ村に来たらしい」

真琴「ありゃー・・・」

リリス「うむ、実際に私とケイトは王都でもかなり勇名なんだが・・・それでも2人で
　あの盗賊の討伐は無理だ　それに特にあの頭は強い」

ケイト「そう、その無理な討伐を　お父上と2人で盗賊の2／3は倒してた」

リリス「うむ、さらにマコトは　その強い盗賊の頭も一撃で倒したしな・・・」

ケイト「それから　ジャングルで調べたドラゴンモドキもそう」

リリス「うむ、恐竜もマコトが一撃で倒したんだろ？」

真琴「うん・・・まーね」

ケイト「だから　多少の厄介事はあると思ったほうがいい」

真琴「うw・・・りょう一かーいw」

あーまたフラグが立っちゃったのか？・・・
とりあえずこの事を無線でみんなに連絡しときました

さて運転　運転っと・・・

♪まだかなーまだかなーが○けんのおばちゃんまだかなー♪

なーんて歌ってると（真琴はほんとに１８歳か？）見えてきました！
立派な城壁に囲まれた町が！北側は切り立った山でその手前にお城が見えます
そこから南に向かって扇状に町が広がってますねー

ケイトの話だと南側に正門があるみたいです・・・取り合えず正門に行きますねー
おー、門番や通行人が　@@！↑こんなんなってます＾＾

リリス「私が通行許可を取ってこよう」

リリスが車を降りて入国の手続きに門へ向かいますが・・・
おおー！門番さん敬礼してるよ・・・奥からも何人か出て来てペコ

ペコ・・・
やっぱりリリスってば偉い人だったのか?

戻ってきたリリスの案内で停車場付きの宿屋さんへ^^
王都内の道をゆっくり走りますが　みーんな立ち止まってこっちに注目してます

お?無線が入ったね・・・

『真琴!あそこの屋台でお約束の串焼き肉が売ってたぞ!』

「・・・兄貴は少し黙ってなさい」

あー、親父さんのニヤけたドヤ顔が頭にうかんでくるw~~・・・
ほんっとーにテンプレ親父だね~・・・無線まで使ってるしw・・・
でも串焼き肉っておいしいのかな?ちょっと期待しますねー

で、宿の横の停車場に車を止めて・・・ここでも注目されてますねー
まあ、馬無しの車はめずらしいもんね・・・

でっかい宿だなー・・・1階は酒場兼食堂かな?ここも大きそうね^^
うん、賑わってますな~

「マコトー!メアリ達と先に行って部屋を取っといてー^^私達は荷物を降ろして
車にカギと結界をかけてから行くから^^」

「うん、レティ解ったー・・・手続き終わったら何か飲みながら1階で待ってるから^^」

あたしと3人娘で宿屋に入ります
ドア（西部劇みたいなの）を開けて中へ・・・うん、注目浴びてるねー
おー、冒険者か？悪そうなのも居るねー・・・こっち見て品定めってか？
じろじろ見たりにやけてたり・・・

「うむ、部屋は私とケイトで取ってこよう　マコトはカウンターで待っててくれ」

「いいの？ありがとー＾＾」

私はメアリとカウンターへ行きます
カウンターにはバーテンの女の人がいました・・・が・・・
しっかしでけー乳だな～谷間がすごい！・・・てか、破裂してしまえ！ふんっ・・・

「おねーさん、なんか軽い飲み物ってある？できればアルコールの入ってないやつ＾＾」

「あら、かわいい子ね＾＾お酒じゃないのならジュースかミルクね＾＾」

「んじゃミルクで！・・・メアリは？」

「わたしもミルクでおねがいします＾＾」

その時・・・

「がはは!おい!聞いたか?ミルクだってよ!がはははは!」

「ここはガキの来るとこじゃねーぞー!はははは!」

はいはいw・・・何年前の西部劇だ?テンプレにもほどっちゅーもんがあるぞ?

リリスとケイトはこっち見てニヤッっとしてるしw・・・

「マ、マコトさん・・・(びくびく)」

「大丈夫だよ^^あんなバカは気にしないで無視すれば^^」

「なんだと!このガキが!」

「うっさい!だまっれおっさん!」

ガタガタッと4~5人の冒険者が席を立ってあたしを睨みつけます

「こ、小僧!つけ上がりやがって!」

「礼儀を教えてやるぜ!坊主!」

「いいよ^^取り合えずお店にめーわくだから　表に出るよ」

バーテンのおねーさんも心配そうな顔をしてますが・・・へーきだ

よん＾＾
てか、むだにその乳がゆれてますが・・・もげろ！
それにしてもまた人が集まって来ましたねー・・・野次馬さんですかい・・・
みんな他に娯楽はないのか？

「売られたケンカだから買ってやるけど・・・コレだけは先に言っとく！」

「ああ？なんだ坊主」

「あたしは女だ！」

「・・・@@！・・・」

まー解ってましたけどね・・・グスン・・・

周りで飲んでた人達も　なんで驚いてるの！野次馬さん達もかよ！
って、バーテンのおねいさんまで　@@；↑こんな目しちゃってｗ・・・

ケイトは肩震わせて笑いをこらえてる？リリスは腹抱えてわらっとるしｗ・・・
メアリは・・・キャッゞ（≧≦∇≦≦＊）〃ゞ（＊≧≦∇≦≦）〃キャッ・・・うん、ほっとこう・・・

デフォなのか・・・デフォなんですね・・・

胸だって中学からみたら育ってると・・・育ってる・・・育って・・・たぶん育っ・・・
育ってたら良かったのにー！

ρ（ー ε ー。）イイモンイイモン・・（。＿＿）シュン・・・

あれか？あたしは何か悪いことでもしたのか？・・・おせーて！神様ｗ・・・

あたしは・・・これでも・・・

女の子なんだーーー！！

。・・。。（ノД`）あ゛～ん　・・・・・・・・ｏｒｚ

13話　涙の旅路　あたしは男の娘じゃなくて女の娘ですってばw！（後書き）

真琴「おつですw・・・」
レティ「マ、マコトはかわいいわよ？」
ジョン「おう！かわいいぞ！」
真琴「でも、今回は2回も男の子扱いあったしw・・・」
ジョン「ありゃー作者がわざとやってる事だから心配すんな＾＾」
レティ「そうよ＾＾」
真琴「ほんと？」
レ、ジ「「うんうん＾＾」」

ファスト「師匠ー・・・頼まれた詰襟の学生服もってきたっス＾＾」
カミヤ「おー！これぞテンプレ！」
ファスト「学生服（それ）だれが着るっスか？」
カミヤ「ふふふ＾＾とーぜん王様に謁見する時に真琴に着させるのさ＾＾」
真琴「・・・（ブチッ）・・・」
ファスト「あ、俺、急用が出来たっス・・・じゃまた！」
ジョン「マコト・・・今日は何を持ってく？」
真琴「これ！」
ジョン「ＡＶ－８Ｂ　ハリアー　Ｉｉね・・・はいはい・・・」
真琴「燃え尽きてしまえー！食らえＭｋ７７ナパーム弾！」

まいどー＾＾まだまだ初心者のＭ２－１０１５です
秋も深まってまいりましたね・・・学生さんたちはテストの時期ですか？

風邪などひかないように温かくして寝てくださいね＾＾

さて次回ですが　多分?冒険者ギルドに行くことになります
がんばれ真琴!って感じですかな?

それから　本当にできればで結構ですのでお気に入りの登録や評価、
感想なども
なにとぞ宜しくお願い致したく思います　m（＿＿）m　ペコリ

それでは皆様にさらなる笑顔があります様に＾＾
では＾＾ノ

１４話　涙の宿屋　あたし以外のｏｒｚ　たまには良いよね＾＾ノ（前書き）

真琴「どーもでーす！＾＾」
レティ「よろしくー＾＾」
ジョン「オース！＾＾」
カミヤ「ねえ、そろそろ俺のあばれるシーンがあってもいくない？」
全員「「それは無しの方向で！」」」
ファスト「って言うか　師匠がめっちゃ暴れてる所って見たこと無いんっスけど？」
ロッテ「私も見たこと無いわね・・・」
レティ「・・・あれはトラウマものよ？・・・」
ジョン「うむ・・・できれば二度と見たくない　（（（（（　；。Д。）））ガクガクブルブル」
真琴「うん、あたしも死にたくは無いしｗ・・・」
ファスト「どんだけっスか！」

ポーラ「なに！馬の要らない馬車じゃと！・・・よし、わらわは見に行くぞ！」
カリフ「お待ち下さい姫様！」
ギブリ「まーた姫のわがままがはぢまっちったいｗ・・・」

真琴「ん？・・・あれ？今　知らない人がでてなかった？」
ジョン「うん？気のせいだろ？」
レティ「そろそろはじめましょ＾＾」

真琴「第１４話始めまーす＾＾←いつもこーゆーターイトルだと気分良いよね＾＾」

１４話　涙の宿屋　あたし以外のｏｒｚ　たまには良いよね＾＾ノ

Ｓｉｄｅケイト

「ぷぷぷ・・・リリス・・・笑ったらマコトに悪い・・・ぷぷ」

「う、うむ、あははは・・・そう言うケイトだって・・・あははは」

「あー、マコトさんが男の子だったらどんなに良いか・・・（＊´エ`＊）ウットリ」

まあ、メアリは面白いのでこのままで良いとして・・・
さて、そろそろマコトを引っ掻き回す・・・もとい、ちゃちゃを入れますかね・・・
どーなるか今後が楽しみですね

「そこの　いかにも悪役　私達が誰だかわかりますか」

「あ！なんだっ・・・」

あら、私とリリスを見て固まっちゃいましたよ
周りからも『ボムとブリザードだ！』って聞こえてますね・・・

「うむ、そこで凹んでいる女性なんだが、私の剣の師匠だぞ？」

「そう、私も魔術では敵わない」

「「「・・・（シーン）・・・」」」

「うむ、その抜き身の剣を鞘に収めるがよいぞ？」

「あなた達なら一瞬でみじめに倒される」

「この・・・小僧が？・・・」

悪役のおじさん　顔が真っ青になって冷や汗でてますよ？
でも小僧って言っちゃいましたね・・・私はしりませんよ？どうなってもね・・・
あら、マコトがゆっくりと起きましたね・・・うわーものすごい殺気ですよ

「今、なんて言った？・・・小僧ってまた言った？」

「うw・・・お前みたいなガキが『ボム』の師匠のはずがねー！・・・食らえ！」

あーあ・・・やっちゃたですw・・・
大きく振りかぶったロングソードがマコトの頭を直撃・・・するわけないですね・・・

マコトはすばやく横にずれて回し蹴りを1発・・・悪役は吹っ飛んでますよ
剣も折られちゃって・・・だから忠告したのに・・・は！手下が！

バン！バン！バン！バン！

ほう、蹴りから着地する態勢で拳銃を抜いてましたか・・・速くて見えなかったですね・・・
悪役の後ろに控えていた手下の足元にむかって牽制ですか
あらあら・・・びびっちゃって・・・漏らしてなければ良いですけど

「だから忠告したのに」

「うむ、私ら2人でかかっても多分マコトは倒せないぞ？」

「素敵です！マコトさん！・・・♪（ノ＾０＾）ノキャーキャー♪」

やはり脳筋はダメですね・・・相手の実力くらい察知しなさい　仮にもCクラスならね・・・
マコトに対してのメアリは　かなり面白くなって来てますね
どうせリリスは気づいてないでしょうから　リリスにも話して　もっと煽る様にしますかね？
うん、どうせなら魔法も使って楽しみたいですね・・・Ψ（ΦwΦ）
Ψ　ニヤッ！

Ｓｉｄｅマコト

ふー、何とかなったね・・・まー汗１つ掻いてないんだけどね＾＾
後ろで控えてたやつら　ナイフを投げようとしてたんで　デルちゃん撃っちゃったんだけど
足元に４０～５０ｃｍの穴ぼこ作っちゃたよ・・・
９パラでこれじゃ４５ＡＣＰだったらどんくらい大きくなっちゃうのかな？

穴は　こいつらに埋めさせればいーよね？　道の真ん中に穴ぼこあったら危ないモンね＾＾
さて、こいつらの処遇なんだけど・・・

「ねー、ケイトー　こいつらってここの法律じゃどーなるの？」

「王都騎士団の巡回警邏に引き渡せば向こうで処罰してくれる」

「うむ、我らが証人となろう　冒険者なら１年は資格剥奪だな」

「あら、資格剥奪なんだ・・・」

「１年後に再度申請しても最低のＧランクからのスタート　Ｇだと稼ぎはすずめの涙」

「ふ～ん・・・ちょっとかわいそうかな？」

「うむ、しかし街中で　か弱い婦女子にいきなりの暴力行為だぞ？
しかも多勢に無勢で」

「マコトが　か弱い婦女子なのは無理があると思う」

「ケイト、一言余計だよ？・・・でも、うーん・・・そうだ！ねえ、
そこの手下？さん・・・
あそこで延びてるやつのギルドランクは？」

「はぁ・・・Cランクですw・・・」

「Cランクになるのって普通どんくらい掛かるの？」

「大体10～15年は掛かりますw・・・」

「じゃあさ、警邏に引き渡されたくないよね？」

「そりゃーもちろんですw・・・」

「んじゃ今後はあたし達に手を出さないでくれるかな？で、あたし
達にはアンタッチャブルって
うわさも広めてくれるなら　無かったことにするけど・・・どう？」

「それでお願いしやす！」

「オッケー＾＾・・・リリス　手間取らせて悪いんだけどこいつら
の名前とか控えてくれる？

ああそうだ、道路の穴ぼこも埋めさせちゃってね＾＾」

「うむ、承知！・・・おい、おまえらギルドカードを出せ」

おーギルドカードってやっぱ有るんだー・・・って地球組み　みんなそろって見物してたんかい！

何人かはＭＰ－５（サブマシンガン）を構えてバックアップしてくれてたんだねー

レティは心配そうな顔しちゃって・・・大丈夫だよん＾＾

ケイトは悪役さんの側にしゃがみ込んでつんつんと指で突付いてるし・・・趣味か？

親父さんはキラキラ目だねｗ・・・たぶんギルドカードに食いついたんだよねｗ・・・

レティ「さっきは　いきなり銃声が聞こえたからびっくりしたわよ」

マック「で、ベルと2人で　すっ飛んで来てみたらこれだろ？」

真琴「ごめんねー・・・なんか絡まれちゃって（テヘッ＾＾）」

ベル「まあ、宿屋から出てくるあたりから見てたんで　俺とマックでバックアップは
　してたんだが・・・俺達に出番はなかったな」

ジョン「まあ、なんにしても　うまく片付いて良かったな」

レティ「あら？カミヤ　なにを考え込んでるの？」

カミヤ「俺ってば　最近あばれてないよね?・・・ストレス溜まってきてるんだが・・・」

全員「「「やばい!?」」」

真琴「チェックインしたら町で遊んできたら?ただし!ケンカと女遊びは無しでね!」

カミヤ「うーん・・・女無しか～w・・・そりゃつまらんw」

真琴「このエロおやじー!ふんっだ!（#、д,）＝3」

レティ「カ、カミヤ（モジモジ）・・・じ、じゃあ　私と　の、飲みに行かない?／／／」

ジョン「おい、レティ　そいつは後でな＾＾とりあえず宿が先だぞ?・・・みんな入るぞー」

およ?レティが親父さんを飲みに誘うのって珍しいよね?・・・ん?まあー　夕飯の時　だれかに聞いてみよーっと

3階の部屋へ荷物を置いて1階へ戻ります・・・あ、部屋は3人娘と一緒でした＾＾

夕食まで1時間以上あるので取り合えず会議を兼ねた飲み会?をする事になりました

エール酒（ビールっぽい飲み物）と簡単なおつまみ（チーズとナッツ）です・・・

おつまみがちっと物足りない？・・・うん、そうだよあれ取ってこよーっと！

「ねえ、あたし　えびせん取ってくるけど他に何かおつまみ持ってくる？」

「ポップコーン！」

「ポテトチィップス！」

「ポ○キー！」

「さきイカ！」

「甘納豆！」

「カリカリ梅！」

「すこんぶ！」

「オッケー＾＾んじゃ持ってくる～」

「あ、ケチャップも頼むね」

「あいよー＾＾でもフレックは装備としてケチャップ持ってたほーが良いんでない？」

全員「「「あはははは！違いない！」」」

あたしは宿を出て車両置き場へてくてくと歩きます
♪やめられないとまらない～かっ○えびせん♪
自然と歌が口から出てますなあ～・・・・・ん？
車に近づくと・・・誰かいる？2～3人の気配がするんですけど・・
・

「そこでなにやってるの？車（それ）あたしらのなんだけど？」

あたしは軽く殺気をはなって様子をうかがいます
良く見ると女の子が1人に護衛っぽいのが2人いますねー・・・お
？やるのか？
護衛っぽいのがあたしの殺気に釣られて剣を抜きます
あたしはみっちゃんの柄に手をかけて・・・

「カリフ！ギブリ！やめるのじゃ！」

「し、しかし姫様・・・」

「よい、カリフ　人様の馬車？に無礼をしていたのは事実じゃ・・・
こちらが悪い」

へ？・・・姫？・・・今、姫様って言ったよね？

「あいすまぬ、世にも珍しい馬の要らない馬車が来たと言うので城を抜け出してきたのじゃ」

「へ？んじゃあ　あなたはこの国のお姫様って事でいいの？」

「きさま！その口調は姫様に対して無礼であろう！」

「ギブリも！控えろと言っておろうに」

えーと？あたしってば　またフラグった？・・・えー取り合えず・・・どーしよーかな？

「お忍びで城から出てきたので　大きい声では申せぬが・・・私は　このシャマール国の第一王姫で『ポーラ・トライデント・シャマール』じゃ・・・」

ほんとにお姫様なんだー・・・あたしも設定上の自己紹介しとこーかね・・・お転婆そうだけど楽しそうな感じだね・・・お友達になれるかな？

「こちらこそ失礼を致しました・・・私はヨコタ国第一王姫の『マコト・カミヤ』です＾＾私達も訳あっておしのびでこの国に来ました・・・」

「そ、そなたも一国の王族なのか？・・・しかし、ヨコタ国とは・・

・初めて聞く国名じゃな」

あらあら、お付きの2人『他国の王姫に剣向けちゃったよー！どうすんべ！』
ってな顔しちゃって・・・あはは＾＾
うん、彼女達をさそって話をしよう＾＾

「ポーラ殿下＾＾よろしかったら私達と飲み物でも如何ですか？お付きのお2人も一緒に＾＾」

「マコト殿下・・・よいのか？わらわはこの様な店には入った事がないので興味はあるのじゃが」

「かまいませんよ＾＾私の父上も居ますし　他は楽しい友人ばかりですので＾＾」

「は？そなたの父上・・・って、この様な店に国王陛下もいらっしゃるのか！？」

「はい＾＾ヨコタ国はある意味で平等ですので　平民も貴族も王族も一緒に楽しみます」

「う～む・・・興味深い話じゃ・・・カリフ、ギブリ、わらわは歓談していくぞ　付いて参れ」

「「ははっ」」

で、車からおつまみ出して・・・ポーラ達用においしいワインもね
＾＾
あ、これもポーラと友達になった記念にあげちゃおーっと・・・
あら?ポーラさん達?・・・不思議そうにこっちを見てますけど?・
・・なんだろ?

「王族であるマコト殿下自らその様な雑用をされるのか・・・ふむ・
・・」

「あはは＾＾父上からの教えでね『みんな平等!自分でやれる事は
何でもやれ!』って＾＾」

「ほう、そうなのか・・・良い考え方じゃのう・・・」

「ねえ、１つお願いがあるんだけど良いかな」

「願いとはなんじゃ?」

「うん、お互いに王姫同士なんだから　公式の場以外では敬語はや
めない?」

「!あいわかｔ・・・いや解ったわ＾＾ポーラって呼んでくださる
?」

「うん＾＾あたしもマコトって呼び捨てで良いよ＾＾」

なーんて話しながら宿の酒場へもどっていきます

マック「遅かったじゃないか　マコト」

ロッテ「心配したわよ」

真琴「遅くなってごめんねー・・・お友達が出来たんで連れて来ちゃった＾＾」

あたしの連れをケイトとリリスがちらっと見て・・・

リリス、ケイト「「（＊´　゜ω゜）：；＊．－：；　ぶーっ！」」

真琴「リリス！ケイト！ってば汚い！飲み物吹くな！」

リリス「いやいやいやいやいやいやいや！」

ケイト「な、なんでマコトとポーラ殿下が・・・」

真琴「ん？停車場で知り合って友達になったんだけど？」

メアリ「へ？・・・ポ、ポポポポポ、ポーラ殿下！？（　゜д゜）ポカーン　」

リリス、ケイト「「・・・・・・ｏｒｚ」」

ポーラ「リリス、ケイト　うふふ、お久しぶりね＾＾」

やったね＾＾今回のラストはあたしじゃなくてリリスとケイトが『ｏｒｚ』だね！

メアリも固まってるしね～＾＾

たまにはこんなのも良いよね！＾＾　（＊＾－゜）ｖィェィ♪

１４話　涙の宿屋　あたし以外のｏｒｚ　たまには良いよね＾＾ノ（後書き）

真琴「よっしゃー！」
レティ「お疲れ様でーす＾＾」
ジョン「マコト　うれしそーだな＾＾」
真琴「あたりまえだのくらっかー！」
レティ「マコトってほんとーの年齢はいくつなの？」
カミヤ「喜んでるとこすまんが　今回は特別らしいぞ？」
真琴「へ？」
カミヤ「ある事情（活動報告参照）で　あらすじから書き直したんだってさ」
レティ「あらあら・・・」
カミヤ「今回含めて１～２話で元の路線に戻すみたいだぞ？」
ジョン「って事は・・・またマコト弄りで終わるスタイルなのか？」
カミヤ「そーなるね」
真琴「・・・・・・ｏｒｚ」
ポーラ「今ですわ！チャンスですわ！主役はいただきですわ！」
カリフ「ひ、姫様ｗ・・・」
ギブリ「相変わらずせこい姫様で・・・」

どーもです！作者のＭ２－１０１５です＾＾
いやー、物語の途中変更ってきついっすね～
今回はＴＳってギルドへって話だったんですが・・・
ある事情（活動報告参照）であらすじから変更しましたｗ
で、急遽ポーラ姫に出ていただきました（実際は３～４話後くらいだったんですが）

次回は「王都で１泊」「ギルドは危険」「王姫と２人」の３本です

（うそぴょ～ん）

それでは皆様にもっと笑顔が増えますように＾＾

では＾＾ノ

１５話　涙の姫様　なんか主役を取られそうなんですけどｗ（前書き）

真琴「皆さーん　元気ですかー＾＾」
レティ「どーもです＾＾」
ジョン「オース＾＾」
ポーラ「ごきげんようですわ＾＾」
カミヤ「真琴・・・主役を食われだしたな・・・」
真琴「ポーラとは友達だから　そんなことないもん！」
レティ「・・・・・・・」
ジョン「・・・・・・・」
ポーラ「・・・・・・・」
真琴「あるぇ～？・・・ぽーらさん？」
ポーラ「は！そ、そそそんなことはありませんですわよ？」
ジョン「取り合えずはじめるか？」

真琴「では！第１５話はじまりまーす＾＾」

１５話　涙の姫様　なんか主役を取られそうなんですけどｗ

Ｓｉｄｅポーラ

あーあ・・・何か面白いことでもないかしら・・・
いつもいつも城の中・・・つまらないですわ・・・
またカリフにいたずらでもしようかしらね？

もうそろそろ夕方になるわね・・・あら？
城内が少しざわついていますわね？・・・何かしら？

お付きの待女に声を掛けてみる

「メラ　城内が騒々しいですわね・・・何かあったのかしら？」

「ポーラ様　なにやら城下に『馬が無くても走る馬車』がやって来たと　噂になっております」

「！馬車単体で走るですって！？」

そんなことはありえない！軽いものなら魔術で少しの時間は動かすことは出来るとしても

馬車なんて絶対無理ですわ・・・興味を惹かれますわね　その噂はどこからなのでしょう?

「正門の騎士からの申し伝えみたいです・・・なんでもリリス殿とケイト殿も一緒だったとか」

「なるほど・・・あの2人も一緒ですか・・・(わくわくの予感ですわ!)」

正門からの報告ですか・・・リリスとケイトが一緒?あの2人は向上心と正義感の塊の様な方達でしかもおちゃめですわよね・・・これは絶対に見に行くべきですわ!

「・・・姫様?なにをお考えですか?」

「メラ!カリフとギブリを大至急呼んで頂戴　急いでね!」

「は、はい　承知いたしました」

ふふふ^^馬が要らない馬車　しかもリリスとケイトが一緒・・・楽しい予感がしますわ!

ポーラ「ふふふふふふふふ!」

カリフ「ひ、姫様？」

ギブリ「ついに壊れたか？」

ポーラ「！違いますわ！城下に行きますわよ！２人とも護衛としてお供しなさい」

カリフ「じょ、城下ですか？何故（なにゆえ）に・・・」

ポーラ「なんでも『馬の要らない馬車』が城下に来ているそうよ？それを見に行きますわ！」

カリフ「馬車見学ですか・・・」

ポーラ「聞く所によるとリリスとケイトもその馬車と一緒ですわ」

ギブリ「げ！『ボム』と『ブリザード』が居るんですかいｗ」

ポーラ「この事は　みなには内緒ですわ・・・さあ、急いで行きますわよ！」

カリフ「姫様！お待ちを！城下の何処（どこ）にその馬車はあるのですか？」

ポーラ「・・・さぁ？・・・どこでしょう？・・・」

ギブリ「はぁ～・・・王都って広いんだぞ？脳みそあんのか？この姫様はｗ・・・」

ポーラ「うｗ・・・メラ！あなたはどこに居るのか知っていますの

？」

メラ「はあ、南大通りの『幌馬車亭』と言う宿屋だそうですが・・・」

ポーラ「さあ！行きますわよ！」

カリフ「姫様！おしのびですのでお着替えを！」

ギブリ「やれやれ・・・」

ギブリったら子供のころからですわ・・・口の悪さは直らないものなのですかね？

カリフの心配性も昔からでしたわね・・・

私達は　おしのびで城から出て『幌馬車亭』へ向かったのですわ

城下など歩き回った事が無いので色々と物珍しいですわね・・・

あれはなんでしょう？食べ物？なのですかしらね？・・・

これは？飲み物？ですかしら？・・・

あっちからはとても良い匂いがしますわ！

向こうの露店は人がたくさん集まってますわ！

あ、あら？動けないですわ・・・

ん？・・・グエッ！く、首がしまるw・・・首根っこをギブリに押さえられていますわ！

ギブリ「ったく、ちょこまかと・・・」

カリフ「『うろうろ』や『きょろきょろ』をしないで頂くと助かるのですが・・・」

ポーラ「ふ、ふんっ！・・・そのくらい解っていますわ！」

ギブリ「どーだか～・・・」

ポーラ「ギブリ！あなたは　いつもいつも！少しは黙ったらどうですの！？」

ギブリ「はいはい・・・」

ポーラ「返事は1回でよいですのよ！」

ギブリ「は～～い＾＾」

ポーラ「・・・もう、よいですわ・・・」

カリフ「見えてきました！あそこが『幌馬車亭』です」

私達は宿の前を通り過ぎて横の停車場へ向かったのですわ
そこには見たことも無い様な　鉄で出来た大きな馬車？が何台もありましたの

ポーラ「・・・これほどとは・・・」

カリフ「すごいですな・・・」

ギブリ「こんなの持ってるやつって・・・どんな金持ちだ?」

ポーラ「!これは!窓に透明な板がはまってますわ!」

カリフ「この車輪はなんだ?木でもなければ鉄でもないぞ?」

ギブリ「小さいのは乗車用で　中くらいのが荷物用ってのは解るんだが・・・しかし
　このでっかいのはなんだ?天蓋のやぐらから延びている鉄の棒は武器なのか?」

みんなで馬車?を見ていると変な歌が聞こえてきましたの・・・

♪やめられないとまらない~かっ○えびせん♪

変な歌に気を取られていましたらいきなり声をかけられましたわ・・・

「そこでなにやってるの?車(それ)あたしらのなんだけど?」

どうやらこの馬車?の持ち主の様ですわ
こちらが何者なのか様子を伺っていますわね
!・・・こ、これって殺気ですの?すごいですわ・・・ちびりそうですわ・・・

この殺気でカリフとギブリが条件反射的に抜剣してしまいましたわ
二人とも相手に剣をむけてしまって・・・
この馬車はあの方の物なんですのよ?
かってに見学しているのは私達なのですわよ?
それを解っているのですか?

「カリフ!ギブリ!やめるのじゃ!」

「し、しかし姫様・・・」

「よい、カリフ　人様の馬車?に無礼をしていたのは事実じゃ・・・
こちらが悪い」

ギブリとカリフが冷や汗を掻いている?・・・この変な歌を唄っていた者は強いのですか?
ですが　まずは誤解を解いて謝らねば・・・

「あいすまぬ、世にも珍しい馬の要らない馬車が来たと言うので
城を抜け出してきたのじゃ」

「へ?んじゃあ　あなたはこの国のお姫様って事でいいの?」

「きさま!その口調は姫様に対して無礼であろう!」

「ギブリも!控えろと言っておろうに」

ギブリ！偉そうに！あなたも私に対しての物言いは　少し直してほしいものがあるのですわ！
でも　物取りの類ではないことを説明しないと・・・身分を明かさないとですわ・・・

「お忍びで城から出てきたので　大きい声では申せぬが・・・
わらわは　このシャマール国の第一王姫で『ポーラ・トライデント・シャマール』じゃ・・・」

「こちらこそ失礼を致しました・・・私はヨコタ国第一王姫の『マコト・カミヤ』です＾＾
私達も訳あっておしのびでこの国に来ました・・・」

なんと？他国の姫君なのですか！？
なぜこのような平民が泊まる宿などに？・・・しかも1人でうろついて・・・

「そ、そなたも一国の王族なのか？・・・しかし、ヨコタ国とは・・・初めて聞く国名じゃな」

カリフとギブリも焦ってますわね『他国の王姫に剣向けちゃったよー！どうすんべ！』
って顔をしていますわ・・・ふんっ！ギブリには良い薬ですわ！

「ポーラ殿下＾＾よろしかったら私達と飲み物でも如何ですか？お付きのお2人も一緒に＾＾」

へ？・・・私をさそってくださってる？・・・うれしいですけどこんな場末の酒場など
入ったことはありませんの・・・興味はあるので入ってみたいんですけど・・・

「マコト殿下・・・よいのか？わらわはこの様な店には入った事がないので興味はあるのじゃが」

「かまいませんよ＾＾私の父上も居ますし　他は楽しい友人ばかりですので＾＾」

はぁ？父上って国王陛下ですわよね？この様な所にいらっしゃるとは・・・

「は？そなたの父上・・・って、この様な店に国王陛下もいらっしゃるのか！？」

「はい＾＾ヨコタ国はある意味で平等ですので　平民も貴族も王族も一緒に楽しみます」

それは　民と一緒に居てこそ民を知ると言う事なのですかね？・・・
私も学びたいですわ

「う～む・・・興味深い話じゃ・・・カリフ、ギブリ、わらわは歓談していくぞ　付いて参れ」

「「ははっ」」

それにしてもマコト殿下は馬車(ここ)で何をしていますの？・・・

へ？・・・マコト殿下自ら荷を取りに来ているのですか！・・・

王妃が１人で？・・・お付きの護衛も無しですの？・・・信じられませんわ！

「王族であるマコト殿下自らその様な雑用をされるのですか？・・・

ふむ・・・」

「あはは＾＾父上からの教えでね『みんな平等！自分でやれる事は何でもやれ！』って＾＾」

「ほう、そうなのか・・・良い考え方じゃのう・・・」

私も１人で色々とやってみたいものですわね・・・

マコト殿下とも　もっと気楽に会話がしてみたいですわね・・・

「ねえ、１つお願いがあるんだけど良いかな」

「願いとはなんじゃ？」

「うん、お互いに王姫同士なんだから　公式の場以外では敬語はやめない？」

「！あいわかｔ・・・いや解ったわ＾＾ポーラって呼んでくださる？」

「うん＾＾あたしもマコトって呼び捨てで良いよ＾＾」

私にも対等な友人ができましたわ！これはとてもうれしいですの＾＾
マコトと宿へ入っていきましたら　マコトの仲間の方達がいらっしゃいまして・・・

マック「遅かったじゃないか　マコト」

ロッテ「心配したわよ」

真琴「遅くなってごめんねー・・・お友達が出来たんで連れて来ちゃった＾＾」

ほう！これが平民の酒場ですか・・・なんとも賑やかですわね・・・
酒場(なか)を見渡しましたら・・・私と目が合いましたね　リリスにケイト＾＾

リリス、ケイト「「（＊´　。ω　。）：；＊：！：；　ぶーっ！」」

真琴「リリス！ケイト！ってば汚い！飲み物吹くな！」

リリス「いやいやいやいやいやいやいや！」

ケイト「な、なんでマコトとポーラ殿下が・・・」

真琴「ん？停車場で知り合って友達になったんだけど？」

メアリ「ポ、ポポポポポ、ポーラ殿下！？（　。д。）ポカーン」

リリス、ケイト「「・・・・・・ｏｒｚ」」

ポーラ「リリス、ケイト　うふふ、お久しぶりね＾＾」

ふふふ＾＾喜んでくれてうれしいですわ　ね？ケイトにリリス＾＾

Ｓｉｄｅ真琴

真琴「とりあえずあっちの席に座ろうよ＾＾」

あたしはポーラ達とメアリ達を呼んで奥のテーブルを指差します
あーそうだ　おつまみもみんなに配らないと・・・頼まれてたんだよね
カウンターのおねいさんからお皿でも借りてくるかね？

真琴「ちょっと待っててね　みんなにおつまみ配ってきちゃうから・・・
あ、リリス　このワイン開けて先にみんなで飲んでて＾＾」

ワインボトルを2本とグラスを一緒にテーブルにおいてカウンターへ行きます
てか、おねいさんw・・・やっぱその乳は反則ですよw・・・

真琴「おねーさん、おつまみ持ってきたんだけど　お皿貸してくれる？」

おねーさん「いいわよ＾＾・・・あら、珍しい食べ物ね・・・どこの食べ物なの？」

真琴「うん、あたしの国の食べ物なんだよ　よかったらおねーさんにも少しあげるね＾＾」

あたしは　何枚かのお皿におつまみを分けてみんなの所に持って行きます
だがしかし　えびせんはあたしんだぞ！

レティ「あ、おつまみありがとねー＾＾」

ジョン「んで、さっきの連れは誰なんだい？」

真琴「んーとね、この国のお姫様とお付きの人だって＾＾」

みんな「「「ぶーっ！」」」

カミヤ「ふむ、マジで姫様なのか？挨拶したほうが良いか？」

真琴「うん、後で呼ぶね＾＾ジョンとレティもだからね」

さて、おつまみ持ってポーラ達の所へ戻りますか・・・

あるぇ～？なんか緊迫感があるんですけど？
メアリが緊張でカチカチなのは解るとして　ポーラのお付きの人達って何で緊張してるんだ？
リリスとケイトも苦笑いっぽい？
ワインも飲んでない様だし・・・

真琴「おまたせー・・・はい、これおつまみね＾＾」

ポーラ「まってましたわ＾＾マコト　紹介しますわ　この2人はカリフとギブリですわ」

カリフさんとギブリさんが会釈をそれぞれしてくれます

ポーラ「では乾杯しますわ＾＾」

全員「「「かんぱーい！」」」

さあどうだ！こいつは美味いんだぞ～　なんつったて秘蔵のワインだぞ？

全員「「「！美味しい！」」」

真琴「でしょー＾＾」

リリス「うむ、このあいだ飲んだのより遥かに美味いな！」

ケイト「色も透明じゃなく少し琥珀色？」

ポーラ「私もこのような甘みと香りのあるワインは飲んだことがありませんわ！」

カリフ「はい・・・これは感動しました」

ギブリ「確かに旨い・・・」

メアリ「・・・おいしーですw・・・」

真琴「このあいだケイト達が飲んだのはシュタインベルガーのカビネット種で　今回のは
　アウシュレーゼ種のビンテージなんだよ＾＾」

ポーラ「マコトの国のワインなのですね・・・」

真琴「そう＾＾これはポーラの家に献上品で持ってきたやつなんだ＾＾」

全員「「「ブッ（　；　。；ж；　。；）　゛；、；：　゛；；　。；Д；　。；・：゛：゛；、（；　。；ж；　。；　）ブッ」」」

真琴、ポーラ「「きたない（ですわ）！」」

メアリ「け、け、け、けけけけんんん・・・」

ケイト「メアリ、落ち着く！」

カリフ「け、献上品・・・」

ギブリ「おい、飲んじまったぞ？」

リリス「うむ、王家への献上品を・・・」

真琴「ん？なんか拙かったのかな？」

ポーラ「普通なら　不敬罪で極刑ですわね」

真琴「あら？・・・まー良いじゃん　気にしない気にしない＾＾」

ポーラ「ですわね＾＾」

真琴「まー、場も和んだことだしね＾＾」

全員「「「まったく和んでない！」」」

あ！そうだった　ポーラ達にプレゼント持ってきてたんだっけ・・・
ポーラにはダイヤとルビーが入っている大きめのデザインネックレスで
お付きの2人にはソーラー腕時計＾＾

真琴「ねえ、ポーラ　これ友達になった記念にプレゼントするね＾＾
　　お二人にはこの時計ね」

ポーラ「こ、これは！」

カリフ「！！！う、腕に付けられる時計ですか！」

ギブリ「・・・よいのですか？しかしこれは頂くには高価過ぎる様な・・・」

真琴「いいよー＾＾・・・あ、お城への献上品は別にちゃんとあるから気にしないでね＾＾」

ポーラ「ありがとう・・・マコト！とってもうれしい！」

ポーラってば　ほんとに嬉しそうだね～＾＾
うん、これでほんとに和やかになった・・・ん？・・・あれ？
メアリ？なんでポーラにガン付けてるのかな？・・・まあ、メアリは良いとしても
リリスとケイトってばまだ何かあるのかな？・・・そわそわしてると言うか・・・

微妙にいつもと違うよね？
カリフさんとギブリさんもなんか居心地が悪そうだよね？
ん？なんでだ？・・・・

って事で　次回につづきま～す・・・（＊＾－　。）Ｖィェィ♪

１５話　涙の姫様　なんか主役を取られそうなんですけどｗ（後書き）

真琴「お疲れ様で～す＾＾」
レティ「お疲れー＾＾」
ジョン「今回は中途半端な終わり方だったな・・・」
カミヤ「まあ、作者が作者だし？しかたなかろう」
真琴「なんかねーほんとに親子で話を作ってるらしーよ？」
レティ「それで文体がやや変わるときがあるのね？」
真琴「うん＾＾」

どーもです＾＾作者のＭ２－１０１５です
なかなか話が進んでいませんが物語り的に必要なもので・・・
大幅な書き直しで四苦八苦してますｗ
ぐだぐだ感丸出しですがご勘弁くださいませ＾＾

それでは皆様にもっと笑顔が増えますように＾＾
では＾＾ノ

１６話　涙の部下　上司や仲間に恵まれていないんですｗ（前書き）

真琴「どーもでーす＾＾」
ポーラ「頭が高いですわ！」
カリフ「・・・姫様・・・」
ギブリ「まったく・・・」
真琴「ポーラって・・・こんなキャラなの？」
リリス「うむ」
ケイト「そう」
ポーラ「・・・・・・」
メアリ「あたしの出番が少ないです！（ｏ≧口≦≡）ｏ」
真琴「カリカリ（えびせん食ってる）」
カミヤ「なあ、俺って最近イタズラしてないよな？」
真琴「カリカリポリポリ（えびせん食ってる）」
レティ「あー、真琴はえびせん食べだしたら周りは見なくなるわよ？」
真琴「ポリポリカリカリポリポリ（えびせん食ってる）」
ジョン「んじゃ、はじめっか？」

レティ「それでｈ・・・」
真琴「第１６話はじまりまーす！＾＾（やったね！）」

16話　涙の部下　上司や仲間に恵まれていないんですw

うーん・・・やっぱりなんか雰囲気が変だよね？
ポーラだけは『ニター（（＊´∀`）））』って顔してるんだけど・・・
あ　そーだ！リリスとケイトの二つ名の由来を聞いちゃおーかな・・・
聞いてもへーきだよね？

真琴「ねえねえ、リリスとケイトに疑問って言うかちょっと聞きたいことがあるんだけど良いかな？」

リリス「うむ？良いぞ　私とマコトの間で隠し事はないからな」

ケイト「良いですよ」

真琴「2人の二つ名の事なんだけど・・・」

カリフ、ギブリ「「びくっ！」」

ポーラ「（；≧≡∇≦≡）　＝3　ぷっ！」

ん？なんでこっちの2人がビビッてんのかな？
で、ポーラはなぜに吹いてる？

リリス「うむ、二つ名か・・・私は『爆発（ボム）の剣士（セイバー）』と呼ばれているが・・・」

ケイト「私は『氷風（ブリザード）の魔女（ウイッチ）』」

リリス「名を付けたのは　そこの2人だ・・・」

ケイト「そう、カリフとギブリ」

カリフ、ギブリ「「びくっ！（（（（（　；゜Д゜）））ガクガクブルブル・・・」」

なんで?そんなに震えてるん?

リリス「うむ、名前の由来なんだが・・・かなり上の上司と揉めた事があってな・・・」

ケイト「そう、その事件が原因で二つ名が憑いた」

憑いたってw・・・ケイト・・・でも、気になるよね?
気になるけど・・・聞いちゃって良いものなのかな?

ポーラ「おほほほ＾＾言い辛いんでしたら　私から説明いたしますわ！」

カリフ「ひ、姫様！その話は止めたほうが・・・」

ギブリ「この姫様（あほ）はw・・・また余計なことを・・・」

ポーラ「あら、良いじゃありませんの＾＾あなた達は　あの事に直接は関係ないとしても

　　リリスとケイトの名付け親ですわよね？」

カリフ「確かに二つ名を付けたのは私達ですがw・・・」

リリス「うむ、私は王宮の訓練所にちょっとクレーターを作っただけで・・・（#-　д-）けっ！」

ケイト「そう、私も挑んで来た騎士団員を少し凍らせただけ・・・凸（゜Д゜#）いつかブッ殺す」

カリフ「いやいやいや！あれは姫さm「なにかしら？（ニコッ＾＾）」いえ、何でも無いです」

――――――姫様（ポーラ）説明中――――――――――――――――――――――

真琴「ってことは　騎士団長と魔術騎士団長の嫉妬でリリスとケイトが騎士団巻き込んで

　　大ケンカをおっぱじめちゃったと言う事なの？・・・リリスは剣撃でお城をクレーター

　　だらけにして　さらにケイトは魔法でまわりを氷付けにしち

やったってかw？」

リリス「うむ、あの団長共（ばかもの）は隊長だった我々の才能に嫉妬していたからな」

ケイト「そう、職場の上司に恵まれなかった・・・」

真琴「まさに　オー人事　オー人事って感じだね・・・」

ポーラ「おーじんじ？って何ですの？」

真琴「え？あ、えーと・・・上司に恵まれない時にする　お呪（まじな）いかな？＾＾；」

カリフ、ギブリ「「（おーじんじおーじんじ！）」」

ポーラ「ん？カリフ、ギブリ・・・あなた達　今　何かおっしゃいました？」

カリフ、ギブリ「「（ギクッ！）いえ！何も！」」

ポーラ「・・・まあ良いですわ・・・」

真琴「で、ケンカした後はどーなったの？」

リリス「うむ、それでケイトと2人で騎士団を辞めて冒険者になったんだが・・・」

ケイト「そう　うわさで聞いた　私とリリスを面白そうだからって騎士団長達にけしかけた人物が

いるらしいと・・・もう気にしてないですけど（ジト目でジーっとポーラを見る）」

ポーラ「（びくっ！）」

カリフ「姫様・・・藪を突付いて蛇を出す・・・だから　止めたのに・・・」

ギブリ「ノーミソ無いなw・・・この姫様（おてんば）は」

おう、やっぱりポーラが裏で糸引いてたのね・・・いたずらが好きなんだね～
カリフさん達も苦労してるんだね～・・・
でも、なんか更に気まずくなっちゃった感じがする・・・
話を変えるかね？

真琴「まあまあ・・・その話はそのくらいにして・・・食べて飲んでね＾＾」

ポーラ「あ、これ　おいしいですわ」

真琴「それは『さきいか』だね＾＾」

ポーラ「さきいか？とは・・・なんでしょう？」

真琴「えーと、海に居る軟体動物を味付けして干したもの？かな・・・」

ポーラ「あら、海の物なんですのね・・・」

カミヤ「で、そろそろ良いかな？　挨拶しても＾＾」

真琴「おう！びっくりしたーw・・・って兄貴？」

ポーラ「兄貴？マコトのお兄様ですの？」

真琴「いやいや・・・兄貴って呼んでるけど　これはあたしの親父さん」

ポーラ「えーと、お父様？ってことは・・・国王陛下！？」

カミヤ「私がマコトの父で　ヨコタ国　国王のヨシハル・カミヤです＾＾」

カリフ、ギブリ「「（ビシッ！）」」

あら、固まっちゃったね・・・うん、固まりついでに・・・

真琴「ジョーン！レティー！紹介するからこっちに来てー！」

ジョン、レティ「「オッケー＾＾」」

真琴「ポーラ　紹介するね　こっちのおっさんが『宰相のジョン・フレデリック公爵』」

ジョン「おっさんは無いだろ？お初にお目にかかります　ジョンと

申します　姫様＾＾」

真琴「で、こっちの美人さんが『国防相　将軍のレティシア・フォンダ公爵』ね＾＾」

レティ「はじめまして　レティシア・・・レティと呼んで下さいね＾＾」

ポーラ「私は　この国の第一王姫のポーラ・トライデント・シャマールです＾＾」

カリフ「近衛騎士団ポーラ姫付きのカリフ・ビトゥルボです」

ギブリ「同じく近衛騎士団（ひめのおもりやく）のギブリ・エッセエスです」

ポーラ「ギブリ！だれがお守り役ですの！」

ギブリ「ふーw・・・たまには尻拭い（あとしまつ）役の身にもなってほしいもんですな・・・」

真琴「お！あたしギブリさんとはめっちゃ気が合うかもしんない！」

がばっ！

真琴「うわっ！めっちゃ油断した！・・・兄貴ってば！はなれろ！」

カミヤ「ほかの男と付き合うなんておとーさんはゆるｓ「ばかたれ！（バキッ！）」ふぇぶっ！」

カミヤ「だから　ハリセンは痛いって・・・」

真琴「痛くしてんの！で、誰が付き合うだ！あたしは気が合うって言っただけ！」

がばっ！

真琴「うをっ！あーもう、しつこい・・・ってメアリ？」

メアリ「マコトさんが男の人と付き合うなんて絶対許しません！」

真琴「えーと・・・メアリさん？あたしは誰とも付き合いませんよ？」

メアリ「は！ご、ご、ごめんなさいｗ・・・私ったら　慌ててしまって・・・」

メアリさん・・・言い訳になってない様な気がするんですけど・・・ん？・・・

みんなそっちで何を話しているのかな？

レティ「ポーラさんあれがヨコタ国名物の王族漫才です＾＾」

ポーラ「ほう！とてもおもしろいですわ！」

カリフ「王姫が国王陛下をひっぱたくんですか！」

ギブリ「俺もどっかの王姫（おこさま）をめっちゃ叩きたい・・・（ぼそっ）」

リリス「うむ、メアリも漫才（あれ）に　すんなりと混じる様になったか＾＾」

ケイト「でもメアリはもう少しマコトに張り付いていた方が良かった」

メアリ「解りました！もっと張り付きます！もっとすりすりします！ぺろぺろもやります！」

真琴「・・・・・・」

・・・いいですけどね・・・いいですｋ・・・いいｄ・・・泣きたい！・・・ｏｒｚ

♪チャ～チャラチャ～チャ～♪

仲間に恵まれなかったら・・・スタ○フサービスへ＾＾

０２２－０２２（オー人事オー人事）

ピポパピポパ・・・がちゃ・・・

オー人事「はい、スタッフサ○ビスです＾＾」

真琴「えーと、仲間に恵まれないんですが・・・」

オー人事「はい、あの仲間では無理です＾＾」

真琴「・・・・・・・（；¬Д¬）なんですと?」

ぐすんっ・・・もっかいいいかなw・・・・・・・・・・・・orz

と、まあ　飲み会はつづくのですw・・・

16話　涙の部下　上司や仲間に恵まれていないんですw（後書き）

真琴「宿屋の飲み会つづいてるねー」
レティ「ですよねー」
ジョン「まー、ほぼ終わってるから次回は話変わるんじゃね？」
ポーラ「おーほほほほほほ！まだわたくしのターンですわ！」
カリフ「いやいやw」
ギブリ「もう　おわっとるがなw」
リリス「うむ、そろそろ私のターンか？」
ケイト「リリスは寝相が悪いから無いんじゃない？」
リリス「ケイトの寝相だって変だぞ？」
ケイト「じゃあ次回の主役はだれがするの？」
メアリ「わ、わ、わわわ私がやりたいです！（マコトさん相手で＾＾）」
カミヤ「うん、女の子なら良いかな？」
マコト「やだ！（σ´□`）σ」

どーもです＾＾作者のM２－１０１５です！
更新が少し遅くなりまして・・・さらに中身も少なめですいません
急な出張でして・・・いや、言い訳はしません
申し訳ありません

さて　次回は宿屋での1泊と次の日にギルド訪問の予定です

それでは皆様にたくさんの笑顔が訪れますように＾＾
では＾＾ノ

17話　涙の再開　要らないおまけって　ほんとに要らないですよねw！　それ

真琴「うい～・・・」
レティ「あら？元気ないわね？」
ジョン「ん？マコトどした？」
真琴「ん・・・飲みすぎたw・・・」
ロッテ「お薬あげましょうか？」
真琴「・・・いらない・・・それよりも・・・」
ジョン「それよりも？」
真琴「今回はあたし、出演しないほうが良い予感がする・・・」
ポーラ「おーほっほっほっほっほ！代わりにあたくしが出てさしあげますわ！」
カリフ「ひ、姫様・・・少しはひかえてくださいよw」
ギブリ「まわりの空気読め！この姫様は！」
ずるずる・・・↑（2人に引きずられて退場するポーラ）
レティ「んじゃ、とっても嫌なんだけど私が主役やってあげるね
嫌なんだけどね」
ジョン「・・・・・・」
カミヤ「・・・・・・」

ユキ「それでは皆さん！17話のはじまりで～す＾＾」
キャーｑ（≦≡∇≡≦＊）（＊≦≡∇≡≦）pキャー

全員「「→だれ？」」」

17話　涙の再開　要らないおまけって　ほんとに要らないですよねw！　それ

Ｓｉｄｅファスト

おはようさんっス！
昨日はかなり遅くまで　みんなで飲んでたので　まだ眠いっス！
て言うか・・・二日酔いで頭が割れそうっス・・・熱いシャワーが
欲しいっス！
なのに朝も早(はよ)から師匠に連れてこらてしまったっス！
何処へって？
女の子が４人で寝ている部屋の前っス・・・マズイって言うか・・・
命が危ないって言うか
・・・とっても危険(デンジャー)だとめっちゃ思うっス！

カミヤ「（皆さん　おはようございます・・・只今　朝の５時です・
・・（＝＾ω＾＝））」

レティ「（おはようございます＾＾私達は　今、マコトと３人娘が
寝ている部屋の前にいます）」

ファスト「（師匠・・・ほんとにやるんスか？・・・ってか『皆さ

ん』ってだれっスか！？）」

カミヤ「（やるよ＾＾・・・ほれ、ファスト　強制開錠（ピッキング）しろ＾＾）」

レティ「（大丈夫よ　夕べあれだけ飲んでたし・・・簡単には起きないわよ＾＾）」

ファスト「（うｗ・・・強制開錠（ピッキング）っスかｗ・・・）」

師匠・・・なんでそんなに楽しそうなんっスかｗ・・・
レティさんもなんでそんなにキラキラ目してるんスか？
解ったっスよ・・・開けるっス・・・やるっス！・・・ここをこーして・・・

かちゃかちゃ・・・がちゃ！

ファスト「（開いたっスよ・・・）」

あ～あｗ・・・これで俺も共犯っスねｗ・・・（´；ω；`）ショボン

カミヤ「（1、2、3、で開けるぞ？）」

ファスト「（いち！）」

レティ「（にい！）」

カミヤ「（さん！）」

かちゃり・・・・・・・・・カプッ！

レティ、ファスト「「カプッ？」」

Ｓｉｄｅ真琴

えーと、今の状況は飲み会と言う名の夕飯後に部屋にもどって寝る所なんだけどｗ・・・
こいつらときたらｗ・・・

リリス「うむ！城の将軍（やつら）共いつか全員撲殺！」

ケイト「ふふふ・・・いつかぶっ殺す・・・ふふふ」

メアリ「あー、マコトさん　今晩こそ抱いてください！＾＾／／／」

真琴「・・・だれだｗ・・・こいつらにここまで飲ましたの・・・
ｏｒｚ」

あーｗ！この酔っ払いどもが！
ポーラ達と仲良く？おしゃべりした後で夕飯になったんだけどね・・
・
夕飯の後でまた飲み会になっちゃったんだよね～ｗ

ケイトとリリスはなんかグチってるし・・・メアリはくっついてくるし・・・
（まー学校でもくっついてきてた娘が居たっけ・・・ユキちゃん元気かなぁ・・・）
だがしかし！部屋まではこぶのだって大変だったんだからね！
あーもう！きみたちはもう早く寝なさい！

あ、そうそう　ポーラ達はお忍びで来てたから夕飯はお城で食べないと怒られるらしいので
あたし達がここに来た理由は　後日お城で伺いますって事で帰りました＾＾

リリス「ぐが～・・・ぐが～・・・」

ケイト「・・・（ピーン！）・・・」

メアリ「すうすう・・・」

真琴「ふうw・・・やっと寝たかw・・・さて、あたしも寝るかな・・・」

リリスってば『ぐが～』って・・・相変わらずですねw・・・
それにしてもケイトってあんな寝方で肩凝らないのかな？
そだ！取り合えずメアリの手足は縛って置こうね＾＾
また　こないだみたいにぺろってB地区を舐められたらたまんないモンね・・・

んじゃおやすみなさーい！＾＾

「マコト・・・」

「んにゅ？」

「マコト・・・起きて下さい」

「ありゃ・・・アルさん？」

「こんばんわ＾＾」

「どーも＾＾（あー、やっぱアルさんはイケメンだねぇ～　癒されるぅ～）」

「・・・照れます・・・（〃ノω）σ―　モジモジ」

「心の中読まれた！（てか、照れてるイケメンもそそるなぁ～／／／）」

「いちおー神なので・・・」

おう、今までも読まれてたのネン・・・恥ずかしい～～・・・／／／

「それでですね　ももちゃんなんですが・・・あのですね・・・」

「え！会えるんですか！」

「・・・えーと、それはＯＫなんですが・・・なんと言うか・・・」

「アルさん？歯切れが悪いですよ？・・・なんかありました？」

「ごめんなさい！ｍ（＿　＿）ｍ」

へ？アルさんが土下座で謝ってる？・・・ふむふむ・・・ほーう・・・なるほど・・・

えーとね　アルさんが言うには　ももちゃんが神界でたくさんの神様に可愛がられたらしくて

いろんな能力（ちーと）を貰っちゃったみたいなんだよね・・・ただの猫ではなくなって

神獣？以上になっちゃったらしいんだけど・・・言わば『超神獣』

って感じ？

「アルさん　ももちゃんは元気なんでしょ？だったら別に気にしないよ？＾＾」

「ありがとう！・・・ついでにもうひとつあるんですが？」

「へ？まだあんの？」

「はい・・・ももちゃんをここへ連れてくる時にももちゃんと一緒に居た方を間違って連れて来てしまったんですが・・・送り返そうとした所　いやがってしまって・・・どうもマコトさんのお知りあいらしくて・・・逢わせろー！って暴れてしまって・・・かなりの被害が・・・」

「ん？だれなんだろ？」

「霧矢（きりや）ユキさんって方なんですが・・・ご存知ですか？」

「えー！クラスメイトで拳法部のユキちゃん！？」

「やっぱり知り合いだったんですね・・・」

ももちゃんは嬉しいけど・・・ユキちゃんか～・・・ややこしいのが来ちゃったなぁ～・・・

まあ基本的にやさしい娘なんだけどね・・・あたし絡みで怒ると

笑顔で相手を
ぶん投げるからなぁ～・・・親父さんの弟子であたしの家や道場にも良く来てたし・・・
さらに学校じゃ『真琴親衛隊』の隊長で裏番だったしw・・・
んん～、メアリ達とけん制しあってくれればいいけど・・・共闘されたら絶対やばいよね・・・
何がって？主にあたしの貞操がですw・・・
だって、ユキちゃんってば百合っけがあるんだもんw・・・

「えーと、アルさん・・・ユキちゃんには　何か能力（ちーと）を与えちゃったのかな？」

「私はレティさんと同じ位の能力だけはあげましたけど・・・」

「そか・・・」

うん、あたしや親父さんと同等だと絶対にまずいもんね・・・あの娘の性格だと
魔力があたし並にあったらどっかの国を1人で滅ぼしそうだもんね・・・
まあ、ユキちゃんの事は後で考えるとして・・・

「で、アルさん　ももちゃんとは今すぐ会えるの？」

「会えますよ＾＾呼んでみてください」

「もも～～！あたしだよ～～！おいで～～！」

どどどどどどどど！

どどど？・・・・・@@！・・・・・・・は！・・・・えーと・・・
固まっちゃいました！
だって・・・でかいんです！・・・何がって？そりゃももちゃん？
がです！
あたしの知ってるももちゃんは　アメショのももちゃん1歳（♀）
なんですが・・・
なんであたしよりでっかいんだ？・・・目の前でお座りしてるんだ
けど・・・
お座り状態で2mはあるぞ？・・・・・・ん？・・・・
ありゃ？・・・尻尾が2本になってません？・・・猫又？

「・・・えーと・・・ももちゃんなのかな？」

「がう！（飛びかかり！）ぺろ！（なめ！）」

『がう！』って虎ですか！そんでもってめっちゃ重い！
舌がザラザラって生易しいもんじゃ無い！こりゃ『やすり』いや『
グラインダー』だぞ！
あたしの玉のお肌が削られる～～

「もも！ももちゃん！タンマ！ちょっと待って！なめんの痛いから！」

「すいません・・・神々のせいで　この様に・・・あと、人型にも変身できます・・・」

「へ？人間に変身できるの？」

「はい・・・人型なら会話もできますよ」

うわ～、なんかめっちゃテンプレなんですけど・・・親父さんの喜ぶ姿が目に浮かぶぞ・・・
（＝＾ω＾＝）どや～　↑こんな感じでｗ・・・

「人外の生き物と話す『念話』の魔法をマコトさんに施しておきますね・・・それなら
この状態のももちゃんとも会話できますし、その方がこれからも色々と便利でしょう」

「あ、それは便利かも＾＾」

「では、えい！・・・できましたよ＾＾」

はや！・・・相変わらず早いですねー・・・どっかの牛丼屋みたい・・・

「では、ももちゃんとユキちゃんをマコトさんの部屋へ送りますね・・・えいっ！」

「はや！」

ん？・・・あれ？何か大事な事を忘れているような・・・ん？・・・・

「えーと　アルさん、あたしは今回も魂だけがここに来てるんですよね？」

「はい＾＾」

「で、身体は部屋のベットの上ですよね？」

「はい＾＾」

「あたしの魂が戻らないとまったく動けないんですよね？」

「はい＾＾」

「って事は身体を好き放題さわられても何も出来ないんですよね？」

「はい＾＾」

「で、アルさんは　ユキちゃんをあたしの部屋へ送っちゃたと？」

「はい＾＾」

って事は　あたしの身体はあっちにあって動けなくって・・・そこにユキちゃんが居る！？
やば！メアリよりもやばい！ぺろぺろだけじゃ済まないかも！

「ア、ア、アルさん！あたしを直ぐに帰してください！」

「はい？もう帰るんですか？ゆっくり上司のグチでも聞いてほしかったのに・・・」

「いやいやいや！あたしの身体が危ないんです！デンジャーなんです！」

「でも　もう少し話したいことが・・・」

「いやいや！それはまた後で！早く帰らせて！」

「？・・・なんだか解りませんが・・・分かりました・・・ではまた＾＾ノ」

「またね～！・・・あ、ももちゃんの件、ありがとでした～＾＾ノ」

急がないと！・・・あぁ～ｗ・・・でもあたしってば低血圧なんだよねｗ・・・
起きれるかな？

Ｓｉｄｅレティ

ファストの強制開錠（ピッキング）の腕はさすがね・・・部隊で１番だけの事はあるわね

さあ、みんなの寝起きはどんなかしらね・・・わくわく＾＾

カミヤ「（１、２、３、で開けるぞ？）」

ファスト「（いち！）」

レティ「（にい！）」

カミヤ「（さん！）」

かちゃり・・・・・・・・カプッ！

レティ、ファスト「「カプッ？」」

・・・・・@@!・・・・・・・カミヤの背後に・・・何か圧し掛かって・・・
って!なに!何ナノ!あの生き物は・・・カミヤが頭からかじられてる!
拳銃を・・・あ、私たち丸腰だったんだわ・・・

カミヤ「あー、レティにファスト・・・甘噛みだから心配は要らないと思う・・・たぶん」

レティ「え?だって・・・頭から血がしたたってるんだけど・・・」

カミヤ「あー　その　なんだ、こいつは・・・多分ももちゃんだと思う・・・」

レティ「ももちゃんってペットの?・・・こんなに大きかったっけ?」

カミヤ「真琴から聞いてたんだが神様が預かってくれていたらしい」

レティ「ｏｒｚ・・・規格外は飼い主に似たのね・・・はぁ・・・」

ファスト「師匠のかっこ見てると銀〇の銀さんがさだはるに噛み付かれている様にしか
　　見えないっス!むしろそのままっス!」

カミヤ「俺が坂田〇時なら　ファストは志〇新八だぞ?・・・いや、マダオか山崎か?」

ファスト「あたしゃ弄られ役っスか！」

カミヤ、レティ、もも「「うん、そうだね＾＾（がうっ！）」」」

ファスト「・・・もういいっス・・・」

ごそごそもぞもぞもみもみ

マコトの布団が動いてる？・・・あの低血圧が動いてるなんて・・・

レティ「マコト？・・・起きたの？」

Ｓｉｄｅユキ

あーん！お姉さまお姉さまお姉さまお姉さまお姉さまったらおねいさま～～～！

ユキ感激です！やっと会えました～～～！

キャーｑ（≧≦∇≦≧＊）（＊≧≦∇≦≧）ｐキャー！！！

あ、ユキはレ○ぢゃないですよ?ただお姉さまに憧れてるだけですよ?勘違いしないでね?
ユキは○ズぢゃないんですよ?・・・大事なことだから2回言いましたよ?

それにしたってお姉さまに直ぐ合わせないなんて　あの神様達ってけちんぼなんですもん!
でもアルって神様は色々と説明してくれて　魔力までくれたけど・・・
他の神様(やつら)達ったら知らん振りして!
まあ、半殺(ぶっころ)してあげたら　なんか色々と能力くれたから・・・ま、良いのかな?

いやいや!それよりもおねいさまです!
うん、熟睡してますね~~^^・・・ごくり・・・くんくん・・・良い匂いです^^
では、服を脱がせて・・・あ~ん!下着は薄いピンクで上下お揃いですか!
キャーq(≧∇≦＊)(＊≧∇≦)pキャー

「ハァハァ・・・じゅるっ・・・では、いただきま~す!」

両手を合わせて拝みます^^
で、ブラをずらしてっと・・・くんくん・・・ハァハァ・・・ぺろぺろ・・・ハァハァ・・・
いやん!B地区が硬くなってきましたよ!・・・感じてるんですね

！・・・ハァハァ・・・
もみもみ・・・あ～～小さいながらもやわこい・・・ハァハァ・・・

かちゃ・・・・・・かぷっ！

あら？だれか来ました？ちっ！良い所でじゃまですか！・・・でも
『かぷっ』てなんです？
ん？話し声も聞こえますね・・・

レティ「マコト？・・・起きたの？」

やば！こっちに誰か来る！

もぞ・・・もぞもぞ・・・「ん、んん～・・・」

げ！真琴お姉さまが起きそうです！
ユキってばもしかしてピンチ？

神様！ユキのお願いです！このピンチを救ってください・・・

って、あのボケた神様達（やつら）じゃ無理なんじゃね？
あーw！もっとボコっとけばよかった！

そうだ！ワンタンメン？いや・・・ワンタンスープ？・・・ワンタン餡かけ？・・・

えーと、なんだっけ？・・・あ！そうそう　ワカンタンカって神様からもらった性転換魔法を

真琴お姉さまに・・・えいっ！・・・あーん！男のお姉さまも素敵です！

キャーｑ（≧≦∇≦≧＊）（＊≧≦∇≦≧）ｐキャー

で、ユキにはこの変身魔法で・・・えいっ！

これで完璧なのです！・・・たぶん？

キャーｑ（≧≦∇≦≧＊）（＊≧≦∇≦≧）ｐキャー・・・・・・

って、つづきは次回ですって？

17話　涙の再開　要らないおまけって　ほんとに要らないですよねw！　それ

真琴「・・・やっぱり嫌な予感が当たったw・・・」
レティ「次回はどうなっちゃうのかしら？・・・心配だわ」
メアリ「ユキさん！ゆるしません！」
ユキ「ん～、でも男の真琴お姉さまも素敵で良いですよ？」
メアリ「・・・ユキさんとはうまくやっていけそうな気がします・・・」
レティ「あーあ・・・やっぱりそうなったかw」
ジョン「結託したな・・・」

カミヤ「でも真琴は男になってもあんまし変わりそうにないんじゃね？」
真琴「・・・（ピシッ！＾＾＃）・・・」
ジョン「あー　マコト、　一応聞くが・・・今回は何持ってく？」
真琴「これ」
ジョン「Ｍ１０９Ａ６　パラディン・・・１５５ｍｍ自走榴弾砲ね・・・」
レティ「みんなー！危ないから離れるわよー！」

真琴「食らえ親父！３０発は覚悟しろよー！」

どーもです＾＾作者のＭ２－１０１５です
まずご報告です
プライベートがちっとばかり忙しくなってきました
更新が少し遅くなりそうです　まあ出来るだけ早く更新はするつもりですが＾＾

で、今回も新キャラでました！
ちょっとユキちゃんのキャラを濃くしすぎましたかね？
次回は『男の娘は真琴』『ももちゃんとヤキモチ娘』『義春が女？』
の３本です
（うそぴょ～ん＾＾）

是非『お気に入り』に登録して評価をお願いします
皆様の感想などもお待ちしております＾＾

それでは皆様にたくさんの笑顔が訪れます様に＾＾
では＾＾ノ

真琴「・。。（ノД､）ぇ〜ん　！・・・股間に変なものが〜〜w・・・」
メアリ「そ、それも運命です・・・マコトさん・・・」
ユキ「ハァハァ・・・」
リリス「ぐが〜・・・ぐが〜・・・」
ケイト「・・・はぁ〜w・・・」
真琴「・。。（ノД､）ひ〜ぇ〜ん　！」
レティ「とんだ災難ね・・・マコト・・・」
ジョン「どーなるんだ？いったい・・・」
カミヤ「まあ、ユキちゃんは前からいたずらっ娘だったしなw・・・」
ファスト「とばっちりはいやっス！」
真琴「・。。（ノД､）ひ〜ぎゃ〜ん　！」
レティ「どーする？マコト泣きやまないわよ？」
マック「レーション食ったら直るって＾＾」
全員「「「直らんわ！」」」
ポーラ「それでは第１８話はじめますわ！」
（お〜ほほほほ！あたくしがタイトルコールを言って差し上げましたわ！）

18話　涙のもっこり　あぶのーまるな同級生と王都でコメディアン！えーw

Ｓｉｄｅ真琴

ん・・・んん～・・・なんか身体が重い様なｗ・・・ん？でも部屋にもどれたのかな？

「ん・・・んん～・・・」

もぞもぞごそごそ

ん・・・あぅ？・・・だれか身体に引っ付いてるのかな？
あー・・・寝起きはだめだｗ・・・頭が働かないｗ・・・

あれ？違和感（もっこり）？・・・

ん？・・・あり？・・・んん？・・・なんだ？・・・身体が・・・
なんか変だぞ？
ん・・・なんか大事なことがあったような・・・
でも　眠いから・・・ま、いーか？・・・
いやいや！・・・この股間にある感触って・・・これってまさか！

ばさっ！

毛布を一気に剥いで　上体を起こし・・・ん？・・・あれ？・・・
えーと・・・
隣で横になってる人って・・・

真琴「へ？あたし@@！？・・・あたしがいる？なんで？」

偽真琴「あん・・・夕べは　す・て・き　だったわん・・・（＊／∇／＊）ポッ」

真琴「へ？」

夕べ？素敵だった？・・・それって情事の後のセリフだよね？
あたしとあたしでやっちゃった！？

真琴「うん、夢だね・・・んじゃおやすみ～＾＾」

偽真琴「いやん・・・また寝るの？」

真琴「うん　寝ます・・・」

やだ、声まで一緒だよ～～ｗ・・・でも　聞こえない聞こえない、
な～んにも聞こえません！
よし、奥儀『現実逃避』だ！だって　これは全部夢なのですから・・

・たぶん・・・

レティ「マコトが2人？・・・あれ？でも何か変な違和感が・・・」

カミヤ「・・・この真琴達は　片方は男で、もう片方は女だな・・・」

ファスト「@@！マジっスか！？」

あ～んw・・・レティw・・・やっぱりあたしってば2人居るのねw・・・

へ？親父さん？・・・片方が男？・・・なんつった？・・・今、男って言ったか？

は！この違和感（もっこり）の正体はもしかして・・・

はずかしいけど・・・イヤだけど・・・さわってみまーす！・・・

ドキドキ・・・握りっ！

あ、あ、ある！なんか棒状のモノが・・・ある！・・・イ、イヤーーーーーーッ！

。・。・。・（（（（ｐ（≧□≦）ｑ））））・。・。・。ウワーン！！

ええ、ええ、あたしゃめっちゃ固まりましたさ！

だって　ふれちゃったんですよ？触（さわ）っちゃったんですよ？に、握っちゃたんですよ！？

はぢめて触った男のモノが自分のなんて・・・泣くぞ？・・・・・・

ｏｒｚ

カミヤ「よし！おまえら2人とも動くなよ？動いたらメるからな！・・ファスト！レティ！
武装して来い！で俺の武器も持ってきてくれ！」

レティ「解ったわ！」

ファスト「了解っス！師匠のも持って来るっス！」

親父さんってばマジの殺気ですよ・・・マジで怒ってるの久しぶりですねw・・・
でもどうしよう・・・あたしが男の子になるなんて・・・
それにこのもう一人のあたしって・・・どーゆー事なの？
うw～～まだ寝起きだから頭がうまく働かないよ～～・・・

真琴「兄貴～～w・・・あたし、男の子になっちゃったw・・・グスン・・・」

偽真琴「あら、真琴は私ですよ？」

ケイト「うるさいです！・・・ゆっくり寝てられないｊｙ・・・はぁ？・・・マコトが2人？」

メアリ「ｗｗｗ！ｗｗｗ！ｗｗｗ！」

ケイト「！メアリ！誰に縛られたの！・・・今、助けるからね！」

カミヤ「ケイト・・・そこにあるマコトの武器を先にこっちへ！」

ケイト「解った・・・メアリは少し待ってて」

あ～～w・・・メアリ縛ったのってあたしだw・・・
そりゃそーだよねw・・・メアリは縛られてるし・・・あたしは2人いるしw・・・
だれがどー見たって不審な状況だよ・・・

ケイトがあたしの武器を退かして　メアリの拘束を解いて・・・
って親父さん！背後からももちゃんにかじられてますよ・・・がじがじってw・・・
頭から血がしたたってますよ？
そこはだれも突っ込まないんかい！？・・・いや、突っ込んだら負けなんだろーなw・・・

ケイト「カミヤさん・・・これはいったい・・・」

カミヤ「俺にも解らん・・・どっちかが本物の真琴だと思うんだが・・・」

メアリ「え？・・・マコトさんが2人！？・・・1個もらってもいいですか？」

リリス「ぐご～・・・ぐご～・・・」

全員「「「・・・リリスw・・・」」」

リリスはこのうるさい中でよく寝てられるなw・・・

う？メアリ？・・・なんであたしをじっと見つめるかな・・・

メアリ「あ、あ、あ、あそこのマコトさんって男のマコトさんですか！本物の男ですか！？
　　ε＝ε＝（ノ≧∇≦）ノ　キャー！（抱きしめ！）私、これが良いです！ください！」

そう言ってビシッとあたしに指をさすメアリ・・・
メアリw・・・おまいはw・・・って言うか　偽者のあたし？も抱きついてるしw・・・

でもさぁ・・・女の子って良い匂いなんだなぁ～・・・やわらかいし・・・
メアリってば可愛いのうw・・・偽真琴（あたし）もこうして見ると可愛いんだね～・・・
まつげ長いし＾＾・・・キュートな唇だし＾＾・・・まあ胸は小さいけど・・・

は！いかんいかん！あたしってば考え方も男の子になってる！？

ムク・・・ムクムク・・・

ん？・・・なんか棒状のモノがだんだん大きくなってきているんですが・・・イヤ～～～～ッ！！
ねえねえ！こ、こんなに大きくなるモノなんですか！・・・あたし大ピンチです！

びーん！
。・。。・（（（（ｐ（≧≦□≦≧）ｑ）））・。。・。ウワーン！！

カミヤ「メアリは取り合えずこっちに来なさい・・・真琴達もみだれた服を直しなさい」

偽真琴「わかったわ」

真琴「へ？」

ちらっと身体を見ると・・・服着てないじゃん！
イヤ～～～ッ@@！あたしってば下着姿だったのね！
上(ぶら)はちぎれて壊れちゃってるしｗ・・・アンダーが大きくなったからかな？
下(ショーツ)は何かがビックにもっこりしてるしｗ・・・ｏｒｚ

取り合えずベットサイドに落っこちてるカーゴパンツを履いて・・・
ブラは棄てるかｗ・・・おきにだったのにｗ・・・で、ジャケットを羽織って・・・
うん、取り合えずこれでいいかな？

がちゃ・・・

ファスト「師匠！カタナとＭ１６Ａ２（ライフル）っス！」

カミヤ「おう、ありがと」

レティ「で？マコト・・・どーゆー事なの？これは・・・」

レティw・・・どーゆー事なのかはあたしがとっても知りたいですw・・・
あれ？・・・そー言えば・・・ユキちゃんはどこ行ったんだ？
アルさんの話だとここに居るはずだよね？・・・ももちゃんはちゃんと居るんだしね・・・

は！これってもしかして・・・ユキちゃんのしわざ？

Ｓｉｄｅユキ

やばいです！大袈裟な事態になってます！赤いヘルメット被ってどっきりの看板だしても
『ノロさん』に変身しても　これは納まらないとめっちゃ思います！
『獅子ドジョウさん』ならもしかして・・・って何十年前のＴＶですか！
無理無理！どーしよう・・・制裁確実ですw・・・
だって外人さん達から銃と剣を向けられてるんですよ？
それに　真琴お姉さまのお父さん、物凄く怒ってる？・・・

どーしよー・・・潔く謝っちゃうかな？

Ｓｉｄｅ真琴

偽真琴「あの・・・すいませんでした！ｍ（＿＿）ｍ」

全員「「「へ？マコト？」」」

偽真琴「いえ・・・私は真琴お姉さまに変身してるだけなんです・・・ごめんなさい」

ケイト「！変身魔法！・・・使える人がこの世にいたなんて・・・」

カミヤ「真琴お姉さま？・・・って事は・・・ユキちゃんなのか？」

ユキ「はい・・・今、変身を解きます・・・えいっ！」

真琴「やっぱりユキだったんだね・・・」

ユキ「へ？お姉さま！私だって分かってくれていたんですか！・・・これは愛です！」

キャーｑ（≧∀≦＊）（＊≧∀≦）ｐキャー

真琴「いやいやｗ・・・アルさん・・・神様から聞いたんだよｗ・・・」

ユキ「（，・ω・、）しょぼーん・・・」

カミヤ「ユキちゃんだったのか・・・びっくりしたぞ・・・」

レティ「その娘ってマコト達の知り合いなのね？」

ファスト「知り合い・・・撃つとこだったっス・・・」

みんなも取り合えず敵意の無い事が解ったので矛を収めたね・・・
アルさんから聞いたユキちゃんがこっちに来た訳をみんなに話してっと・・・
ユキちゃんからも話させて・・・ふ～ん・・・へ？・・・あらあら・・・おう！
ってか、ユキちゃんってばあたしに会いたいだけで来ちゃったのかい！
神様に魔法も教わったってか！・・・ケイトがジト目で羨ましそうに見てるぞ？

真琴「で、ユキ！あたしも早く女の子に戻してよ！」

カミヤ「へ？もう、戻ってるんじゃないのか？だっていつもと変わｒ「ボケーッ！（バシッ！）」
フェブｗ！・・・」

真琴「兄貴！おまいは！はったおすぞ！」

カミヤ「ｗｗｗ・・・男の娘だと力も強いｎ「ああ！なんだって！凸（、Д，＃）」ごめんなさい」

このクソ兄貴はｗまったく！・・・
でも男の身体の方が確かに体力があるな・・・動きも速いし・・・
いやいや！あたしは女の子に戻るんだい！

真琴「さあ！ユキ！さっさと元に戻しなさい！」

メアリ「え～～ｗ・・・」

真琴「メアリってばｗ・・・ユキちゃん、やって・・・」

ユキ「はい・・・分かりました・・・ではいきますよ・・・えいっ！」

がば！

真琴「ば、ばか兄貴！・・・今　抱きついたら・・・あーあｗ・・・遅かったｗ」

カミヤ「あら？・・・おお　真琴！俺の胸　真琴よりでっかいｚ「ばかもの！（ぱからーん！）」

うぐはっ！・・・」

真琴「兄貴はどーして話をややこしくしようとするかな！」

カミヤ「だっｔ「だってじゃない！」すいません・・・でも、どたぷ～んって・・・」

真琴「あ！なんだって？そして全国の三浦さんファンに謝れ！」

カミヤ「さーせん！」

真琴「ももちゃんがくっついたままなんだからね！あーあ、ももちゃんが♂になってるｗ・・・」

なんだかんだでユキちゃんに魔法で戻して貰ったんだけど・・・

メアリ「ううｗ！男の娘のマコトさんカンバーック！。・。（。⊃ω⊂。）。・。ビエーン！」

ユキ「・・・あのもっこりが忘れられません・・・（〃ノω）σ―モジモジ」

真琴「・・・」

ケイト「変態まｈもとい、変身魔法・・・覚えたいです・・・（イタズラに使えそうです）」

リリス「ぐが～・・・ぐが～・・・ぐが～・・・」

全員「「「「リリス！まだ寝てたんかい！！」」」」

リリス「・・・うみゅ？・・・・」

さてさて・・・取り合えず朝食の席でユキちゃんとももちゃんを皆に紹介しましたけど・・・
俺もマコトの男の娘を見たかった・・・ってジョンさんw
ベルさん！なにもう一度魔法をかけろってユキちゃんにお願いしてるんですか！
ロッテにリアもわくわく顔でお願いしないで！

ふーw・・・参ったね・・・めっちゃ疲れるよ・・・
あれ？そー言えば・・・確かももちゃんって人間になれるんだったよね？
ももちゃん1歳だからお約束のネコ耳幼女かな？＾＾見てみたいですね～・・・

真琴「ももちゃん、人間に変身できるよね？」

もも『できるよ～・・・やってみる？』

真琴「うん＾＾」

でっかいももちゃんが光りだして・・・うっ！眩しいｗ・・・
光が収まるとそこには・・・

・・・・・@@！！・・・・・・・は！固まっちゃいましたよ？
だって、でかいんです！・・・何がって？そりゃーあれですよ
胸です！バストです！乳です！おぱ～いです！・・・
変身したももちゃんは　グレーでアメショ柄のボディコンっぽいワンピースを着てて・・・
レティも真っ青なクールビューティな女の人で・・・そしてでかい・・・
GかHはあるんじゃね？
レティがメロンならももちゃんはスイカだねｗ・・・・・・あ、軽く凹んできたぞ？

真琴「えーと、ももちゃん？なんで大人サイズなの？特に胸とかｗ・・・」

もも「わかんにゃい・・・なんで大人にゃんだ？・・・神様のせいにゃのかにゃ？」

真琴「・・・あたしも神様に会ってるんですがｗ・・・・・・・・ｏｒｚ」

がば！がば！がば！

真琴「またかい！バカ兄貴・・・って、メアリとユキもかい！」

メアリ「マコトさん！ユキさんには負けません！・・・（＊ ゜∀ ゜）＝３ハァハァ」

ユキ「あ～ん！真琴お姉さま～！愛してます～！・・・（＊ ゜∀ ゜）＝３ハァハァ」

カミヤ「やっぱり貧乳（さみしい）を気にｓ「大ばかもの！（ばちこーん！）」ふぇぶっ！」

はあはあ・・・こいつらは・・・ブラしてないんだぞ！すれると痛いんだぞ？

ファスト！親父さんを抑えんかい！・・・いや、ファスト君？ふるふると頭を左右に振らんでも・・・ファストじゃ無理ってか？

ケイトもメアリを・・・ケイトのやつ、楽しんでないかい？

現状でもキツイのに　ユキちゃんが増えたのは　けっこーこたえるぞ・・・

もも「あれ？マコちゃん・・・もしかしておっぱいが小さい事を気にしてるのかにゃ？」

真琴「・・・・・・」

レティ「あらら・・・直球ね・・・」

ファスト「コメントできないっス・・・」

ももちゃんにまで・・・だめだ・・・立ち直れないぞ？
いやいや！がんばるんだ！
ふぁいおー・・・真琴（あたし）！がんばれ真琴（あたし）！・・・・・・・空しい・・・
ｏｒｚ

結局ユキちゃんは　あたしの近衛騎士隊長としてヨコタ国子爵になりましたｗ・・・
まあ、ももちゃんがユキちゃんを見張るって言うからあたしは承諾したんですが
ももちゃん頼りにしてまっせ＾＾

で、その後なんですけど親父さんが朝飯を食べ終わってからというもの
ずーっとめっちゃそわそわしてるんです・・・なぜかって？
ギルドですよ　冒険者ギルド！
みんなで行くことになってましたからね・・・騒いでますよｗテンプレだーってねｗ・・・
だから！満面の笑みでおどるな！・・・爆乳姉（やどのおねい）さんも苦笑ってますｗ・・・
ほんとに親父さんってばｗ・・・

あーw・・・なんか疲れたし憂鬱です・・・お風呂でも入って気分転換したいなあ・・・
でも無いんだよね・・・お風呂w
いっそ作っちゃうか？魔法で作れるんじゃないかな？
後でケイトに相談してみよう＾＾

カミヤ「ね、ね、もういいよね？早く行こうよね！」

リリス「うむ、ではギルドに行くとしよう」

ケイト「近いから歩きでへーき」

子どもですか親父さんは・・・
ギルドは宿から王宮方面に２００ｍほど行った所にあるそうです
おー、今は朝９時くらいなんですが結構人がいますね・・・
ん？・・・冒険者っぽい人がこっちを見てるんですが・・・こそこそ見てる人や
堂々と見てる人、戦いたいそうな人もいるな・・・
あれか？昨日のＣクラス冒険者を１発でのしちゃった件か？
おっさん達にはアンタッチャブルって言っといたのに・・・

なーんて言ってたら着きましたよ＾＾ほ～・・・ここがギルドか～・・・
宿の幌馬車亭ほどは大きくありませんが　それでも結構大きいです
木造ですが　西部劇映画で見た昔の銀行みたい・・・
１階は軽食屋さんを兼ねたサロンが半分でもう半分は依頼の受付みたいですね・・・
２階には何があるんだろ？

ケイト「みんなは少し待ってて　ギルドマスターに盗賊の件とドラゴンモドキの件を
　まずは簡単に報告してくる」

リリス「うむ？ケイト1人で大丈夫か？」

ケイト「最初は私1人でいい・・・1時間位かかるからお茶でも飲んでて」

真琴「写真もあるから要るようだったら呼んでね」

ケイト「解った」

ケイトは1人で2階に上がってっちゃいました
ふー・・・いっぷくしますか・・・なに飲むかね？・・・コーヒーはあるのかな？
って親父さん！何はしゃいでうろついてるの！・・・めっちゃドヤ顔してますな・・・
もうw・・・ほっとくか？
あれ？そー言えばユキちゃんって武器もってたっけ？ももちゃんもだね・・・
どこに居るんだ2人は？・・・あれ？女性陣リリスとメアリを除いてみんな居ないぞ？

真琴「ねえ、あたし達以外の女性陣はどこ行っちゃったの？」

メアリ「報告の時間がかかるんで露店を冷やかしに行ったみたいですよ？」

真琴「そかー・・・あたしも行きたかったな・・・あれ?ユキも行ったんだね」

リリス「うむ、そのユキ殿だが　彼女は皆と同じに強いのか?」

真琴「んー・・・ある意味では強いかな」

リリス「うむ?ある意味とは?」

真琴「ユキは相手の命をうばった事が無いんだよ・・・本格的な武装した相手とも
　戦った事は無いしね・・・でもねー、殺しあいはやったことが無いんだけど
　守るものがあるときのユキはめっちゃ強いよ」

リリス「殺し合いの実戦経験がないのか・・・」

真琴「うん、でもケンカで神様をのしちゃったらしいよ?」

メアリ「か、か、かかかか神様をですか@@!!」

真琴「うん＾＾ユキとの素手でのケンカだったら勝てはするけど苦労はするもん」

リリス「ほう!それは期待できそうだな」

ざわざわがやがや

リリス「ん?・・・表がさわがしい様だが・・・行ってみるか?」

真琴「あー・・・いやな予感びしばしだよ〜・・・」

外へ出てみるとギルドの斜向かいに人だかりがありまして・・・近づくと・・・あら?

レティ達に庇われるように　宿屋の超巨乳(おねえさん)がいましたが・・・

手前で男達相手に暴れてるのはユキちゃんとももちゃんですね＾＾;

真琴「ちょっと!いったいどーしたの?」

レティ「朝から酔っ払って宿の女の子にこいつらがセクハラしてたんだよ!」

ユキ「女の子を力ずくで手篭めにする男なんて最低です!だからユキが教育(ぼこぼこに)してやります!」

もも「わたしも手伝(ぼこ)っちゃいます!ゆるさにゃいんだから!」

真琴「はー・・・しかたないね・・・あたしも手伝おーか?」

ユキ「こんなやつらユキとももちゃんでじゅーぶんです!こんな酒臭い奴らなんて
　ぴぴるぴるぴるぴぴるぴ〜って感じで撲殺です!」

もも「にゃ!」

真琴「そ＾＾がんばってね」

ってユキちゃんってばどっかの撲殺天使ですかw・・・
まあ、酔っ払い相手ならユキ1人でもへーきだしね＾＾ももちゃんも居るし・・・
取り合えずユキちゃんの服に強化の魔法をかけて鎧なみにしとくかね・・・
で、あたしはゆっくり見物するとしますかね＾＾
・
でもね、酔っ払い共がね　余計な言をのたまっちゃったんですよ・・・

暴漢A「小僧！ガキがしゃしゃりでてくんじゃねー！」

暴漢B「坊主は引っ込んでろ！」

暴漢C、D、E「「「そうだそうだ！」」」

な～んてあたしに言っちゃたんだ・・・よし、痛い目に遭ってもらおー＾＾

真琴「よし！ぼk・・・」

リリス「うむ、おまえら！夕べの噂は聞いてるか？」

あり？リリスw・・・止めるのか？

ありゃ・・・周りも『ボム』だ！とか　あたしの事を『夕べの！』とか言ってるしw・・・
リリスがニヤリと笑いながらあたしの方を見ながら言います
リリス、怖いぞ？その笑いは・・・

リリス「噂は本当だぞ？Cクラスの冒険者を3秒で5人ほど無力化したぞ　彼女はな」

真琴「それでもやる？＾＾」

暴漢達「「「「・・・・・・」」」」

リリス「実力差が分かったら慰謝料(めいわく)おいてさっさと帰るがいい！」

ユキ「女の子に暴力振るったら次はないですよ！」

あーゆーのは何処にでも居るもんだねーw
そうだ　宿屋のおねーさんは怪我とか無かったのかな？

真琴「ロッテさんそのおねーさんは怪我とかなかったの？」

ロッテ「ええ、大丈夫よ・・・突き飛ばされた瞬間にユキがかばってくれたから＾＾」

真琴「そかー・・・ユキえらいぞ！＾＾」

ユキ「真琴お姉さま！ε＝ε＝（ノ≧∇≦）ノ　キャー！（抱きしめ！すりすりすりすり）」

真琴「おう！こらっユキってば！胸に顔を擦り付けるな・・・ノーブラなんだからｗ」

ユキ「はい！だからやってます！＾＾」

メアリ「あ！ユキさんずるいです！」

そー言えば　おきにのブラ壊した原因ってユキじゃね？

うん、後でお仕置き決定だね＾＾

がば！

うをっ！油断した！

真琴「兄貴！抱きつくな！はなれろ！今はやばいんだって・・・」

カミヤ「だって男の子扱いされた真琴が不憫ｄ「どあほー！（ぱからーん！）」ふぎゅ！」

真琴「だれが男だ！大バカもんがー！！・・・あん！」

ユキ「すりすりすりすり・・・」

真琴「って、ユキ！まだすりすりしてたんかい！・・・うｗ・・・あん！」

ユキ「あーん、真琴お姉さま～・・・キャーｑ（≧≦∇≦≦＊）（＊≧≦∇≦≦）ｐキャー」

メアリ「あーん！私もすりすりしたいですー」

真琴「・・・・・・・ｏｒｚ」

あぁｗ・・・ユキがこっちの世界に来て絶対ややこしくなったぞｗ・・・

なんとかせねばｗ・・・あたしがまいっちゃうよねｗ・・・

どーしよー・・・。。。（ノД｀）あ゛～ん

Ｓｉｄｅケイト

さて、後はマコト達を呼んで細かい部分を話してもらおう

盗賊の件はまだ良いとしてもドラゴンモドキはギルドだけでは手に負えないかも・・・

王宮で話すのは気が進まないなあ・・・

外に出ると何か人垣が出来てますね

ケイト「マコト、あらかた説明はしたんで詳しくｈ・・・なにしてるの？リリス教えて」

リリス「うむ、宿屋の女性を助けた後に　いつもの漫才が始まったんだ」

ケイト「そう・・・野次馬がいっぱい・・・稼ごうか？」

リリス「うむ＾＾・・・えーみなさん！これが名物ド突き漫才だ！」

ケイト「おもしろかったら御捻りをよろしく」

メアリだけでなくユキさんも混じって・・・なかなかやりますね＾＾
これはけっこう稼げます！・・・マコトさまさまです・・・ふふふ＾＾

Ｓｉｄｅ真琴

『親父さん』プラス『ユキちゃん』イコール『ハルマゲドン？』・・・いやじゃー！

。・・。。。（ノД`）あ゛～ん　！

あたしってば、なんて不幸なのｗ・・・

リリス「うむ、・・・えーみなさん！これが名物ド突き漫才だ！」

ケイト「おもしろかったら御捻りをよろしく」

へ？リリス！ケイト！・・・首都シャマールでもあたしってばコメディアン認定なの！？

・・・もう大道芸人でも漫才師でもコメディアンでも何でもいいです・・・

あーん！だれかあたしに愛の手を！・・・・・・ｏｒｚ

Ｓｉｄｅポーラ（その日のお昼近く）

メラ「姫様、なんでも城下で大道芸人による『名物ド突き漫才』なるものがあるそうです」

ポーラ「ほう！それはおもしろそうですわね！」

メラ「なんでもいきなり路上で寸劇を始めるとか」

ポーラ「是非とも拝見したいですわ！騎士団に言ってその者達を探させるのですわ！」

メラ「姫様、騎士団に探させて如何なさるんです？」

ポーラ「とーぜん城にて催させるのですわ！きっと見ものですわね！」

メラ「御意」

Ｓｉｄｅ真琴

あれ？何か急に寒気がしてきたぞ？・・・・・・いや～な予感がするｗ・・・

ももちゃん、あたしのために今晩ベットで絶対にモフらせてね・・・ｏｒｚ

ねえ、もっかい泣いていい？・・・・。。（ノД､）あ゛～ん！

18話　涙のもっこり　あぶのーまるな同級生と王都でコメディアン！えーw

真琴「おーつーかーれーさーまーでーすー・・・」
ジョン「うんうん、マコトはがんばってたな！」
レティ「えらかったわよマコト！」
カミヤ「俺のほーがえらいけどな」
全員「「「・・・・・・」」」
ポーラ「お～ほほほ！あたくしのほーがえらいですわ！」
カリフ「・・・姫様～w・・・」
ギブリ「場の空気読めよ・・・この姫様（おこさま）はw・・・」
ポーラ「あ、あら？・・・なにをする・・・はなせ！はなすのですわ！」
（ずるずるとひきずられて退場するポーラ）

カミヤ「まあ、今回で真琴の秘密は確認はできたしな」
ファスト「秘密って何がっスか？」
カミヤ「ん？真琴が『体型補正下着（よせてあげて）』を着けてなかったからさ、
　中学時代から育ってなかったってのが確認できたのさ＾＾」
真琴「・・・（ぴくっ！・・・ギロッ！）・・・」
ファスト「あ、・・・し、師匠　俺、用事があるんで失礼するっス！」

ジョン「で？今回は何にする？」
真琴「これ！」
ジョン「F／A18スーパーホーネットね・・・」

真琴「食らえ！クソ兄貴！マーベリック対戦車ミサイル！」

どーもー＾＾作者のＭ２－１０１５です！
寒くなってきましたね・・・関東では明日から更に冷え込むそうです
皆さんも風邪などひかない様に温かくして過ごして下さいね＾＾

次回はギルドマスターとのやり取りがメインです＾＾
入れられる様ならアホの子のポーラ姫との再会ですかね？
設定上の話なんですがポーラお付きのメラさんって
この作品上では１番の美女なんです＾＾
でも例にもれずめっちゃ変な所が・・・ネタばれですね・・・

作者からですが是非『お気に入り』に登録して評価をお願いします
皆様の感想などもお待ちしております
このキャラを取り上げて！と言う要望などもありましたら
番外編等で書いてみたいと思います＾＾

それでは皆様に笑顔がさらに訪れます様に＾＾
では＾＾ノ

１９話　涙のギルド　なんで金ピカなの！？そして貴女はカジられる？（前書き

真琴「・・・ｏｒｚ」
ケイト「儲かったから　おごる」
リリス「うむ、いつもありがとうだな！」
レティ「前回の暴漢、むかついたから蹴っ飛ばしてきたわ！・・・ん？」
ジョン「どした？レティ」
レティ「なんでマコトってば　また凹んでんの？」
ユキ「わかりませーん！」
メアリ「なんでなんでしょう？」
リリス「うむ、なんでだ？」
ケイト「・・・みんな自覚が無い・・・」
真琴「へー・・・ケイトは自覚してたんだ・・・」
ケイト「なんの事やら？」
ポーラ「あたくしの出番が無いでのですわ！」
真琴「うを！びっくりしたｗ・・・」
ケイト「カリフ！ギブリ！我儘王姫（きんぱつドリル）がでしゃばってる！」
リリス「うむ、はやく片付けるがいいぞ？」
カ、ギ「「は～いｗ・・・（ずるずる）」」
ポーラ「やめ、い、痛！そ、そこは痛い・・・はなせ、はなすのじゃ～～！！」

カミヤ「取り合えず始めるか？」

真琴「第１９話始まりま～す！＾＾ノ」

19話　涙のギルド　なんで金ピカなの!?そして貴女はカジられる?

真琴「・・・ｏｒｚ」↑【前回からこのまんま（笑）ｂｙカミヤ＾＾ノ】

ケイト「お小遣いも稼いだし　ギルドに行って禿親父（ギルマス）に細かく説明する」

リリス「うむ、マコトも親子漫才（コント）の『落ちポーズ』を解いてギルドへ向かうぞ?」

リリスさんｗ・・・これはポーズではなく、マジで落ち込んでるんですけどねｗ・・・
それにケイトってば　お小遣い稼ぎってｗ・・・
うん、・・・こいつらには、あれだ・・・きっちり一度は話さないとずっとこのままだぞ?

は!その前に・・・遅くなっちゃったけど宿屋の超爆乳（おねい）さんは平気だったのかな?
まあ、レティが面倒みてたから大丈夫だとは思うけど・・・ん?・・・あれ?・・・

超爆乳さんってば　こっち見て　目がキラッキラしてません？
（＊。∀。）＝3ハァハァ　↑こんな感じで・・・
はぁw・・・もしかして・・・あれですか？・・・また百合系の方なんですか？

真琴「えーと・・・名乗るのは初めてですよね　あたしは真琴って名前なんですけど・・・
　ケガは無かったですか？それとよかったらお姉さんの名前を教えてくれますか？」

ジュリア「うん、ケガは無いよ　心配してくれてありかと＾＾・・・
あたいはジュリア、
　ジュリア・アルファメオ・・・幌馬車亭の若女将なんだ
＾＾」

ほーう、若女将さんだったんだ・・・雇いのウエイトレスさんかと思ってた・・・
しっかし　デカイなあ～・・・うw・・・あたしなんかブラ付けて無くても揺れないのに・・・
お姉さんってばちょっと身体を動かす度に『ぷるんぷる～ん』って揺れてますがな・・・
うん、とりあえず爆発しろ！ってかもげ落ちろ！

ジュリア「ねえねえ、それよりもさ　さっきの小芝居をさ、うちの宿の酒場でやらないかい？
　このシャマールの町には興行をやる劇場が無いからさ、きっと儲かるよ＾＾

ギャラはちゃんとだすよ？7：3でどうだい？」

ユキ「・・・宿でお芝居・・・それって合法的に真琴お姉さまにだきつけますよね・・・」

メアリ「ユキさんには負けていられません！私は『すりすり』もやっちゃいます！」

真琴「・・・取り合えずユキ達はだまっとこーか？・・・もも！ユキに甘噛みしといて！」

もも「はいにゃ！・・・（かぷっ！がじがじ）」

ユキ「あう！・・・い、痛い！地味に痛いですw！」

ネコ状態にもどったももちゃんに頭をかじられて走り回るユキちゃん・・・
頭をカジったももちゃんを引きずりながら逃げ惑うユキちゃん・・・
とってもシュールだ・・・
でもユキちゃん、走り回ったら余計に食い込むんじゃない？・・・
ももちゃんの牙がさw・・・
うん、だけどユキちゃんには　あたしお気に入りブラの仇もプラスだかんね～＾＾
でもジュリアさんは百合系（そっち）じゃ無さそうだよね・・・取り合えずよかったw

ジュリア「で、お芝居はやってくれるのかい？」

真琴「いえ、あれはお芝居じゃないんです・・・ケイト達が勝手に煽ってるだけで・・・」

ジュリア「う～ん、そうなの？・・・じゃあさ、いっその事お芝居にしちゃおう！ねっ＾＾」

いやいや・・・しつこいですよ？超爆乳（おねい）さんｗ・・・
ねっ！て頭を傾げてカワイ娘ぶっても・・・って、ぷるんぷる～ん揺れてるがな！
ん？でもさ、これって頼み事するのはチャンスじゃね？
持ってきた商品販売を宿でやらせてもらえれば宿の酒場にも人がくるだろーし・・・
そだ！ついでに宿にお風呂を作らせてもらっちゃおーかな？

真琴「えーと、ジュリアさん・・・お芝居は出来ないけど別口で提案があるんですが？」

ジュリア「ジュリアでいいよ＾＾で　提案ってなんだい？」

ケイト「マコト　ギルドマスターが早く話を聞きたいって・・・そろそろ行くよ」

あちゃ～、呼ばれちゃったね・・・しゃーない、超爆乳（ジュリア）さんとは後で話すか・・・

真琴「うん、それなんですけど　今はやらなければいけない事があ

って、午後にでも
　宿で詳しく説明させてもらいたいんですが　それで良いですか？」

ジュリア「用事があるんじゃしょーがないわね・・・わかった　宿で待ってるよ＾＾」

真琴「ありがとー＾＾んじゃ後でお願いしますね！」

もも「（がじがじ）」

ユキ「い、痛いですw～～（ジタバタ）」

あら、まだかじられてたのね・・・うん　ユキはももちゃんにまかせてほっとくとして・・・
ジュリアさんとバイバイして　あたし達はギルドへ入ったんだけど・・・
ジョンさん達ってばお酒飲んでるし！
ファストwおまいら二日酔いじゃなかったんか？
まあ、ケイトがくつろいで良いって言ってたんだから良いのか？
ってか、ギルドで酒も出すんかい！
・・・そー言えばさっきのドタバタで何にも飲んでなかったっけ・・・
・喉乾いたな～・・・

リリス「うむ？マコトは酒を飲みたいのか？うらやましそうにジョン殿達を見ているが・・・」

ケイト「マコト　飲むのは後で」

真琴「はいはい・・・解ってますよーだ・・・」

ケイト「メアリとレティさんも一緒にお願い」

レティ、メアリ「「はい＾＾」」

何か飲みたかったけど　あたしは　ノートＰＣを持って　ケイトの案内で２階に上がっていきます
２階に上がると女の人が待ってました・・・って　この人ってば耳が長い！
もしかしてスポック？・・・いやいや、冗談ですよ？エルフさんですよ？
は～・・・何と言うかＲＰＧと同じですねぇ～・・・綺麗です・・・眼福です・・・
だがしかし！なして胸がでかいんだ？・・・レティくらいはあるんじゃね？
これって新手のいぢめか？

カラ「カラ・シニーコフです＾＾このギルドでは副ギルド長をしています・・・
　ケイトさんから皆様のことは伺っていますので・・・さあ、こちらへどうぞ」

真琴「副ギルド長さんなんですか・・・偉い人なんですね～・・・
　あの、失礼かもしれませんが、シニーコフさんはエルフさんなんですか？」

カラ「カラでいいですよ＾＾　おっしゃる通り私はエルフです・・・
確かにシャマールは
　人族の国ですから私みたいな亜人や獣人はめずらしいですよね・・・
　・・・貴方は確かマコトさんですよね・・・ケイトから聞いていたんですが他の方とは
　魔力の量が桁違いに多いですからマコトさんは直ぐわかりましたよ＾＾」

ニコッと微笑むカラさん・・・うわぁ～めっちゃ綺麗やん！親父さんがここに居たら
鼻の下伸ばすんじゃね？・・・いや、それよりも　あれだ・・・
『生(なま)エルフー！』ってテンプレで抱きつくか？・・・親父(あいつ)ならやりかねんw
・・・いやいや、それよりもあたしの魔力量だよ・・・魔力って見て解るもんなのかな？

真琴「へ？魔力の量って見ただけで解るんですか！？ケイトは解んなかったけど・・・」

ケイト「マコト、一言多い」

リリス「うむ、カラ殿は魔術師(メイガス)としてはこの国で一番の使い手だからな」

真琴「へ？それって宮廷魔術師よりも実力が上って事？」

リリス「うむ、シャマール城の魔術師はランクで言えばＡかＢだがカラ殿はＡＡＡだからな」

真琴「は～・・・カラさんってすごいんだね～」

ＡとかＢとかＡＡＡって言ってもあたしは良く解らないのでランクの説明もついでに聞きました
リリス曰く、普通の一般人が最初に登録して成るのが『Ｇランク』なんだって
でも、初めからそれなりに力や魔力を持ってる人はその限りでは無いらしいです
て事は　初めからＳランクとかもあるって事？・・・いやいや、いきなりＳランクは無いよね＾＾

で、ギルドのランクを順番に言うと

Ｇ＜Ｆ＜Ｅ＜Ｄ＜Ｃ＜Ｂ＜Ａ＜ＡＡ＜ＡＡＡ＜Ｓ

ってなるらしいよ
Ｇ、Ｆは初心者でＥ、Ｄで一人前、Ｃクラスでベテランなんだって
普通に一般の人族が冒険者でがんばっていって１０～１５年でＣクラスらしいし、
その頃には体力がピークの３０歳位だからＢランク以上は天性の才能とかがないと
なかなかなれないみたいだねー・・・

ちなみに　Ｂは超ベテランで　Ａだと国が関わってくるほどのベテラン、言わば国家戦術級かな
次のＡＡやＡＡＡは一つの国に何人も居ないらしくて国家戦略級ら

しいよ・・・
んでSランクに至ってはこの大陸に2人しか居ないらしいよ　地球で言えば核兵器ってとこかな？
って！ＡＡＡのカラさんっていったい何者なの？

ケイト「カラは元宮廷魔術師　私の師匠でもあった」

真琴「すごい！・・・ランクＡＡＡ取ってるカラさんって・・・いったい何歳なの？」

ケイト「確か・・・二ひゃ」

カラ「ケイト？昔話はそれくらいにしてね？ギルドマスターがまってるわ・・・行きましょ」

リリス「うむ、私もカラ殿の年齢は聞いたことが無いので知りたいが・・・」

ケイト「空気読め　リリス」

ＡＡＡランクで元宮廷魔術師でケイトの師匠？・・・うわ～めっちゃ興味があるんですけど・・・
で、ケイト？『二ひゃ』って・・・カラさん二百歳超えてるの？
どー見ても２５歳くらいにしか見えないんですけどｗ・・・
確かにファンタジー小説とかでエルフは長寿って聞いたことあるけどさ・・・
う～ん・・・カラさんは過去を話すのがあまり好きではなさそうだ

ね・・・
まあ、そのうち分かるかな？

カラさんに案内されて　重厚なドアの前なんですが・・・いや～高そうなドアですこと！
日本ならこのドアだけで数百万円しそうだねｗ・・・ドアノブなんてキンッキラキンですよ？
あれか？ギルドマスターって　葉巻くわえた油ギッシュな成金おやじみたいなヤツなのか？
でもあたしゃ油ギッシュな手とは握手したくないぞ？

で、カラさんがドアをあけてくれたんだけど・・・
ま、まぶしいです！・・・うわ～ｗ・・・室内も金ピカだよ～ｗ・・・趣味悪～ｗ

ん？部屋の奥に誰か居るね・・・金ピカっぽい人が・・・あれがギルドマスターなのかな？
まぶしくてよく見えないんですけど・・・目をこらしてっと・・・

・・・・・@@；・・・・・・・なんじゃ？あれは？・・・・・・・
は！いかんいかんｗ
えーとね・・・なんちゅーか・・・あれだ・・・格好は我（おれ）さま？
某Ｆａｔｅに出てくる我様王みたいな金ピカの甲冑を着ているんですけど・・・
ポーズも同じだｗ・・・開いた足に両手を腰の横に当てて仁王立ち

w・・・

でも顔がね・・・『なみへいさん』いやあれは『禿ヅラかぶったカトちゃん』か？・・・
そんでもって・・・金髪で頭のてっぺんから髪の毛がちょろっと生えてるって・・・ぷぷぷっ
き、金髪で　てっぺんから　ちょろっと生えてるってw・・・くくくっ・・・

しかもだ、メガネが『牛乳瓶の底メガネ』ってw・・・ぷぷっ・・・
く、くるしいw・・・
レティだって笑いをこらえてぷるぷるしてますよ？・・・うぷぷぷぷっ・・・
ダメ！・・・あたしってば絶対笑ってはいかんぞ！

金ピカ「・・・（ジー）・・・」

なんか禿チャビンなおっさんが　ムスッとしてこっちをじーっと見てるんですが・・・
ぷぷっ・・・笑かすな！おっさん！

カラ「・・・は～w、イタズラはそのくらいにして下さい、ギルド長・・・」

金ピカ「こりゃまた　すつれいすますた！（敬礼）」

カラ「ギルド長！・・・ちゃんと自己紹介して下さい！」

金ピカ「んだば、う～い（敬礼）わだすが～　このぎるどの『ぎるどますたー』をやっとります～
・・・名前は～『チャン・カトー』だす・・・よろすく～
おねげいすますだ～」

ｏｒｚ・・・なぜに東北弁なの？・・・これって、まんまだ・・・
ドリ○のカトちゃんだｗ・・・

カラ「もう！ふざけてないで真面目に自己紹介して下さいよ～～・・・グスッ（；ω；、）・・・」

ケイト「あ、泣かした」

リリス「うむ、見事に泣かしたな」

金ピカ「あ、・・・いや、・・・カラすまんｗ　（アタ　、（ﾞ△ﾞ＝ﾞ△ﾞ）ノ　フタ）」

カラ「・・・グスッ・・・ちゃんと・・・してくれます？・・・グスッ（；ω；、）・・・」

金ピカ「わ、解ったｗ・・・解ったから　泣かんでくれ！」

カラ「はい＾＾ノ」

ケイト「あ、うそ泣き」

リリス「うむ、見事にうそ泣きだったな」

真琴、レティ、メアリ「「「・・・・・・」」」

えーと・・・困ったねw・・・どこから突っ込んでいーのかな?

真琴「（ねえ、レティ・・・どこから突っ込んでいいかな?）」

レティ「（私だって解んないわよw・・・）」

メアリ「（と、取り合えず　終わるまで待ってますか?）」

あーw!・・・突っ込みの居ないコントって辛いw!!・・・
いっそ　あたしが突っ込むか?
あっちの４人で無言のお見合い始まっちゃてるしw・・・

金ピカ「・・・・・・」

カラ「・・・・・・」

ケイト「・・・・・・」

リリス「・・・うむ、ギルド長　つづきは無いのか?・・・」

全員「「「!」」」

よっしゃー！次の展開にいける～・・・空気読めないリリスが居て助かったよ～＾＾

リリス「うむ？マコト・・・今、失礼なことを考えなかったか？」

真琴「いえいえ＾＾流石リリス！話が進むな～？って思っただけですよ？」

リリス「うむ、だがなぜに疑問系（クエッションマーク）なのだ？」

カラ「さあ、そのくらいにして・・・ギルド長、今度こそ真面目に自己紹介を！」

カラさん助かったｗ・・・リリスってば空気は読めないくせに　人の考えは読めるなんてｗ

金ピカ「そうだな　おふざけはこの位にして・・・私は、にゃマール・・・」

噛んだ！今、『シャマール』を『にゃマール』って噛んだよね？

金ピカ「シャマール国本ギルド部所長、『アブ・トゥマット』だ・・・みんなからは
所長と呼ばれてるがね」

って言いながら顔の変装(メガネなど)をはずしてます・・・
へ？変装だったんだ・・・あ、頭はそのまんまなのねw・・・
おう！若い頃のテリー・サヴァラスみたい！結構かっこいいぞ・・・

所長「カラ・・・みんな喉が渇いただろうし　お茶を人数分持ってきてくれないか？」

カラ「はい＾＾」

カラさんがみんなにお茶を入れてくれました・・・おう！アッサムみたいで美味しいぞ！＾＾

所長「さて、君達が遭遇した『盗賊』・・・まあこっちは　いわゆる討伐なんだが
　懸念はもう一つの『新種のドラゴン』についてだな・・・」

まあ、そうだよね・・・イケメン神様のアルさんに頼まれてる『世界の危機』に関わる事だし・・・
どこまで細かく説明すれば良いんだろ？
アルさんからは秘密にしろとは言われてないんだけどねw・・・

ん～～・・・さて、どうするかね？

真琴「お疲れ様でーす！」
レティ「おつかれ～＾＾」
真琴「いや～ギルドの所長ってすごかったね～」
レティ「ええ、なんとも言えない人ね・・・」
ケイト「そう、あの禿親父は人をおちょくるのが趣味」
リリス「うむ、何度切り殺そうかと思ったことか」
メアリ「そうなんですか?まあ金ピカでしたけど・・・」
真琴「でもなんでド〇フのカトちゃん知ってたんだ?」
レティ「そうね・・・確かに変だわね・・・」

ファスト「師匠～！ケイトさんが一旦出て来てからカトちゃんのギャグ説明を
　ちゃんとギルドの所長にして来ましたけど、あれって何でです?」
カミヤ「なんとなく面白そうだからだ!」
真琴「やっぱしおまいの仕業かー!」
レティ「やれやれw・・・」

真琴「ももちゃん!兄貴をかじｔ・・・あ、まだユキをかじってたんだね」
ユキ「い、痛い、痛いんです～～！」
もも「（かじかじ）」

どーもー＾＾ノ作者のＭ２－１０１５です

筆者在住の八王子は朝晩の冷えがだんだんとしてきています
お風邪を引かないように皆様も睡眠と栄養を取ってくださいね

じつはももちゃん、実際にうちで飼っているネコがモデルです＾＾
最近は私のふとんに潜り込んできます
ただ　寝ぼけて横っ腹にツメを立てるので安眠できないのですがｗ・・・

えー今回の話は長くなってしまったので後半は次回へつづきます
出来るだけ早く更新はするつもりですので
見捨てないで生暖かく見守ってやって下さい＾＾；

作者からですが是非『お気に入り』に登録して評価をお願いします
皆様の感想などもお待ちしております
このキャラを取り上げて！と言う要望などもありましたら
番外編等で書いてみたいと思います＾＾

それでは皆様に笑顔がさらに訪れます様に＾＾
では＾＾ノ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7490w/

なんで娘（あたし）が後始末w・・・orz 【異世界編】

2011年11月22日04時05分発行